

武蔵野市気候市民会議 実施の記録

令和5年2月

武蔵野市

目次

	(頁)
第1章 武蔵野市気候市民会議の概要	1
1 趣旨	1
2 会議の日程	2
3 参加者募集	3
(1) 募集方法等	3
(2) 応募状況と参加者の選出	5
4 会議の進め方	6
(1) 開催方法	6
(2) 各回のプログラム	7
(3) グループの分け方	8
(4) ファシリテーターの配置	9
5 記録と公開	9
6 実施体制	9
第2章 会議各回の概要とグループ討議結果	11
1 第1回会議	11
(1) 開催概要	11
(2) 市長挨拶(要旨)	11
(3) 事務局説明	11
(4) ゲストティーチャーによる講演	11
(5) グループ討議結果	15
(6) ゲストティーチャーによる講評	21
(7) 会議後アンケート結果	22
2 第2回会議	30
(1) 開催概要	30
(2) 事務局説明	30
(3) ゲストティーチャーによる講演	30
(4) グループ討議	31
(5) グループ討議結果	32
(6) ゲストティーチャー・アドバイザーによる講評	37
(7) 会議後アンケート結果	39
3 第3回会議	47
(1) 開催概要	47
(2) 事務局説明	47
(3) ゲストティーチャーによる講演	47
(4) グループ討議	48

(5) グループ討議結果	49
(6) ゲストティーチャー・アドバイザーによる講評	55
(7) 会議後アンケート結果	57
4 第4回会議	64
(1) 開催概要	64
(2) 事務局説明	64
(3) ゲストティーチャーによる講演	64
(4) グループ討議	65
(5) グループ討議結果	66
(6) ゲストティーチャー・アドバイザーによる講評	72
(7) 会議後アンケート結果	74
5 第5回会議	82
(1) 開催概要	82
(2) 事務局説明	82
(3) 事務局による報告・紹介	82
(4) グループ討議	82
(5) グループ討議結果	85
(6) アドバイザーによる総評	91
第3章 討議結果のまとめとテーマ別参加者アンケート	93
1 各回グループ討議結果まとめ	93
2 テーマ別参加者アンケート	97
(1) 実施概要	97
(2) 第1部アンケートの結果	99
(3) 第2部アンケートの結果	102
(4) 取組が難しいと考える理由	106
第4章 終了後アンケート	137
1 実施概要	137
(1) 目的	137
(2) アンケートの設問	137
(3) 回答方法	137
(4) 回答期間	137
(5) 回答状況	137
2 アンケートの結果	138

第1章 武蔵野市気候市民会議の概要

1 趣旨

近年、地球温暖化が原因とみられる気象現象の変化が生じ、国内においても、平均気温の上昇、大雨、台風等による被害、農作物や生態系への影響等が観測されています。深刻化する地球温暖化を背景に、平成27(2015)年にフランスのパリで開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)でパリ協定が採択され、世界的にも今世紀後半までに地球全体での温室効果ガスの排出を実質ゼロとする目標が共有されました。

地球温暖化対策の動きが世界的に加速する中で、本市も一層の環境配慮により地球温暖化に歯止めをかけるため、令和3年2月に2050年度までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとする「2050年ゼロカーボンシティ」を表明しました。また、国では令和3年に温室効果ガス削減目標値を上方修正する地球温暖化対策計画の改定が行われ、これを受け、本市でも令和12(2030)年度の削減目標値を上方修正する形で、令和4年4月に武蔵野市地球温暖化対策実行計画を改定しました。

今後は今まで以上に、市民、事業者、市とで地球温暖化対策に一丸となって取り組むことが求められており、市民生活に大きな影響を与える脱炭素社会への転換をどのように進めるべきか幅広い視点から議論が必要とされています。

誰もが気候変動問題の当事者としての意識を持ち、対策のための具体的な行動を実践していくため、武蔵野市気候市民会議では、無作為抽出などによって選ばれた市民が、地球温暖化・気候変動対策について話し合う場として全5回開催し、脱炭素社会に向けて意見交換を行いました。市では、この会議の議論を踏まえ、市民一人ひとりの環境配慮行動を示す気候危機打開武蔵野市民活動プラン(仮称)を作成します。

武蔵野市気候市民会議での意見を参考に市は支援の取組みを行うことにより、市民の行動を後押しし、地球温暖化対策に取り組んでいく機運を醸成していきたいと考えています。

気候市民会議とは

市民参加の一手法として、社会の縮図を構成するように、無作為抽出により選ばれた市民が気候変動対策について話し合う会議です。その開催は欧州各国で広がりを見せており、日本国内でも開催されています。

武蔵野市では、自治体主催初となる気候市民会議として開催しました。気候変動の現状に詳しいゲストティーチャーによるレクチャーを踏まえた上で、地球温暖化に対する目指すべきまちの姿や、一人ひとりの関心と行動を変えていくための取組みについて市民目線で話し合いました。

2 会議の日程

開催回	日 時	テーマ
		ゲストティーチャー
第1回	令和4年7月26日(火) 午後6時から 午後8時まで	地球温暖化の現状とこれからの社会／ 2050年ゼロカーボンシティ実現後の武蔵野市の姿
		江守正多氏 東京大学未来ビジョン研究センター教授／国立環境研究所 上級主席研究員
第2回	令和4年8月23日(火) 午後6時30分から 午後8時30分まで	モノを買う・使う・手放す
		柿野成美氏 (公財) 消費者教育支援センター
第3回	令和4年9月27日(火) 午後6時30分から 午後8時30分まで	動く・働く(学ぶ)・遊ぶ
		松橋啓介氏 国立環境研究所 社会システム領域(地域計画研究室) 室長
第4回	令和4年10月25日(火) 午後6時30分から 午後8時30分まで	住まいのエネルギー
		前真之氏 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 准教授
第5回	令和4年11月22日(火) 午後6時30分から 午後8時30分まで	市の現状と取組の紹介／ 2050年の武蔵野市(脱炭素社会)に向けて、広めていきたい取組

3 参加者募集

(1) 募集方法等

① 無作為抽出枠

武蔵野市住民基本台帳より、市の人口統計に合わせた年齢・性別構成に基づき、令和4年4月1日時点で市内在住、満16歳以上の1,500人を無作為で抽出した。令和4年4月15日に、無作為抽出者1,500人宛に気候市民会議の「開催のお知らせ」と「参加申込書・アンケート回答票」を郵送し、回答期限は5月20日とした。郵送とwebで回答を受け付け、アンケートのみの回答も可とした。

回収数は郵送とweb併せて288件、回収率が19.2%となった。うち、気候市民会議への参加希望者は42人であった。

② 公募枠

令和4年4月1日時点で満16歳以上の武蔵野市内在住・在勤・在学の方を対象に、公募枠の募集を行った。市報むさしの令和4年4月15日号、市公式ホームページやチラシ、市公式SNS等で広報を行った。応募にあたっては下記の事項を記載の上、メールまたは郵送での提出とした。

- ・ 住所
- ・ 氏名
- ・ 生年月日
- ・ 性別
- ・ 電話番号
- ・ 在勤・在学の方は勤務先・学校名
- ・ メールアドレス
- ・ 作文(800字以内、書式不問) テーマ「ゼロカーボンシティに向けて私ができること」
- ・ 特記事項(例:「オンラインのみ参加可能」など)

③ 謝礼

1回の会議にあたり、参加者に3,000円分のクオカードを配布した。

気になる地球温暖化 あなたも気候変動問題の当事者に

気候市民会議を開催します

近年、地球温暖化が原因とみられる異常気象が多発し、私たちの生活はその影響を受けています。「気候危機」と言われている。市では2050年までに温室効果ガス削減を義務付けた。2050年ゼロカーボン（ZCO）を目指す。2050年に向けて、私たちの暮らしの中で、大きな転換が必要とされています。あらゆる人が気候変動問題の当事者としての「気づき」や「行動変容」を促すために、市では「気候市民会議」を開催し、地球温暖化（気候危機）問題に対する具体的な行動を示す「気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）」を作成します。【開催日時】令和4年4月15日（日）10時～12時

気候市民会議とは？

無作為抽出などによって選ばれた市民が、気候変動対策について話し合う会議です。その開催は欧州各国で広がりを見せており、日本国内でも開催されています。本市では、気候変動の削減に詳しい識者によるレクチャーを踏まえ、地球温暖化に対する目指すべきまちの姿や、一人ひとりの関心と行動を促していくための取り組みについて市民目線で話し合います。

アンケートにご協力ください！

暮らしの中で、地球温暖化（気候危機）問題について考える場や、行っている取り組みについてのアンケートを実施しています。市情調査で配布しているほか、右記二次元コードからも回答できます。

参加方法

要領書やまちづくりについての特別な予備知識は必要ありません。お気軽にご参加ください。

※参加費を定めていません。オンライン参加を希望の方は申し込み時に必ずお知らせください。

無作為抽出 対象：令和4年4月1日時点で16歳以上の市内在住・在勤・在学の方のみ
申込：5月20日午後5時（必着）までにEメールまたは郵送（住所、氏名〔ふりがな〕、生年月日、性別、電話番号、在勤・在学先は勤務先・学校名、申込【Eメール・オンライン】に向けて私ができること【800字以内、書式不問】、Eメールアドレスを明記）で下記送付先へ。

公募枠 対象：令和4年4月1日時点で16歳以上の市内在住・在勤・在学の方のみ
申込：5月20日午後5時（必着）までにEメールまたは郵送（住所、氏名〔ふりがな〕、生年月日、性別、電話番号、在勤・在学先は勤務先・学校名、申込【Eメール・オンライン】に向けて私ができること【800字以内、書式不問】、Eメールアドレスを明記）で下記送付先へ。

定員 無作為抽出枠、公募枠合わせて40名（予定）
※原則、全5回の会議に参加できる方
謝礼 各回3000円（ギフトカード）

送付先 〒180-0012 緑町3-1-5 むさしのエコレゾート 武蔵野市総合政策部総務課発信係
Eメール：ecoresort@city.musashino.lg.jp

注意事項 参加者決定のお知らせは6月下旬ごろ発送予定です。年代などにより調整した上で参加者を決定するため、応募しても参加できない場合があります。

気候市民会議スケジュール

場所 むさしのエコレゾート

第1回 7月26日（水）午後6時
テーマ：地球温暖化の現状について、目指すべきまちの姿について
ゲストスピーカー：江守正史氏
※東京大学未来ビジョン研究センター教授、専門は地球温暖化の将来予測とリスク評価。IPCC第五次評価報告書の主要執筆者。

第2回 8月23日（水）午前10時
テーマ：地球温暖化に対する取り組みについて①

第3回 9月27日（水）午前10時
テーマ：地球温暖化に対する取り組みについて②

第4回 10月25日（水）午前10時
テーマ：地球温暖化に対する取り組みについて③

第5回 11月22日（水）午前10時
テーマ：これまでの振り返りと気候危機のまとめ

↓
気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）作成

※原則、第2～5回は午後6時30分～8時30分（予定）
オンラインのみ参加に変更となる場合もあります
※第2～5回のテーマは変更となる場合もあります

人口と世帯数 A214万9300人(2888人増)世帯数7万8509世帯(409世帯増)
18歳未満人口12万7979人(128人増) 高齢者72211人(160人増)
15歳未満人口3048人(12人増)

City Report Musashino is available in 10 languages. 市報むさしのを10言語で読むことができます。

市報むさしの 令和4年4月15日号

一緒に考えてみませんか？地球温暖化と未来のはなし

武蔵野市 気候市民会議

真夏の暑さ、突如の豪雨、四季の変化... 地球温暖化が原因とみられる気候の変化はわたしたちの身のまわりで起こりはじめています。

世界中で地球温暖化解決に向けた社会のシステムの大きな転換が求められるなか、わたしたち一人ひとりには何ができるのでしょうか？

今のわたしたちにできることを共に学び、考え、話し合い、そして広めていくための場として「気候市民会議」を開催します。

参加者を募集しています。詳しくは裏面をご覧ください。

▶アンケートにご協力ください！！

気候市民会議開催に向けて、暮らしの中で、地球温暖化（気候危機）問題について考える場や、行っている取り組みについてのアンケートを実施しています。右記QRコードから回答できるほか、このチラシ添付のアンケート回答票を、下記の送付先に郵送・FAX・Eメールでお送りください。

武蔵野市気候市民会議チラシ



武蔵野市公式SNS（Facebook、Twitter、LINE）での広報

(2) 応募状況と参加者の選出

無作為抽出枠の応募者は42人、公募枠の応募者は28人、計70人であった。当初定員を40人としていたが、応募者の年齢構成等が概ね市の全体の構成に合致し、市の縮図（ミニ・パブリックス）が形成されている事を考慮し、多様な意見を取り入れることを目的に応募者全員を選出することとした。2人の辞退者があり参加者は計68人となった。（図1-1を参照）



図 1-1 応募状況

4 会議の進め方

(1) 開催方法

会議の開催にあたっては会場とオンラインの同時（ハイブリッド）開催を行った。会場開催は環境啓発施設むさしのエコreゾート（緑町3-1-5）において、オンライン開催はオンラインWeb会議ツール「ZOOM」を用いて開催した。会場内ではオンライン参加者と同じ画面を投影し、質疑応答や発表の場面において、会場とオンライン、相互にやり取りができるようにした。



(2) 各回のプログラム

	事務局説明など	ゲストティーチャーによる講演など	グループ討論など
第1回 7月26日	ガイダンス【15分】 ・ 市長挨拶（5分） ・ ガイダンス（10分） ▶ 参加者紹介、事務局紹介 ▶ 配付資料確認 ▶ 趣旨説明 ▶ 会議運営について ▶ ゲストティーチャー紹介	講演【15分】江守正多氏 ・ テーマ「地球温暖化の現状とこれからの社会」 ▶ 気候危機のリスク ▶ 目指すべきまち ▶ 社会の大転換 ▶ どのような脱炭素型のライフスタイルを目指すか 質疑応答【15分】	グループ討議【70分】 ① アイスブレイク（5分） ② 自己紹介（10分） ③ 「2050年ゼロカーボンシティ実現後の武蔵野市の姿」（45分） ④ 発表（10分） 講評（江守氏）・その他【5分】
第2回 8月23日	事務局説明【10分】 ▶ 配付資料確認 ▶ 前回アンケート結果の報告 ▶ 本日の進め方	講演【20分】柿野成美氏 ・ テーマ「モノを買う・使う・手放す」 ▶ 生活・行動とエネルギー消費・CO ₂ 排出とのつながり ▶ 行動変容すべきこと ▶ 行動変容の波及効果 質疑応答【5分】	グループ討議【70分】 ① 説明・アイスブレイク（5分） ② 討議「今回のテーマの中で自分もしくはみんなで出来る事（アイデア出し）」（50分） ③ 発表（15分） 講評（ゲストティーチャー、江守氏）・その他【15分】
第3回 9月27日	事務局説明【10分】 ▶ 配付資料確認 ▶ 前回アンケート結果の報告 ▶ 本日の進め方	講演【20分】松橋啓介氏 ・ テーマ「動く・働く（学ぶ）・遊ぶ」 ▶ 生活・行動とエネルギー消費・CO ₂ 排出とのつながり ▶ 行動変容すべきこと ▶ 行動変容の波及効果 質疑応答【5分】	・ 同上
第4回 10月25日	事務局説明【10分】 ▶ 配付資料確認 ▶ 前回アンケート結果の報告 ▶ 本日の進め方	講演【20分】前真之氏 ・ テーマ「住まいのエネルギー」 ▶ 生活・行動とエネルギー消費・CO ₂ 排出とのつながり ▶ 行動変容すべきこと ▶ 行動変容の波及効果 質疑応答【5分】	・ 同上

	事務局説明など	ゲストティーチャーによる講演など	グループ討論など
第5回 11月22日	事務局説明【10分】 ▶ 配付資料確認 ▶ テーマ別アンケート結果の報告 ▶ 本日の進め方 ・ 市民活動プランの作成の考え方、作成手順の説明、ご意見・提案の取り扱い	報告【15分】武蔵野市環境政策課 ・ 武蔵野市の現状と取組の紹介 ▶ 武蔵野市の地球温暖化対策の動き ▶ 武蔵野市域におけるCO ₂ 排出量の部門別割合 ▶ 武蔵野市の地球温暖化対策の取組	グループ討議【70分】 ① 討議「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」（55分） ② 発表（15分） 総評（江守氏）【10分】 振り返り（個人）、その他【15分】

(3) グループの分け方

グループ討議時におけるグループ構成において、1グループは5～8人で構成した。グループ分けにあたっては、属性（性別、年齢、無作為抽出枠参加者、公募枠参加者）が異なる方々の組み合わせとなるようにした。

グループ	総人数	無作為抽出枠	男性	平均年齢 (小数点以下切り捨て)
		公募枠	女性	
A	6人	3人	3人	45歳
		3人	3人	
B	6人	4人	3人	48歳
		2人	3人	
C	6人	4人	4人	46歳
		2人	2人	
D	6人	4人	3人	49歳
		2人	3人	
E	6人	4人	4人	47歳
		2人	2人	
F	6人	3人	4人	49歳
		3人	2人	
G	5人	3人	3人	48歳
		2人	2人	
H	6人	3人	4人	48歳
		3人	2人	
I	6人	3人	3人	46歳
		3人	3人	

グループ	総人数	無作為抽出枠	男性	平均年齢 (小数点以下切り捨て)
		公募枠	女性	
オンライン α	8人	5人	5人	36歳
		3人	3人	
オンライン β	7人	5人	5人	32歳
		2人	2人	

以上は基本のグループ構成で、回によっては欠席者数を考慮し、一部構成を変更するなどした。

(4) ファシリテーターの配置

グループ討議時には各グループに1人、ファシリテーターを配置した。ファシリテーターは市職員のほか、参加者の増加に伴い外部の事業者も配置した。

5 記録と公開

気候市民会議の当日の様子(グループ討議を除く)を記録した動画を市HP(下記のURL)に公開した。

https://www.city.musashino.lg.jp/gomi_kankyo/shoene_eco/oshirase/kikoshiminkaigi/kikoshiminkaigi_kekka/index.html

6 実施体制

参加者：無作為抽出枠及び公募枠による 68 人

アドバイザー：江守正多氏

(東京大学未来ビジョン研究センター教授／国立環境研究所 上級主席研究員)

事務局：武蔵野市環境部環境政策課

グループ討議支援・オンライン対応：アオイ環境株式会社

第2章 会議各回の概要とグループ討議結果

1 第1回会議

(1) 開催概要

時間：令和4年7月26日（火）午後6時～午後8時

場所：むさしのエコreゾート（武蔵野市緑町3-1-5）、オンライン

参加者：会場44人、オンライン13人

テーマ：地球温暖化の現状とこれからの社会／2050年ゼロカーボンシティ実現後の武蔵野市の姿

ゲストティーチャー：江守正多氏

（東京大学未来ビジョン研究センター教授／国立環境研究所 上級主席研究員）

(2) 市長挨拶（要旨）

武蔵野市は令和3年2月に「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言し、令和4年4月には令和12年度の温室効果ガス削減目標値を上方修正する形で、武蔵野市地球温暖化対策実行計画を改訂した。ゼロカーボンシティ、脱炭素社会の実現に向けて、市民・事業者・市が一緒に取り組む必要がある中で、市民一人ひとりが気候危機を自分事としてとらえ、行動できるようにしていきたいと考えている。

全5回の気候市民会議は、各回にゲストティーチャーを招き、テーマごとの講演を踏まえた上で、参加者にそのテーマについて討議していただく。市では、討議の結果を踏まえ、市民一人ひとりの環境配慮行動を示す“気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）”を作成していく。また会議の結果を参考にし、市民の活動の支援を行い、市民と市が協働して地球温暖化対策に取り組む機運の醸成に繋げていきたい。地球温暖化対策の輪が武蔵野市から広がり、武蔵野市がさらに魅力あふれる“持続可能なまち”となるよう、ぜひ活発な議論をお願いしたい。

(3) 事務局説明

以下の内容について、事務局が説明した。

- ・ 参加者紹介、実施体制紹介
- ・ 武蔵野市気候市民会議の趣旨
- ・ 全体スケジュール
- ・ 会議運営について
- ・ 本日のスケジュール

(4) ゲストティーチャーによる講演

以下の内容について、ゲストティーチャーより講演を行った。

テーマ：「地球温暖化の現状とこれからの社会」

- ・ 気温変化の要因
- ・ CO₂排出量と濃度の変化

- ・ 国連パリ協定（平成 27 年採択）
- ・ 世界 CO₂ 排出量の将来変化の 5 つのシナリオ
- ・ 地球温暖化で起きること
- ・ 世界のエネルギー源の推移
- ・ 社会の大転換が必要

講演後、以下の内容について、質疑応答を行った。

質問	江守氏による回答
電気自動車のバッテリーを製造する時、CO ₂ がたくさん出るのではないか。	現状はその通り。走る時使う電気も多くの場合は火力発電で作った電気のため、CO ₂ は出る。 電気自動車を増やしながら、電源をゼロエミッションにしていく。電源がゼロエミッションとなり、化石燃料を使わずに電気を作れるようになってから、電気自動車を増やしていく、という順番でやるなら間に合わない。なので、現段階から電気自動車を普及させて、同時に電源ゼロエミッションも進めれば、2050 年ゼロカーボンに間に合うと思っている。
最近のニュースで、日本政府はこれからアンモニアをリードしていきたいと聞いた。	日本は再生可能エネルギーの設備について、現時点では残念ながらあまりリードできていない。太陽光パネルは一時的に一番大きなシェアを持っていたが、安売り競争になって、中国と韓国が伸ばしてきた。 日本は火力発電の技術が素晴らしいが、火力発電はこれから減っていく。一方、産業側は今までの技術をこれからも使いたいと考えている。そこはアンモニアや水素など、CO ₂ を出さないものを燃料として火力発電所で燃やすことで、火力発電の設備を使っても、ゼロエミッションになる。太陽光や風力発電は自然条件により変動があるが、それに合わせた調整にも活用できると期待されている。
風力発電能力は非常に低いと聞いた。	日本は再生可能エネルギーを増やしたいが、再生可能エネルギーの産業は国内でなかなか儲からないのが現状。 日本政府は特に洋上風力を増やしていきたい。風車は外国のものを使っていくが、部品は日本製のものの割合を増やしていく動きがある。
気温が既に 1℃上がっていて、目標の 1.5℃まであと 0.4℃しかないが、周りの人があまり焦っていないよう	本当はもっと前から焦らなければいけない話だが、1.5℃がメインの目標になったのが最近のことであり、2℃目標の時、ただらとやってしまった時期があった。また、再生可能エネルギーの価格が高かったこともあるし、発展途上国がどんどん発展しているため、気候危機が分かっているにもかかわらず、なかなか対策が難しかったこともある。再生可能エネルギーやバッテリー

<p>である。日本はなぜ焦っていないのか。</p>	<p>が安くなって、対策ができそうな感じになってきて、対策する機運が高まってきたのは最近の状況。</p> <p>「あと0.4℃しかない」ことについて、今世紀半ばに、世界全体のCO₂排出量が実質ゼロになれば、1.5℃目標を達成できる可能性が結構ある。慌てずにそこを目指すのは一つの捉え方だと思う。</p> <p>危機感への認識は価値判断のため、個人差がある。若い人は自分がこれから住む地球がどうなるか気になる人が多い。国によっても異なる。干ばつや海面上昇が進むと難民が大量に出てくる国は、本当になんとかしてと思っている。我々は暑くてもエアコンを付けたり何とかなるし、自然災害も直撃しなければ何とかなる。このように、人によって感じている深刻さが異なる。</p>
---------------------------	---

グループ討議

① 自己紹介

参加者が4マスの自己紹介シートを用いて、グループ内で自己紹介を行った。
(図 2-1 を参照)

4マス自己紹介 【10分間】	
1. 各自でマスに記入／メモを取る【1分間】	2. 一人ずつ発表【1人1分間】
名前又はニックネーム	得意なこと
職業、世代	参加した理由、想い

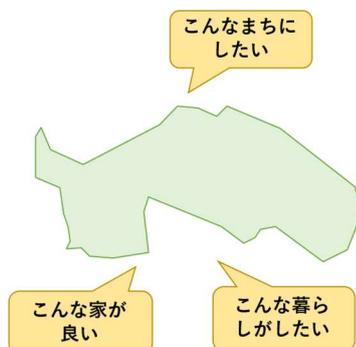
図 2-1 4マス自己紹介シート

② グループ討議

参加者はグループ内で「2050年ゼロカーボンシティ実現後の武蔵野市の姿」について意見交換を行った。(図 2-2 を参照)

「2050年ゼロカーボンシティ実現後の武蔵野市の姿」 をイメージしてみよう 【35分間】

ゼロカーボン（脱炭素）が達成されている
2050年の武蔵野市のイメージを描く



1. 各自でイメージを思い描き、付箋に書き出す／メモを取る【5分】
2. 一人ひとり、付箋を模造紙に貼りながら／チャットに記入しながら、イメージを話す【20分】
3. イメージを追加・整理しながら、意見交換する【10分】

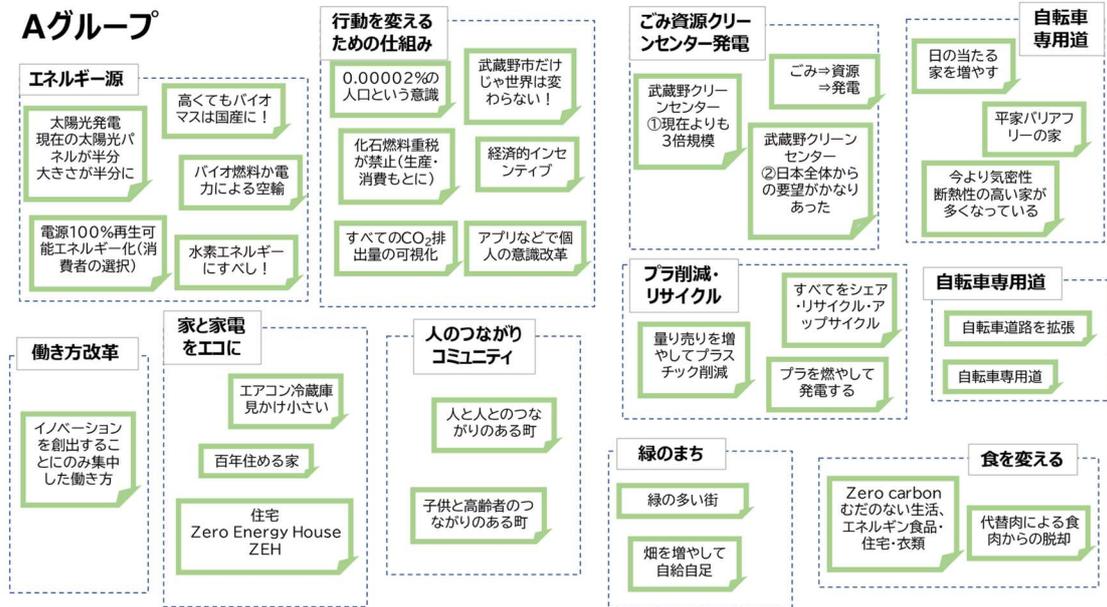
※オレンジ：オンライングループ

26

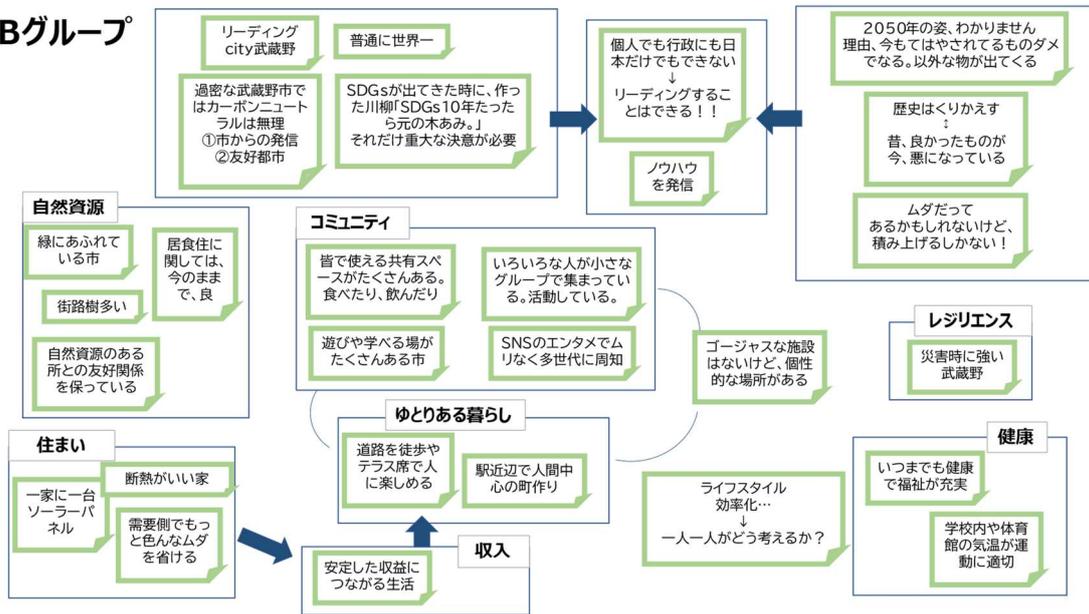
図 2-2 意見交換内容

(5) グループ討議結果

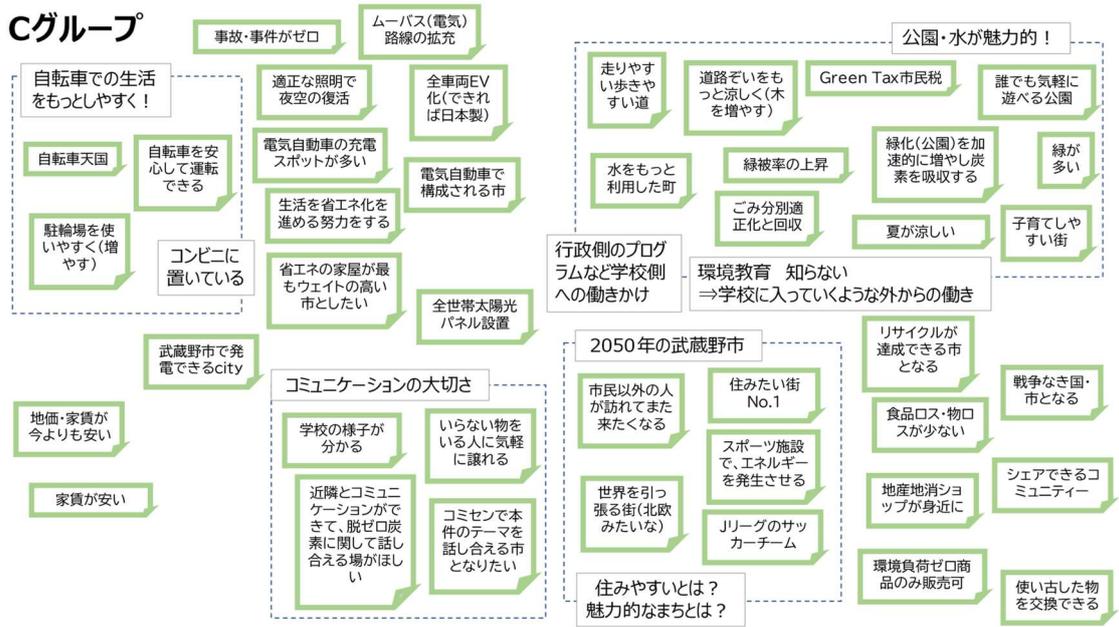
Aグループ



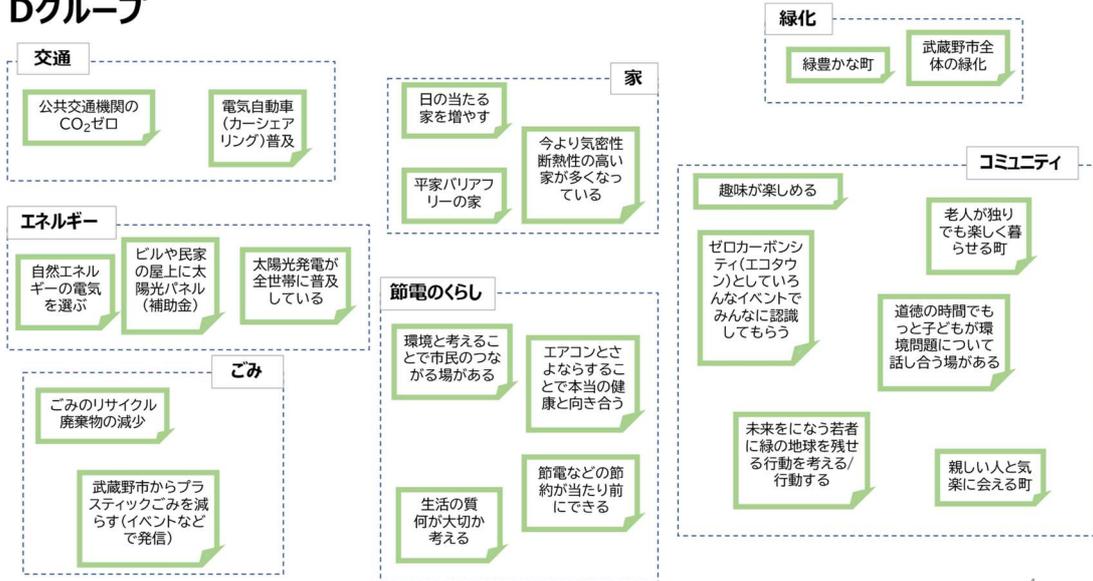
Bグループ



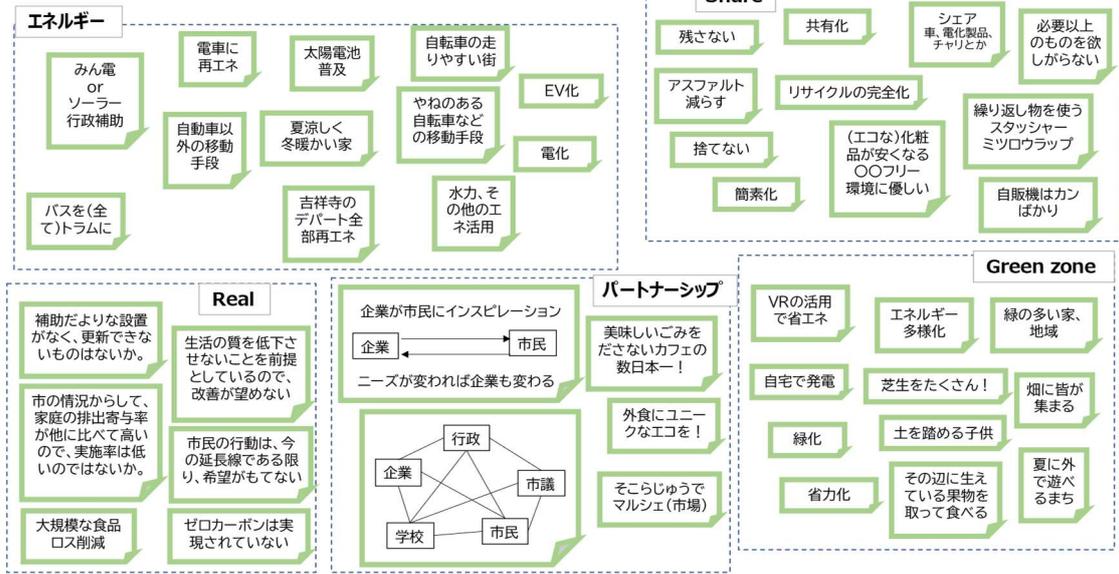
Cグループ



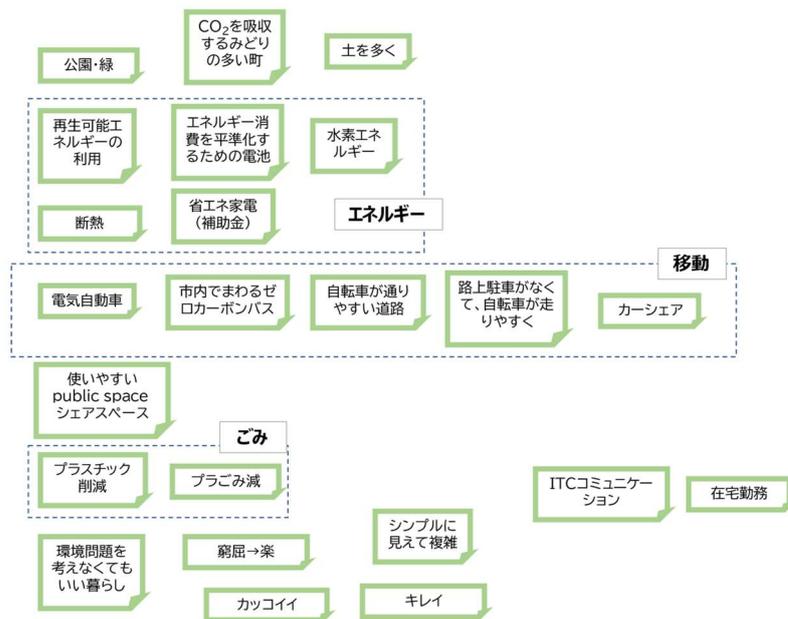
Dグループ



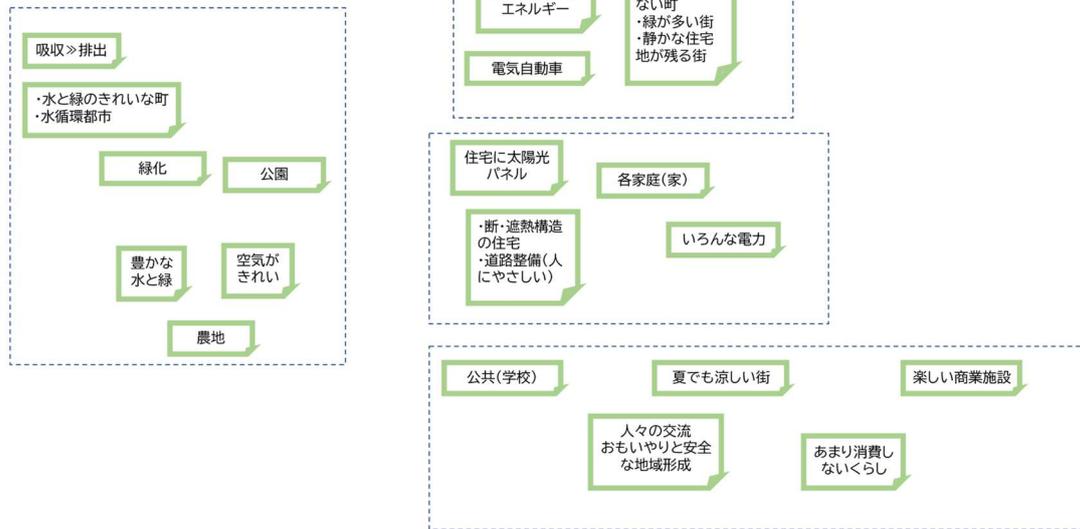
Eグループ



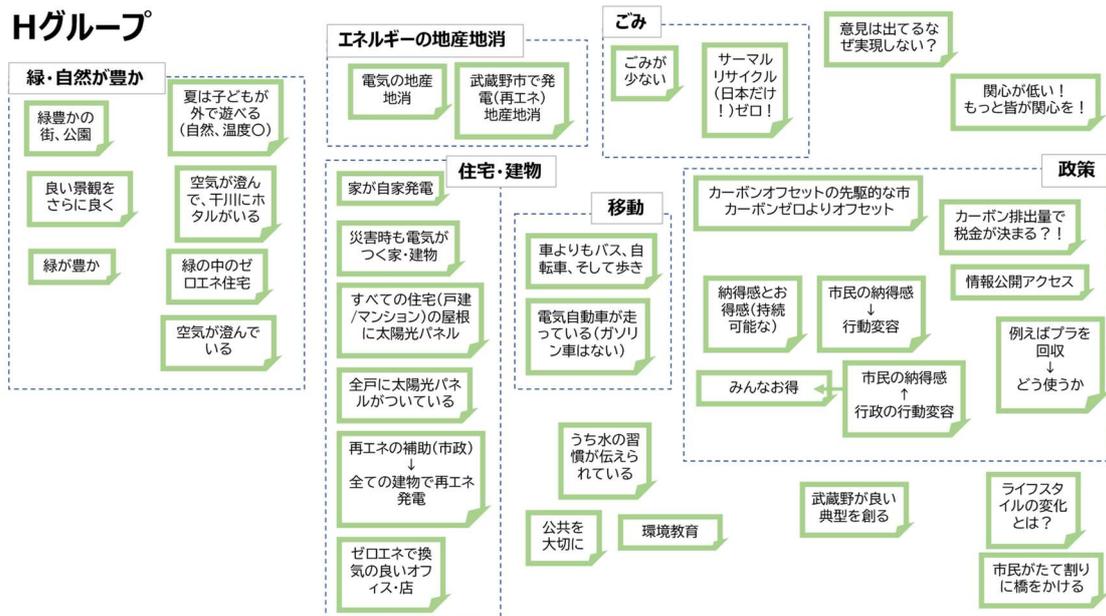
Fグループ



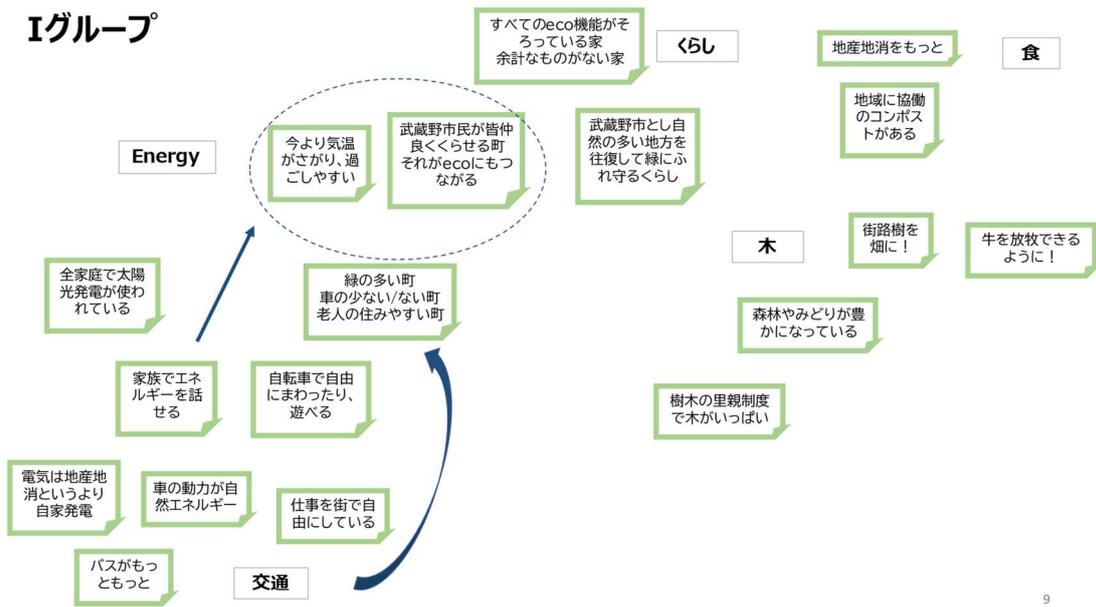
Gグループ



Hグループ

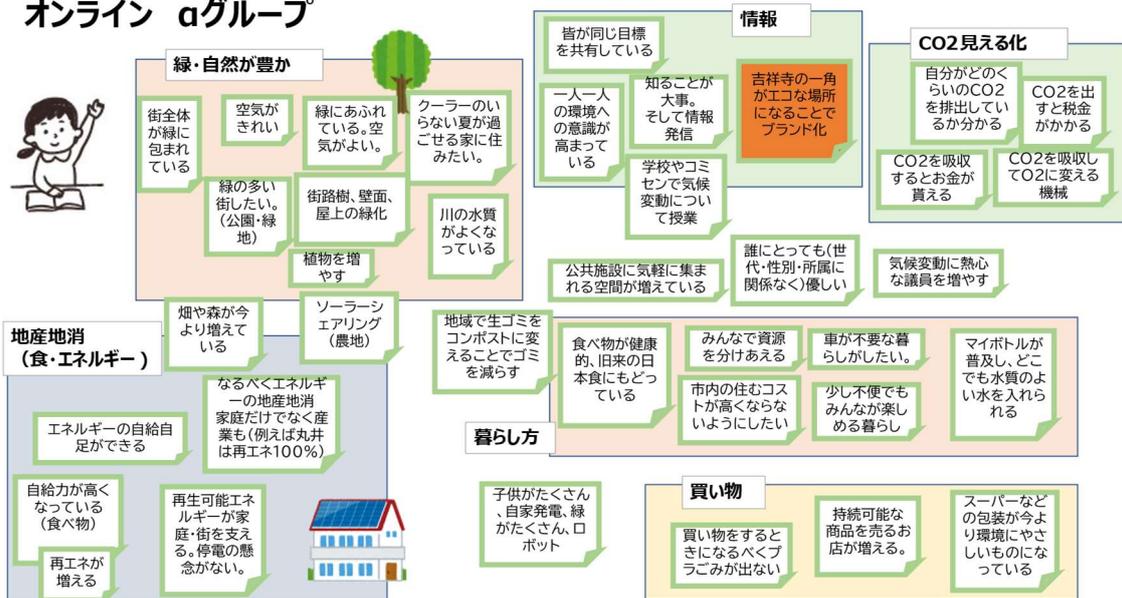


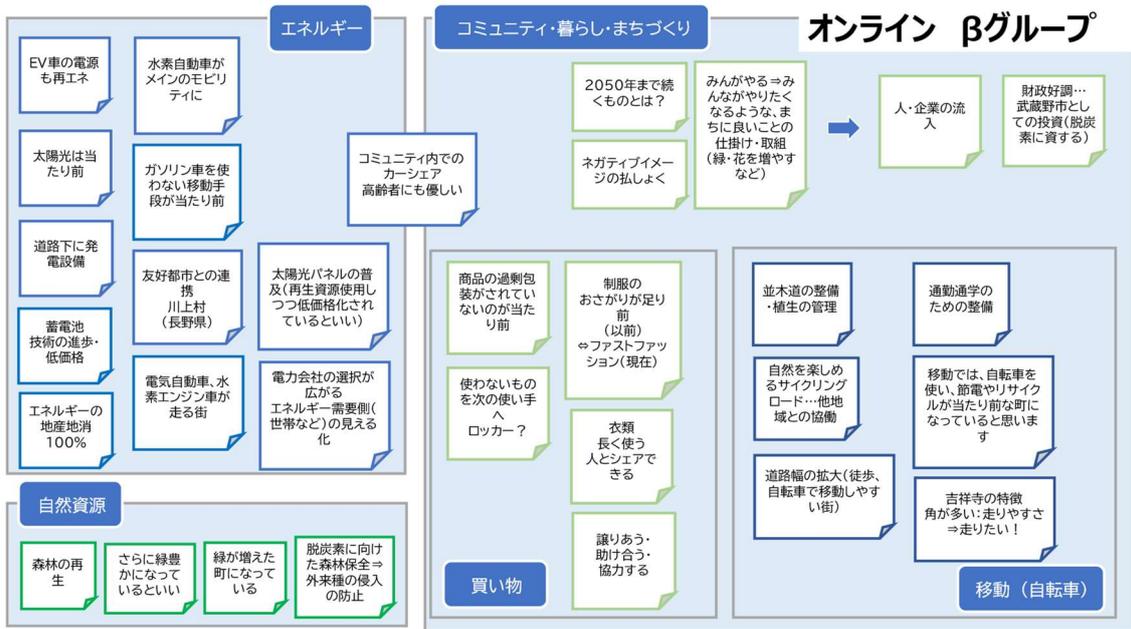
Iグループ



9

オンライン aグループ





(6) ゲストティーチャーによる講評

<江守氏による講評>

グループ討議で世代や職業の異なる人同士が話している様子を見て、普段あまり話す機会がない人たちと話せる新鮮な機会であったと思う。武蔵野市の気候市民会議は無作為抽出と公募による参加者があり、気候変動問題に詳しい人とそうではない人が混ざってグループ内で話していく。本日の討議では、ファシリテーターの皆さんが上手に対応していて、スムーズに会話ができていたように思う。

グループ討議では電気自動車やごみなどについて議論されていたが、興味深かったのは、環境や脱炭素のことだけでなく、例えば、コミュニティの絆やコミュニケーションについても話し合われていた点である。気候変動問題や二酸化炭素の排出削減のことと、地域や社会のことを結び付けながら話していた点は、意義あることの一つだと思った。

今後の議論では、さらに奇抜な意見やアイデアが出てくるとよい。私が以前に、高校生が集まる同様の会議に参加した際には、「2050年はみんな地下に住んでいる」や「屋根だけではなく、道路上もみんな緑化されている」、「車は地面から浮いて走っている」といった意見も出ていた。30年後には技術や常識など、色々な変化が起こりうるので、もっと自由に発想して意見を出すとよい。

武蔵野市気候市民会議は、日本で最初の行政主催の気候市民会議である。この会議を通じて、どのような意見が出され、どのように行政に反映されるか期待している。

(7) 会議後アンケート結果

① 講演に対する質問等

<p>温室効果ガスについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガスの削減法として、どんな方法があるのか。 ・ 2030年、2050年に向けての温暖化ガス削減のマイルストーンは、具体的/現実的なものが設定されているのか。 ・ 28年後のカーボンニュートラルは社会システムの大幅な変革なしに達成不可能と仰っていたと思うが、社会学者、哲学者等技術系以外の専門家の議論への参加は十分なのか。
<p>エネルギーについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姉が住んでいる鳥取県鳥取市で、風力発電の計画が進行しています。地域では賛否両論があるようですが、日本全体で再生可能エネルギーの発電所を増やすという目標を掲げるなら、計画は必要であるとも思います。一方で武蔵野市という都市では、地方都市とは異なる面から気候問題を考えなければならないと思います。都市ならではの、武蔵野市の特性に合致する解決方法のプランや具体例をお聞きしたいです。 ・ 化石燃料のうち、削減し易いもの、代替エネルギーが作りやすいものはどれですか。 ・ 再生エネルギーとしても太陽光や風力、水力などの一般的に知られているもの以外にどんなものがあるのか、期待されているのかを教えてください。 ・ 脱炭素エネルギーの中に原子力がありますが、地震・自然災害の多い日本で多くの人の人生を奪ってしまう危険性が高い。地球の火事を消す前に危険。国策としてエネルギーとなっていること、気候変動・環境の専門家の方々は自然エネルギーへの提言を続けて頂きたいと願うのですが。
<p>気候変動について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの根本対策としてワクチンや薬が例に出ていましたが、実際それが解決の糸口になっていないと考えており、気候変動に関してもどこまで対策しても結局は節電など日々意識し続けることを強いられるのではと感じました。 ・ 気候変動への影響で、「人為的要因」とまとめられた要素の詳細を確認したいです。どこか、参照元があれば教えていただけますでしょうか。 ・ 毎年、気候変動の影響が甚大化していると感じます。2050年までにある程度の犠牲者が出ないとこの危機は乗り越えられないようにも感じます。具体的に言えば、どこに住んでいるのかに関わります。また、戸建て住宅に住めない日本が来るのではないかと不安があります。 ・ 世界平均気温の変化の要因として「人為的要因」が大きな原因となっていますが、「人為的要因」のうち、CO₂以外の要因はどのようなものがあり、どの程度の原因となっているのでしょうか。言い換えれば、「人為的

	<p>要因」とはほぼCO₂の排出と考えると良いのでしょうか。</p>
講演内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変分りやすい講演でした。もっとお話が聞きたかったです。 ・ IPCC AR6の主執筆者のお話が直接聞け、非常に貴重でした。会後もお話しさせていただきありがとうございました。 ・ エコ対策=我慢という意識を指摘していただいてありがたいです。そんな考え方があるとは分かりませんでした。 ・ とても面白かったです。 ・ もう少し時間をかけてほしかった。 ・ 詳細な説明は大変参考になりました。 ・ カーボンニュートラル、2050、等々勉強になりました。もっと勉強したいです。 ・ 講演をもう少し聞きたかったです。 ・ 今回の会議で江守正多氏を知ったので、「脱炭素社会」「気候変動国連最新レポート」等の動画をざっと見ました。 ・ 内容がコンパクトにまとまっており、参加者の前提知識を補う上で有意義でした。 ・ 事前に詳しい資料をいただいたおかげで、問題への理解が深まりました。気候変動は社会全体で解決しなければならない喫緊の課題であると改めて実感しました。
自治体について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変興味深く拝聴いたしました。地球温暖化は大きなテーマですが、武蔵野市にスケールダウンするとどう言ったことが見えてくるのか興味を持ちました。東京都における武蔵野市のポテンシャルで考えると出来ることと出来ないこと(夢物語でないこと)が見えてくるかなと思います。 ・ 日本や各自治体が環境問題について考え、対策したとして、地球温暖化対策などにどのくらい役に立てるのか気になった。
個人の行動について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温暖化に無関心な人に興味をもたせるにはどうすればよいのでしょうか。 ・ 簡潔にまとめていただいた内容でわかりやすかったと思います。気候変動は主に産業界の行動変容が大事な課題だと認識しています。今回のような市民社会の啓発はそれはそれで重要な意味があると思っていますが、他方で我々のような市民レベルの動きがどのように課題解決に貢献できるのか、実効性のある具体案を聞いてみたいです。世帯レベルの節電をマイクロレベルで実践していくよりも、石炭火力発電を廃止する政治決定をいかに実現するかを考えるほうが有意義のような気もしました。 ・ 発表内容とは脱線するかもしれませんが、環境問題の取組は人の命に関わる部分があるので、大変切迫しているものだと認識しています。一方で個人の行動・考え方を変えていく際に「べき」論では個人に押し付け

	<p>られる印象となり、行動が中々変わっていかないのではと感じています。個人の行動が社会変容を起こすためにはどういったアプローチが効果的と考えているのか、先生のお考えをお伺いしたいです。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> 先生の研究所でレジュメ 42 ページの 65 選択肢の中で特に力を入れるべきだと考えているのはどれですか。 先生も関与された脱炭素社会への転換と生活の質に関する市民パネル討論者による討議結果 (2019. 3. 3) のうち「人々の豊かさを実現するには経済成長が重要です…私達が達成したい目標は CO₂ 減少しつつ経済成長を実現させることです。」については、いわゆる経済調和条項の再来のように思われてなりません。「生活の質」とは、何を意味するのでしょうか。

② グループ討議結果に対する追加の意見

A グループ	<ul style="list-style-type: none"> もっとほかのグループの発表が聞きたかったです。
B グループ	<ul style="list-style-type: none"> 過去の環境の取り組みの検証が必要では。 遠慮なく発言して良いと思う。
C グループ	<p>こんな街になったらいいな、という議論は夢があって楽しかったです。他方で挙げられたことを全て実現したら、途方もない財源が必要だろうなども途中から思いました。我々の議論を計画に活かしていただく、というのは嬉しいことのようにも思いますが、我々の今回の議論はあくまで「財源の制約を考えないものとして」という前提によるものなので、その前提でご活用くださいませ。</p>
D グループ	<ul style="list-style-type: none"> メディアや SNS などを通じてゼロカーボンシティを目指す武蔵野市をどんどんアピールし発信して欲しい。 私たち (20 代) のときには小学校での環境問題に対する授業が少ないように感じた。もっと道德などの時間を使って討論する必要があると思う。 ジェンダーフリーの実現…自然エネルギーの電気を選びたくとも、家庭・社会で優位の男性の「安い方がいい」という意見が通ってしまうという現実が今はあるので。
E グループ	(なし)
F グループ	<ul style="list-style-type: none"> 2050 年の武蔵野市は、他地域と連携して、様々な環境問題の解決策をボトムアップで提案するような街になっていたら良いと思う。
G グループ	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動対策は一つの市だけでは難しいので、国際社会にアピールできるような先進的な取組ができるといいのではないかと思います。
H グループ	<ul style="list-style-type: none"> 特にありませんが、「2050 年ゼロカーボンシティ実現後の武蔵野市の姿」のイメージについて、実現時のありたい姿とその実現のための施

	<p>策やなすべきことが、きちんと区別されていなかったと思います。今後の討議においては、その辺りをきちんと整理して討議する必要があると思います。</p>
I グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林を増やす事について、建物の敷地面積に対する森林→CO₂の吸収量の規定があると良い。
オンラインαグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインという難しさも感じましたが、互いに意見を言い合い、同じような問題意識を持っている方が多いと感じました。 ・ 奇抜な意見もあって良いとゲストティーチャーの方からご意見ありました。今回の討議を踏まえて、個人で色々調べてまた同じ討議をすると更に良いアイデアが生まれるのではと感じました。 ・ 次世代を担う子供達への環境や防災に関する教育はとても重要だと思います。自治体を中心となって、有識者や企業等と連携して、市内の小中校でそういった授業が展開できたらいいと思いました。既に実施されているかもしれませんが。 ・ 環境教育が老若男女すべての世代において浸透し、それを踏まえた生活が武蔵野市民により実践されていることが重要です。
オンラインβグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通に世界一「リーディング CITY むさしの」という発表を誇り強くされている様子が興味深かったです。足掛かりとして、脱炭素の取組の一分野に特化し、日本一、最初に取り組んだ等の実績を創ることで、脱炭素の機運を醸成できるのでは、と感じました。 ・ 単発の取組だと継続性や広がりには乏しいと感じました。脱炭素のアイデア同士を関係づけることで、より発展すると感じました。例：道路幅拡張×植栽＝走りたくなる自転車道 ・ 脱炭素に取り組んだことの実感が湧く仕組みを作れると継続的に取り組める気がします。 ・ 脱炭素の取組を行う上で、ビジネスのテンプレートを活用することで持続性や広がりが生まれやすくなると思います。例：マーケットイン、収益性を考える。 ・ 散歩や自転車利用促進のために、武蔵野市と近隣市町村のオススメ散歩道や自転車道の紹介を頂くと良いかと思います。

③ グループ討議に対する感想（共感したこと、わからなかったこと、違うと思ったことなど）

<p>共感したこと、わからなかったこと、違うと思ったことなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老若男女、多様な他者と地球の最重要課題をディスカッションできる貴重な機会をありがとうございます。 ・ とても積極的な考えを持った方がいて、この後の会議で私も学んでいきたいと思った。 ・ 地域で何かをより良くするためには地域間のコミュニティが重要視さ
------------------------------------	--

れているように感じた。さまざまな意見が飛び交い、皆さんがやっている対策や方法はとても役にたつと感じた。

- ・「市民のコミュニティ・語る場がある」といったことに共感しました。
- ・世代間の考え方、受け止め方の違いというものが浮き彫りになった気がします。なかなか興味深い意見を聞かせて頂きました。
- ・「ゼロカーボンシティ実現後の武蔵野市はどんなまち」との討議設定でしたが「ゼロカーボンシティに向けての実施すべきこと」を列挙するにとどまっていた。方向違いではないかと思い、しっくりこなかった。P26の図には「こんなまちにしたい」「こんな家が良い」「こんな暮らしがしたい」との表現は「達成されている」にマッチするのでしょうか。ついルール違反を一部してしまいました。反省しています。
- ・色々な意見が聴けて、大変良かった。一方で、もう少し議論が深められればと思った。
- ・武蔵野市に長く住んでいる方の、市の特性を踏まえた意見が参考になりました。また、市民間の交流がウォークアブルな空間作りにつながるという意見はこれまで考えたことはなかったのですが、その通りだと思いました。なお、他のグループでCO₂吸収のために植物を積極的に育てるべきという意見がありましたが、植物も夜間は人間や動物と同様に呼吸し、CO₂を排出しています。いかに光合成を促せるかがポイントだと思うので、正しい知識を身に付けて昼間に光合成を促す栽培方法を検討することも必要ではないかと思いました。
- ・討議テーマの誘導に関して、もう少しファシリテーターの方が方向性を微修正していただければよかったですのではないかと思います。一方、皆さん、いろいろなことを考えておられ、積極的に発言されるのには感銘を受けました。
- ・メンバーの皆さん各々の違った視点からの未来の「武蔵野市の姿」を聴けた。
- ・楽しいアイデアをたくさん話せた。違う職業で目線の違う方々とお話できて良い時間だった。今後も楽しみです。
- ・いろいろな話が聞けて楽しかったです。
- ・自分自身の話ですが、理想のまちのイメージというお題にも関わらず、あまり理想が浮かばず、ネガティブなことを書いてしまっていた気がします。
- ・様々な世代で有意義な意見交換ができたと思います。今回の取り組み成果を、全国・世界に波及できるようにブランド力のある吉祥寺の街から発信できれば良いと思います。
- ・年齢層の異なる方々の様々なご意見をうかがうことができて、とても有意義でした。今後の会も楽しみです。

- ・ いろいろな年代の方の考えをうかがう機会があり、とても楽しかったです。
- ・ メンバーから意見の出た、いかに魅力的に取り組みを発信していくかの重要性に共感しました。
- ・ 共感したこと、そして特に若い方の斬新な意見には新鮮さを感じました。江守先生の最後の総括にすべて尽されていると感じました。ただ、吉祥寺を環境ブランド都市として発信するとの意見には、やや違和感があります。武蔵野は吉祥寺だけではなく、三鷹、武蔵境もありますので。
- ・ 皆様のご意見が大変参考になりました。他自治体との連携や、武蔵野市の魅力を高めて人や企業の誘致を目指す意見があり、新しい視点だと感じました。
- ・ 世代の違う方の意見が聞けて良かったです。
- ・ 10代の方から節電やリサイクルが当たり前にならないと、森林がなくなるという話がありました。目先のことが社会や地球に繋がっていることを常に意識
- ・ 江守先生の話で脱炭素以外のことも考える、発想を自由にという話を聞いて、脱炭素を生活や暮らしに取り入れる上では、あえて違う方向からアプローチすることも有用と感じたので、次回以降の会議で意識してみたいです。
- ・ 各人が付箋紙を沢山提出する事は良いと思うが、ファシリテーターが模造紙に貼る作業に追われていたように感じられた。各人が付箋紙を提出する時間を5分程度にしたらどうか。
- ・ もっと具体的な議題を楽しみにします。自ら言い出さない人の意見をもっと聞けるように、ファシリテーターから感想を聞き出すのが有効ではないかと思います。
- ・ テーマがずれて脱線する方がいた様に思えるのでファシリテーターの人に上手く誘導して欲しいと思いました。
- ・ 世代の異なる方々とディスカッションする機会が初めてで、とても新鮮でした。皆さん元々持っている問題意識が高く、それに対してのアプローチも多様でした。これから進めていくのを楽しみに思っておりますが、将来的なカーボンゼロを描きにくい方もいるなかで、グループディスカッションが展開しにくい場面もありました。今後円滑に進めていく上で、ファシリテーターの方などのさらなるお力添えも必要のように感じます。
- ・ SDGs 的価値観(感)に基づいた内容が希薄。

④ 会議の運営に対する意見・提案・質問

<p>時間 について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限られた時間で進行しているため タイトなスケジュールになっていると感じました。 ・ 今回は討論時間が少なかったので次回が楽しみです。 ・ 各個人の考えている事が、1つの方向で集約されていくプロセスをもう少し、話せる時間があったらよかったですと思います。 ・ もう少し時間をかけて話し合いたいと思いました。 ・ 講義、グループワーク共に時間が少ないと感じます。有効な活動プランにつなげていくために、議論する時間をもっと設けるべきだと思います。 ・ 講演、討議、発表の時間が全く足りていないと感じます。また、謝礼に関して、私は特に必要ないと思っています。 ・ 議論の時間が多少短いと感じましたが、このようなアンケートがあることで、討議を振り返りつつ、意見をまとめることができるので良いと感じます。
<p>討議内容 について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民啓発の場として有意義な企画だと感じました。他方で市民活動家の皆様の政治活動の色彩を帯びた意見発出の場にもなりえる懸念も少し感じた次第です。 ・ 既に「まとまり」の大枠が設定されているようですが、この枠組み自体について討議することは予定されているのでしょうか。 ・ 大変スムーズに運営頂きありがとうございました。発言がまだ一部の人に偏りがちだと感じたため、次回以降は適宜発言が少ない方を指名するかたちで促していくと、より良い議論になると感じました。よろしく願いいたします。
<p>ファシリテーター について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーターの運営が上手であった。 ・ ファシリテーターの方がちょっとお気の毒でした。馬耳東風で、明るく関与して下さい。色々なご意見もあるということで。 ・ ファシリテーターさん、ご苦労様。力量によってプレゼンスが変わってしまいますね。 ・ ファシリテーターが上手くまとめた。 ・ 初めての会議で緊張しましたが、ファシリテーターの方のおかげで話しやすかったです。会議を通して新たな知見を得ることができ、良い取組だと思いました。次回もよろしくお願いいたします。 ・ ファシリテーターの方がいたのでスムーズに議論が進みました。ご準備頂きましてありがとうございます。次回もよろしくお願いいたします。 ・ 運営有り難うございました。各自意見をテキストに書きとめる方式でしたが、どんどんチャットに書いていった方が、ファシリテーターの方が取りまとめを同時に出来るのでいいかもしれないなと思いました。 ・ ご担当の手元が忙しく意見交換が止まる場面がありました。サブで動いて

	<p>くれるファシリテーターを指名するなどして、手元作業に集中されている時間と全体討議の時間を並行して行えるように工夫されるとよかったですのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで質問するときには名前で指名していただけると発言しやすいです。自分以外の人も手をあげている可能性があるのです。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な運営ありがとうございました。 ・受付時間が長すぎたかもしれませんがそうしないと人が遅く来るでしょうね。 ・K J 法の手法をもっと活用すれば良かった。 ・とてもスムーズで良かったと思います。 ・アイスブレイクは工夫されたと思うのですが、会議で話しやすくする導入としては、もっと簡単に答えられる質問が良かったと思います。私も他のWSで、アイスブレイクのことはよく考えますのでご苦労は分かりますが。 ・また「武蔵野市の特性」とはどのようなことを意味するのでしょうか。概観をご教示願いたい。 ・行政主催では日本初の市民気候会議に参加できてうれしく思う。市の先進的取り組みに期待している。 ・紙資料が多過ぎると思う。当日のスライドは当日か後日PPTでメール添付してもらえればカラーで見られてそちらの方が良いので、紙は希望者に配るだけで良いと思う。アンケートもQRコードでこちらのフォームにするならやはり希望者だけで済むのでは。 ・江守先生が最後に「CO₂ばかりを強調した、もっといろいろなことを考えるのがよい」という意味のことをおっしゃっていて、共感しました。温暖化阻止→カーボンゼロ→電気自動車エンジン開発=環境改善、といった直線的な解決策にはならないだろうと、航空エンジンの開発をされた先生が会場で質問されていましたが、だれもがそう思うでしょうから、CO₂削減の手法はもちろんのこと、より広い視点で環境改善策を考えるのがよいと思いました。 ・意見を述べるのに、ワードを立ち上げ、それをコピーしてチャットにあげる等不慣れでしたので、手間取りました。ある程度事前にワードに入力しておかないと、限られた時間ですべてを述べることは困難だと感じました。 ・タイトな時間の中でスムーズな進行を頂きありがとうございました。 ・電話にてお伝えの通り、単身赴任となり毎回オンラインで恐縮ですが、都合をつけて出席しようと思います。よろしくお願ひします。 ・会場がもっと落ち着ける空間だと良いと思いました。

2 第2回会議

(1) 開催概要

時間：令和4年8月23日（火）午後6時30分～午後8時30分

場所：むさしのエコreゾート（武蔵野市緑町3-1-5）、オンライン

参加者：会場41人、オンライン11人

テーマ：モノを買う・使う・手放す

ゲストティーチャー：柿野成美氏（（公財）消費者教育支援センター）

(2) 事務局説明

以下の内容について、事務局が説明した。

- ・ 実施体制紹介
- ・ 武蔵野市気候市民会議の趣旨
- ・ 全体スケジュール
- ・ 本日のスケジュール
- ・ 前回の振り返り
- ・ 江守氏による会議後アンケート質問への回答

(3) ゲストティーチャーによる講演

以下の内容について、ゲストティーチャーより講演を行った。

テーマ：「モノを買う・使う・手放す」

- ・ 家計消費のカーボンフットプリント
- ・ 地球温暖化を1.5℃未満に抑える目標を達成するためには
- ・ モノやサービスを選ぶ基準
- ・ 脱炭素型のライフスタイルの実現を目指す消費活動
- ・ 日々の消費生活において、さらにできることを考えよう

講演後、以下の内容について、質疑応答を行った。

質問	柿野氏による回答
買い物しないと経済に悪影響を与えてしまう。買い物が経済に与える影響について、どのように考えればいいか。	よくいただく質問。商品を選ぶ時、より環境に配慮した商品を作っている企業のものを選ぶということができていたとしたら、経済をよりよい方向に向けることができる。買い物をする時は、必要な物だけを買う、環境に配慮した商品を選ぶのが望ましい。

<p>経済は量・GDPだけではなく、経済の質に対してよい影響を与えるような買い物することは大事だと理解してよろしいか。</p>	<p>何のための買い物をするかという、私たちの生活を豊かにするための買い物なので、経済の成長だけを求めていくだけではないと思う。そのような商品を選ぶことによって、よりよい社会につながると思っている。</p>
---	---

(4) グループ討議

参加者はグループ内で「モノを買う、使う、手放す」について意見交換を行った。

(図 2-3を参照)

グループ討議 (第2回会議)

モノを買う、使う、手放す

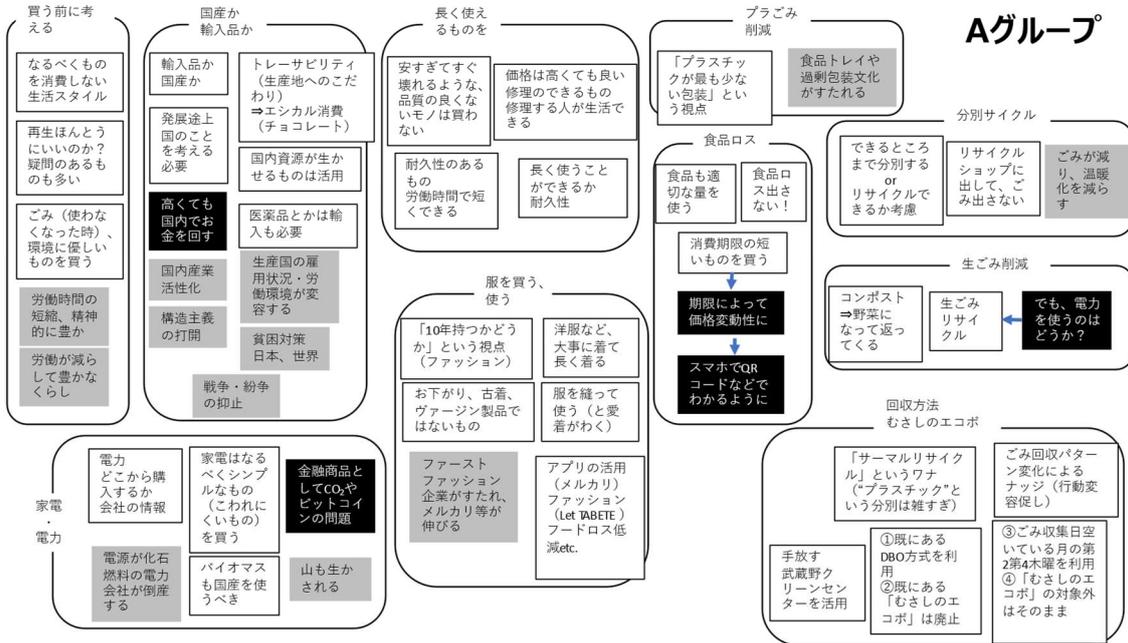
1. 全体説明【5分】
2. グループ討議【50分】
 - 行動【15分】
 - 波及効果【15分】
 - まとめ【20分】
3. 発表 (3グループ)【15分】
4. 振り返り【10分】



図 2-3 グループ討議内容

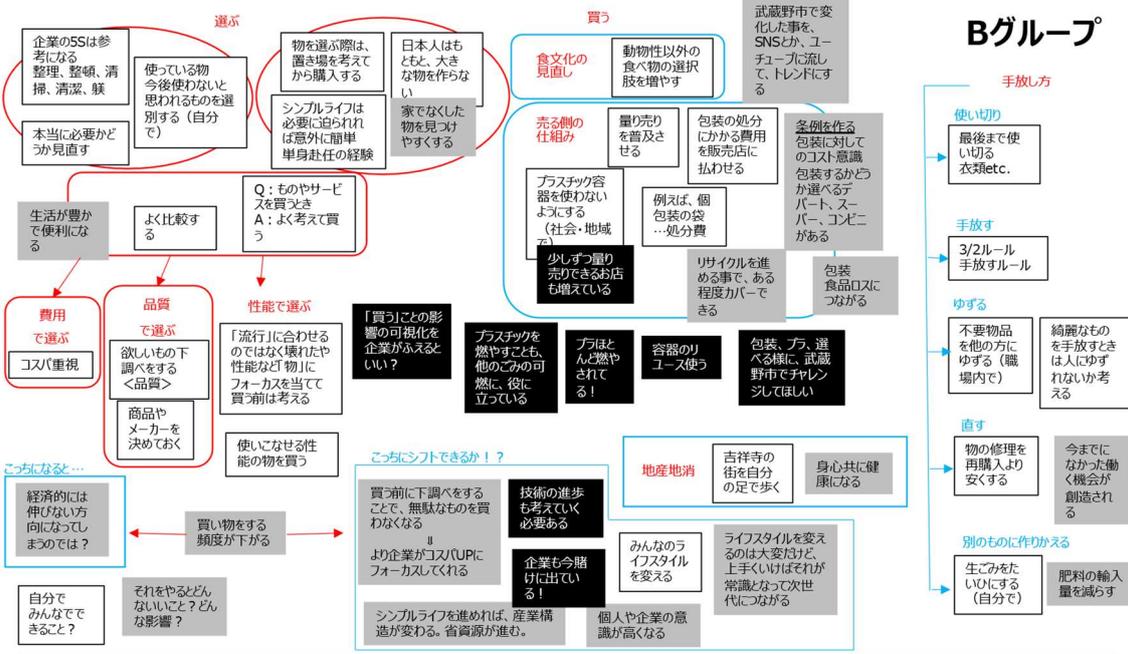
(5) グループ討議結果

令和4年8月23日 第2回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「モノを買う、使う、手放す」



追加意見 (会議後アンケートより)

令和4年8月23日 第2回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「モノを買う、使う、手放す」

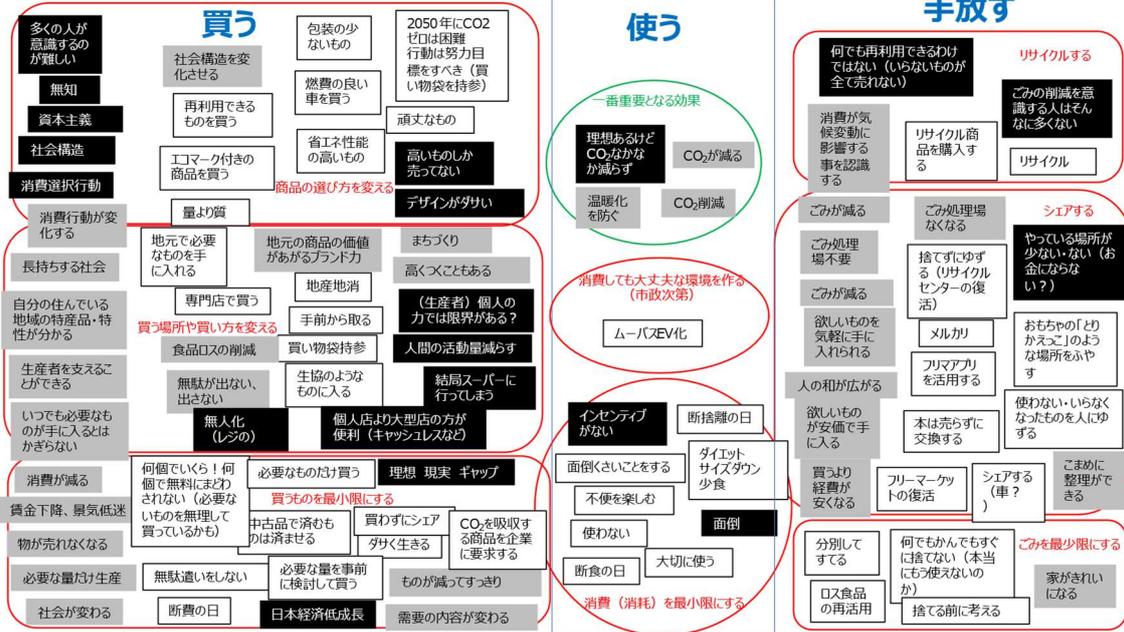


追加意見 (会議後アンケートより)

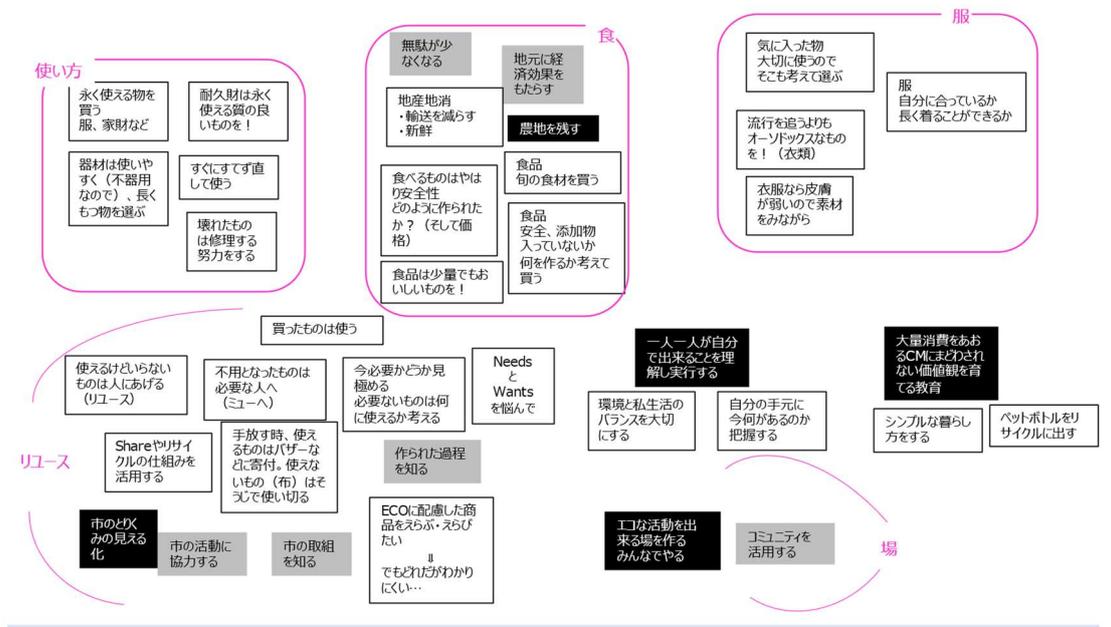
プラスチックの処理に関し、焼却炉の溶融炉の件で知らない方が多いので、広報をお願いしたい。

各グループの主な討議ポイントは個人の「やること」に大変偏っていたと感じました。これは武蔵野市が決める、武蔵野市でやれることを討議する会議ではありませんか。この課題はあまりにも大きすぎて協同アクションがなければ解決できません。個人のリサイクルやメルカリ販売を討議しても意味ないと感じました。

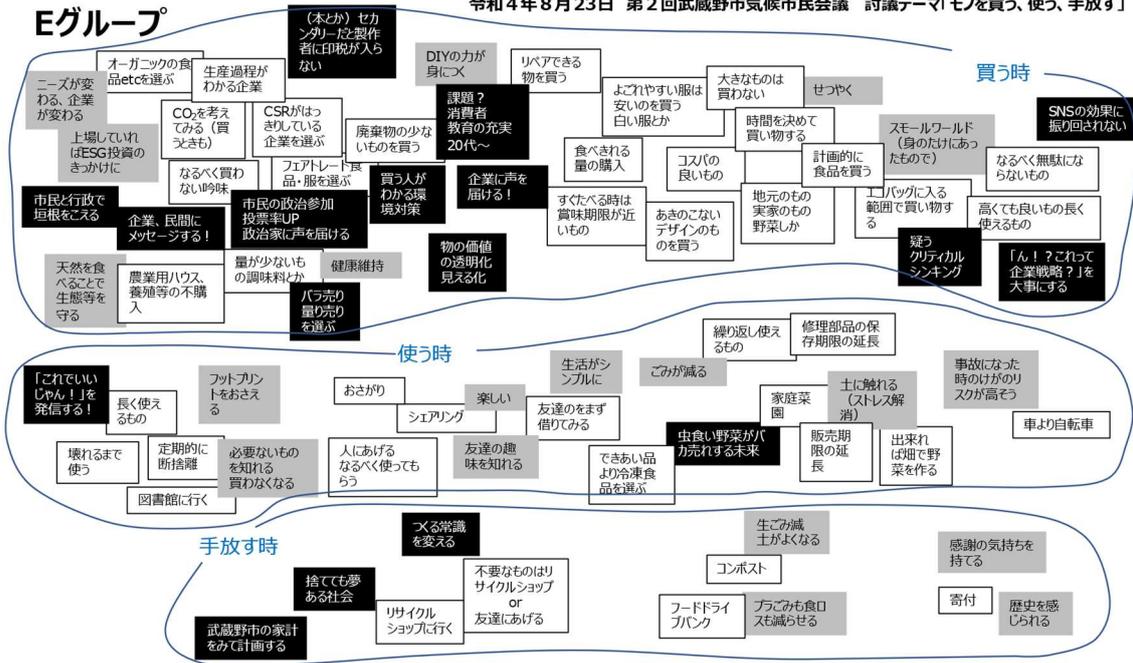
Cグループ



Dグループ



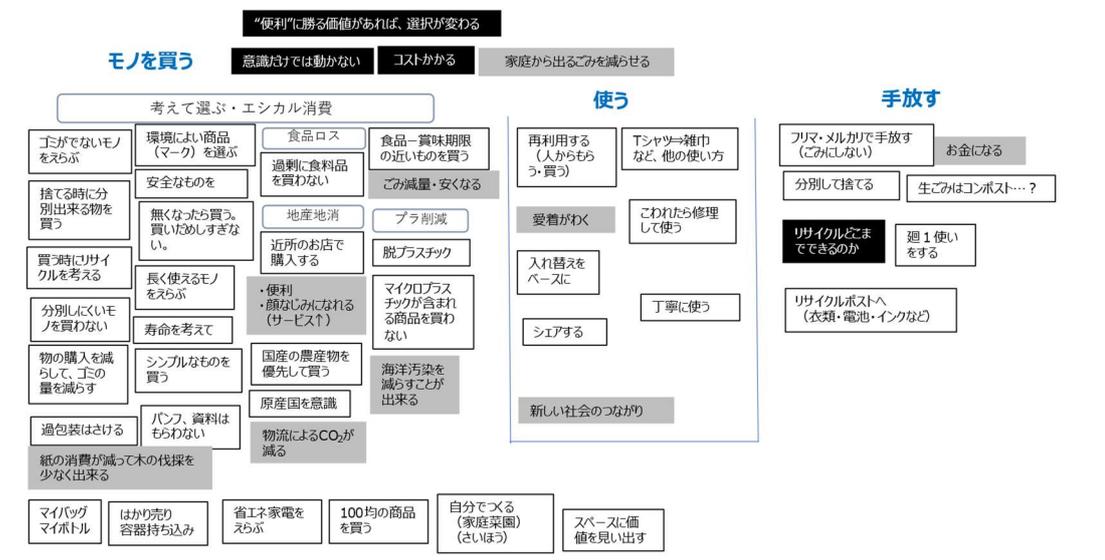
Eグループ



追加意見 (会議後アンケートより)

物はそれぞれに人の歴史とも深く関わっている。そのため「歴史を捨てる」魔法の言葉はなかなかないかなと思う。

Fグループ



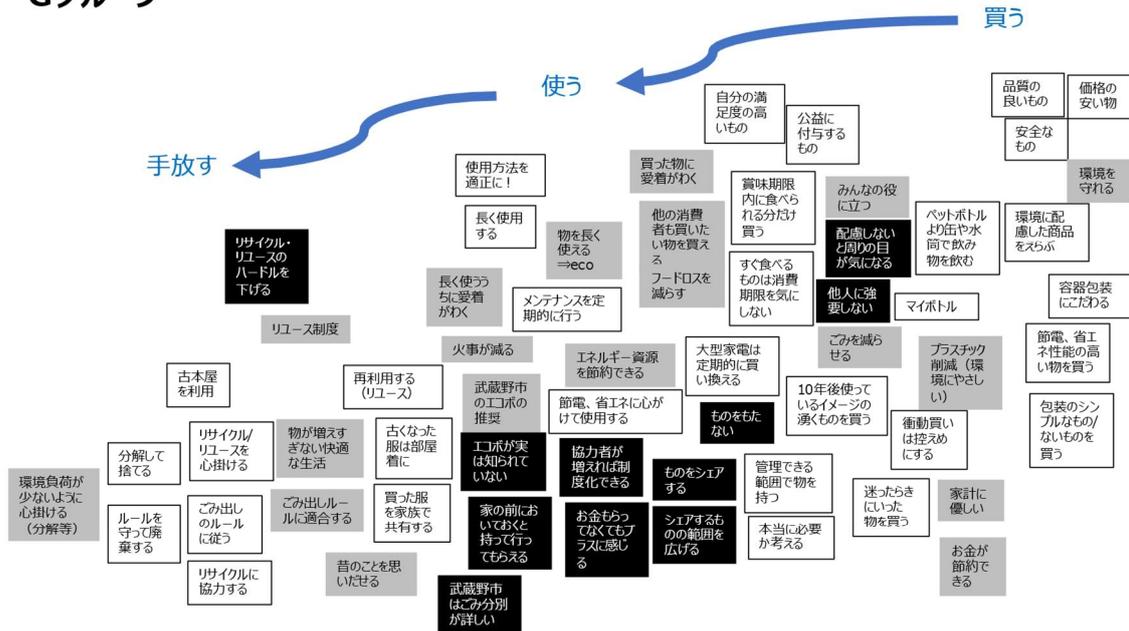
追加意見 (会議後アンケートより)

物の買い方を変えていくことについて、意識が高い方については既実践しているが、世の中の大多数が参画していくためには、政策的な対応(自然に対して影響のある商品の販売禁止や税制を不利に変更する)が必要になってくると考える。

古着等で見られるセキュアエコミーを考えた時、今一番足りなく、そしてインパクトがあるのは住宅分野なのではないか。新築至上主義から脱却し、中古住宅に手を入れて長く住む(ヨーロッパの様な)行動が求められる。

Gグループ

令和4年8月23日 第2回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「モノを買う、使う、手放す」



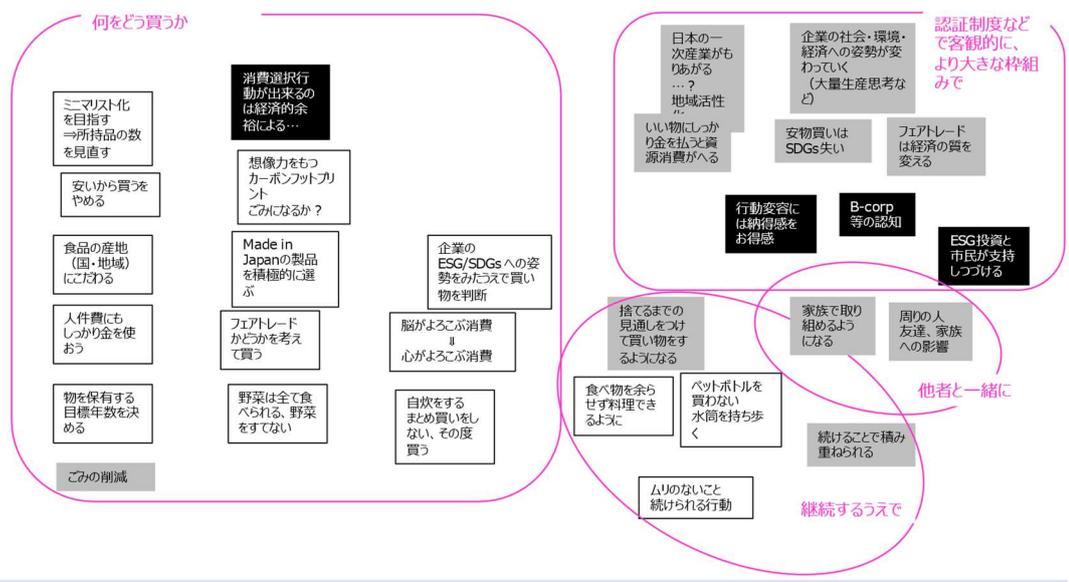
追加意見 (会議後アンケートより)

地方自治体でリサイクル/リユースをリードする場合、受け入れへのハードルを下げる必要があると思います。(武蔵野市のエコボが例として討議で上がりました。)

ファストファッションで安く服を購入することで洋服のロスは増えているが、また、フードデリバリーサービスに伴うゴミの増加についても考えてみたい。

Hグループ

令和4年8月23日 第2回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「モノを買う、使う、手放す」



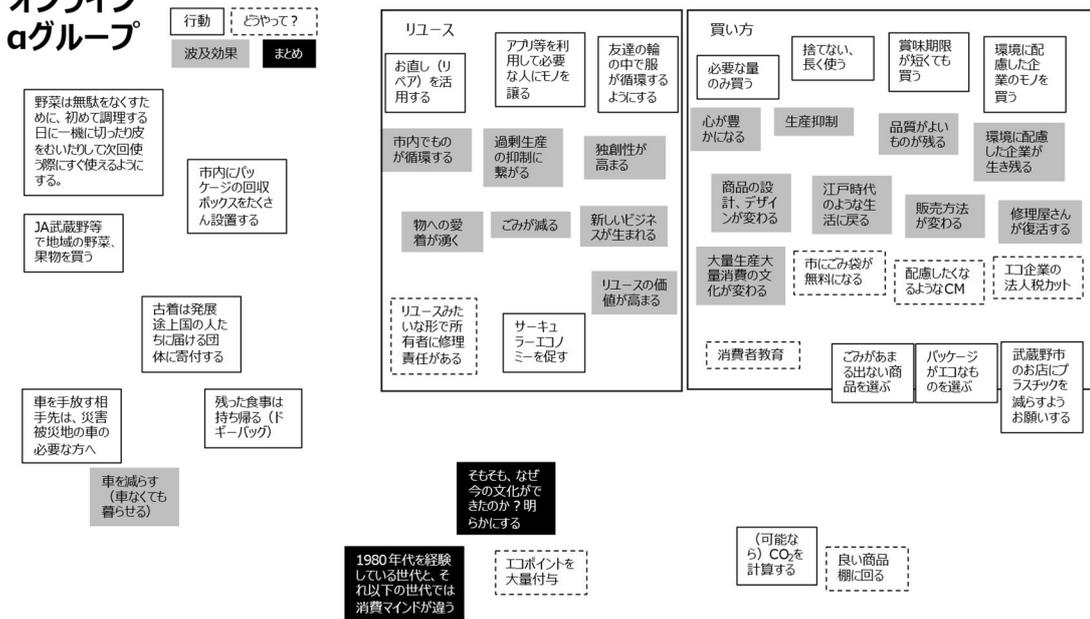
追加意見 (会議後アンケートより)

フェアトレードやオーガニックの経済効果や気候変動などの環境への影響のよいところは、「同じ消費額を支払うとCO2は下げるに経済の質を良くし、資源の消費や温室効果ガスの発生量が少なくなる」とです。「緑のトーン」に支配されるのではなく、頭と心を活性化させる消費ということができます。

海外製品に対するフェアトレードと併せて、国内の地方創成や「新しい産業、環境にやさしい産業の創生」などのクリエイティブなものづくり、起業を促す消費運動、例えば「オーガニック (for Create)」というような運動を武蔵野市から起こしてはどうか。

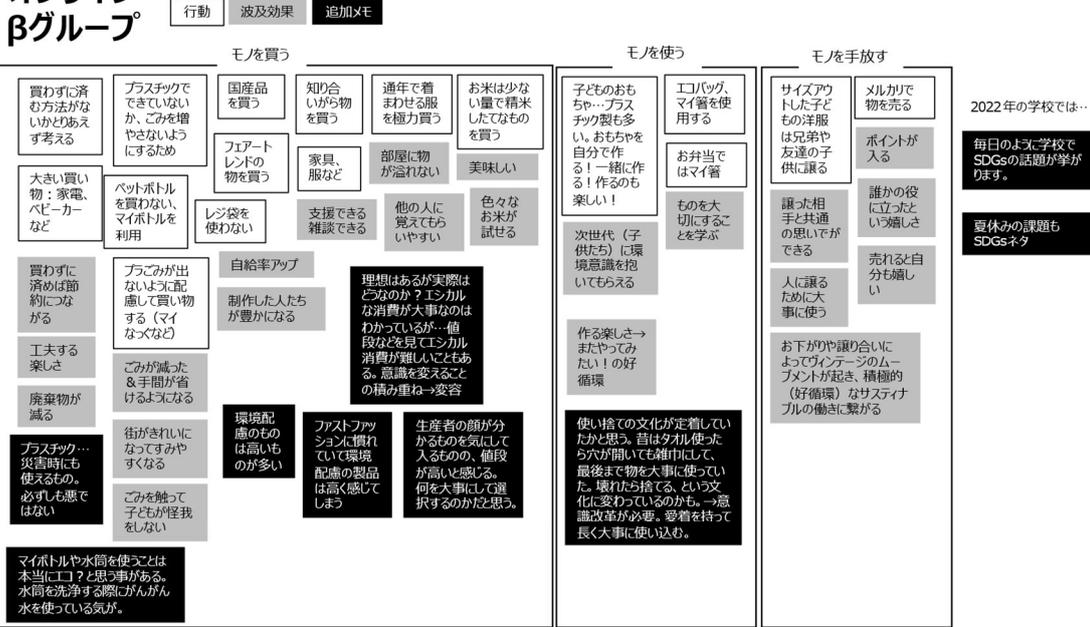
フェアトレードに対して武蔵野市がリーダーシップを発揮すればインパクトが大きいと考えた。それは、「短期的利益を最大にするために、生態系及び人間社会を地球規模で最も効率的に使う」というグローバル経済のあり方、市場経済のあり方を「まず、人間を尊重し、公共財を尊重する(市場) 経済の在り方に転換して行く」とする運動だと思、当たったからです。子供が労働力としてではなく教育の対象と考えられるような収入と環境への気付きは、発展途上国の人口増加を鈍化させ、世界のCO2の排出削減や、適応策へのモチベーションを高めると思う。

オンラインαグループ



追加意見 (会議後アンケートより)

オンラインβグループ



追加意見 (会議後アンケートより)

マイボトルやマイ箸、もの譲り合いに関して。その波及効果について、ものを大事にするとか人と繋がりができるか定性的な効果ではなく、定量的な効果がどこまであるのかが見えない。

ゴミ箱の大きさを小さくすると排出するゴミの量が減る、波及効果としてゴミ箱を減らす場所を取らなくなる。

(6) ゲストティーチャー・アドバイザーによる講評

< (ゲストティーチャー) 柿野氏による講評 >

普段は「モノを買う・使う・手放す」というテーマで、他の人と話す機会はあまり多くないと思う。今回はさらに様々な価値観の人がいて、活発な議論を通じて、多様なアイデア・意見があった。

例えば、「数年で着まわせる服を用意し、着ていくとよい」というアイデアがあった。私が今着ている服は、フェアトレードのオーガニックコットンのもので、色違いの上下の服を持っていて、ずっと長く着続けたいと思っているものである。また、「作ることを楽しみ、作ったものを楽しむ」という意見があった。一般に、「消費」というと、環境に対して負荷を与える悪い影響を与えるイメージがある。しかし、私たちが普段暮らしている中で、「消費」とともに「生産」に目を向ける「プロシューマー」の考え方を持つことで、暮らしを豊かにし、より積極的に社会に働きかけることができる。

Hグループの発表では、私たちの普段の行動が、家族や友達に影響を及ぼして、周りの人が消費行動を見直すことにつながり、それが社会全体につながっていくというストーリーが描かれていた。まさにその通りで、人々の価値観は多様であり、社会的なルールとして「これをしてください」「こうしましょう」と決めつけることは難しい。身近なところから興味や関心、価値観を広げていくことはよいと思う。Gグループの発表では、「モノを手放す人と欲しい人のマッチングシステム」が既に武蔵野市にあると聞いた。マッチングの仕組みは重要で、多くの人に使ってもらい、広げていってほしいと感じた。

全体を通じて、非常によい議論がなされていた。ぜひ、今後も議論を重ね、市民活動プランをまとめていってほしい。

< (アドバイザー) 江守氏による講評 >

本日のテーマは、すごく考えやすいテーマであると同時に、ある意味ではすごく難しいテーマだと考えていた。「考えやすい」とは、「消費」という日常の行動について議論するため、「こんなことに気をつけている」や、「もっとこんなことを考えていけばよいのではないか」など、話が盛り上がったと思うし、「どんなよいことがあるのか」を改めて考える機会にもなったと思う。一方で「難しい」とは、消費行動を波及させていくことが難しいという意味である。この会議の参加者は、ある程度関心がある人が集まっていると思うが、そうではない方も含めて、いかに社会の仕組みにつなげていくか、企業の行動につなげていくかまで考え、「消費」についての議論が進むとよい。グループ討議の結果発表では、「自分がよいと思う行動を周りに広げ、さらに企業や社会に広げる」というビジョンを描いた班があった。より積極的に、仕組みに働きかけていくことが考えられる。

また、「一定世代の人は、広告を見て、買うモノを決めるのが当たり前になってしまっている」との意見があった。仮に広告を規制する、といったことに考えを巡らせると、広告は社会が変わるひとつのきっかけになるかもしれない。昔はたばこのCMがあったが、今は規制されていることが一つの例である。また、「大学ではペットボトルの飲

み物を買っていない」という事例があった。強制的なルールだと嫌がる人が出るかもしれないが、ルールを決める時に議論に参加し、一緒に決めたルールであればみんなが守るようになるかもしれない。

武蔵野市気候市民会議は、市民活動プランを作るための会議で、市民の活動を対象にするが、市はそれを後押しする役割を有する。参加者の皆さんは、私たちの行動を広げていくためのリクエストのつもりで、市に対する後押しについても話していくとよい。

(7) 会議後アンケート結果

① 講演に対する質問等

カーボンフットプリントについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家計消費のカーボンフットプリントなどに対する理解を得ました。 ・ カーボンフットプリントについて、商品に CO₂ が含まれている量が記載されていると消費者が選びやすいと考えていたところ、ファシリテーターの方に「スウェーデンは表示されている」と教えていただきました。こうした事例について、ご存じであれば詳しく教えていただきたいです。
「食」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「食」はテーマに入っていましたが、講演には僅かにしか出ませんでした。どう考えればよいでしょうか。
ライフスタイルについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場でも出たが、買い物の「経済に与える影響」の中身が今一つクリアでない。ゲストティーチャーは経済の質の事と答えていたと思うが、経済の規模に与える影響についてはどう考えればよいのか。脱炭素型のライフスタイルでは、GDP（経済規模の指標）の拡大ペースは鈍化、若しくは縮小に向かうと思われるが、それは容認する/それを目指すということか。2050 年に向け、政府部内でそういう認識は広く共有されているのか。 ・ 「脱炭素型ライフスタイル」を日々の生活の中でどれだけ取り入れれば、「地球温暖化を 1.5°C 未満に抑える」ために必要な CO₂ の削減量 7,270kg-CO₂→3,000kg-CO₂ を達成できるのか、もう少し具体的に聞きたかった。
認証制度について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会や環境に与えるインパクトを考えて買う時の、選び方の指標になるようなマークや認証制度があれば教えてほしいです。
SDGs について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演をして頂いた、SDGs の 12 を使用されましたか、仲間と全体を活用し、旨く活用不可でした。CSR が最適と思料。
江守氏への質問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演者ではなく、江守アドバイザーへの質問（というよりお願い）ですが、CO₂ 以外の温室効果ガスに触れる場合には、代替フロンにも触れてください。武蔵野市地球温暖化対策実行計画 2021（区域施策編）2022 改定版では、代替フロンが CO₂ について大きな排出量になっています。メタン、N₂O の合計の 10 倍以上です。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柿野先生、貴重なご講演と講評をありがとうございました。 ・ 二つあります。第一に、本当の豊かさは何かと改めて考える必要がありそうです。世代間不公平は避けねばなりません。第二に、市民に環境配慮義務を課すことは法理論上可能とお考えになられるのでしょうか。 ・ Needs と Wants の差違についてももう少しお話しください。 ・ 「日々の消費生活において、さらにできることを考えよう」とありましたが、具体的に声を届けられる窓口や、どんな地域の活動があるかなどをまとめてあるサイト等があれば教えてください。

② グループ討議結果に対する追加の意見

A グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世代や属性の幅が多様であれば多様なほど深い討議ができるのだなと思いました。
B グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループの主な討議ポイントは個人の「やれること」に大変偏っていたと感じました。これは武蔵野市が決める、武蔵野市でやれることを討議する会議ではありませんか。この課題はあまりにも大きすぎて協同アクションがなければ解決できません。個人のリサイクルやメルカリ転売を討議しても意味ないと感じました。 ・ プラスチックの処理に関し、焼却炉の溶隔炉の件で知らない方が多いので、広報をお願いしたい。
C グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時ではいられたファシリテーターの方が討議の纏め作業に尽力して頂きました。 ・ 今回臨時で、市の女性が纏めの際に助けて頂きました。
D グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループの自分では考えなかった意見が聞けてよかったです ・ 設問に対し「モノ」とは、と考えると範囲が広く、日々努力しているものにとって具体的なことは挙げきれないほどあるので、戸惑いました。モノに限らずエコな生活をコマゴマと工夫していますが、置かれた状況により誰もができるわけではなく、私も体が不自由になれば無理。しかし地球はすでに火事、気候崩壊という状況との世界的認識がある中、この気候市民会議開催の意義は解っているつもりですが、個人の努力には限界があることをベースとして確認する必要があると思います。「買い物は投票」、私は買うものはほぼ生活協同組合、その生協活動を通じそう思って来ましたが今は疑問です。経済力のある人だけに限られています。食品やお弁当の配給に並ぶ人々は排除されています。経済的に苦しくても、例えばルッキズムへの過剰な情報で煽って、無駄な買い物をさせる利潤追求企業もあります。女性がエコを考え購入するモノを選びたくても、考えようとしなない男性の意向が優先する、ルッキズムも含めジェンダー平等のシステムに変わらないと厳しい現実があります。
E グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「感謝してものを捨てる」が近藤まりこさんによって提案されているとあの場で申し上げました。物はそれにまつわる人の歴史とも深く関わっています。そのため「歴史を捨てる」魔法の言葉はなかなかないかなと思います。
F グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物の買い方を変えていくことについて、意識が高い方については既に実践しているが、世の中の大多数が参画していくためには、政策的な対応（自然に対して影響のある商品の販売禁止や税制を不利に変更する）が必要になってくると考えます。

	<ul style="list-style-type: none"> 古着等で見られるサーキュラーエコノミーを考えた時、今一番足りなく、そしてインパクトがあるのは住宅分野なのではないか。新築至上主義から脱却し、中古住宅に手を入れて長く住む(ヨーロッパの様な)行動が求められる。
G グループ	<ul style="list-style-type: none"> 共感的傾聴で良いムードでした。 ファストファッションで安く服を購入できることで洋服のロスは増えていないか、また、フードデリバリーサービスに伴うゴミの増加についても考えてみたいです。 地方自治体がリサイクル/リユースをリードする場合、受け入れへのハードルを下げる必要があると思います。武蔵野市のエコポが例として討議で上がりました。
H グループ	<ul style="list-style-type: none"> 講演者によるフェアトレードのご紹介と、消費行動の経済への波及効果のお話を受けてグループ討議でも話題にしました。さらに考えてみたところ、フェアトレードに対して武蔵野市がリーダーシップを發揮すればインパクトが大きいと考えました。それは、「短期的利益を最大にするために、生態系及び人間社会を地球規模で最も効率的に使うというグローバル経済のあり方、市場経済のあり方」を「まず、人間を尊重し、公共財を尊重する(市場)経済の在り方」に転換して行こうとする運動だと思い当たったからです。子供を労働力としてではなく教育の対象と考えられるような収入と環境への気付きは、発展途上国の人口増加を鈍化させ、世界のCO₂の排出削減や、適応策へのモチベーションを高めると思います。 ①海外製品に対するフェアトレードと併せて、国内の「地方創成」や「新しい産業、環境にやさしい産業の創生」などのクリエイティブなものづくり、起業を応援する消費運動、例えば「フォークリエイト(For Create)」というような運動を武蔵野市から起こしてはどうか。 ②フェアトレードやフォークリエイトの経済効果や気候変動などの環境への影響の良いところは、「同じ消費額を支払うと、GDPは下げずに経済の質を良くし、資源の消費や温室効果ガスの発生量が少なくなる」ことです。「脳のドーパミンに支配されるのではなく、頭と心を活性化させる消費」ということができます。 <p>なお、先にホームページからお送りした追加意見については、是非とも、J-Stageに公開されている私たちのシンポジウム報告(下記)をご参考にして下さい:特別シンポジウム特集(オンライン2020年9月25日開催)</p> <p>第23回(2020年度)学術大会特別シンポジウム「コロナ後の持続可能な社会を構想する」報告</p> <p>中根英昭, 五箇公一, 福田敦, 鐘ヶ江秀彦, 山中英生, 加藤博和, 九里徳</p>

	<p>泰, 木村美智子, 福井弘道, 石橋健一</p> <p>著者情報</p> <p>ジャーナル フリー</p> <p>2021年 37 卷 1 号 p. 93-106</p> <p>DOI https://doi.org/10.32313/jahes.37.1_93</p> <p>https://www.jstage.jst.go.jp/article/jahes/37/1/37_93/_pdf/-char/ja</p>
I グループ	(なし)
オンラインα グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な考えをお持ちの方がいる中、文化を変えていくのはなかなか時間を要する話だと思うので、まずは仕組みで変えていくことが次第に行動変容に繋がっていくようにも思いました。
オンラインβ グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイボトルやマイ箸、ものの譲り合いに関して。その波及効果について、ものを大事にするとか人と繋がりができるとか定性的な効果ではなく、定量的な効果がどこまであるのかが見えづらい。 ・ ゴミ箱の大きさを小さくすると排出するゴミの量に気遣い、波及効果としてゴミ箱で場所を取らなくなる。

③ グループ討議に対する感想 (共感したこと、わからなかったこと、違うと思ったことなど)

<p>共感したこと、</p> <p>わからなかったこと、</p> <p>違うと思ったことなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少し時間が短いと思った。 ・ 環境問題へのしくみ、動機付けを持って楽しく取り組めば生活が豊かになると感じました。共感したことは、ライフスタイルを見直しと意識の向上です。 ・ 時間は短かったですけどちゃんと意見交換をできた分はとても面白かったです。 ・ 生活パターンの行動に対する皆さんの意識が高いと感じました。 ・ 類似した意見の配置が困難でした。まだ2回目なので、相互の信頼に欠けているとの印象です。 ・ 自分/みんなのできること、という討議内容でしたが、「みんな」とは消費者としてのみんななのか、地域なのか、社会全体なのかどの視点で考えればいいのかかわからず(定まらず)、前回よりも意見が散漫になってしまう感じがあったように思いました。 ・ 普段の生活であまりよく考えないことを意見出して話し合うことで、今後自分がどうすべきかどうした方がいいか自分なりに答えを出せた気がします。今後は環境配慮した物を買ったり、意識的に生活を送っていきたいと思いました。 ・ 自分とは違った意見を聞いて学びになりました。 ・ 何といたっても市民の日々の努力は、工業部門からの桁違いな排出量に
--	--

埋もれそう…。住民が反対しても無駄な公共工事を止めようとし
ないことなど、次世代へのツケより利潤追及だけの企業が国の権力者を動かし、気候変動への影響を考えない工事、経営を進めていて市民の意見などでは止められないシステム。「化石燃料による独占的な発送電システムを支えて来た企業郡の利益が優先される」といった事例もある現実の日本。企業にエシカル、サステナビリティを市民として求め期待しても、国の権力者を動かす力を持つ利潤追求の企業、虚しい思いがします。

またペットボトルはリサイクルしてるから使ってもエコ、それにポイントもつく、などと勘違いをさせる仕組みに、市はしっかり取組んで欲しい。捨てられるよりいいと致し方無いのかも知れませんが、マイボトルマイカップキャンペーンの市民活動、市内に給水所を設ける（エコレポートでも紹介されている）こと等、もっと推進して頂きたいと思いました。

- ・捨てることの難しさをしみじみ考えました。若い人との違いは物の執着の違いかなと思ったり、送ってきた人生の歴史の長さの違いが反映しているのかと。ただ、若い方の発想は素晴らしく、生き生きと意見を述べるのを拝聴するだけで未来は明るいと思いました。
- ・全員で意見を出し合い前向きな議論をできてよかったです 工程からCO₂の少ない商品を買うことの重要性、また、その話から低CO₂排出量が消費者に見えるように工夫できると良いことに共感しました。さらに、そのような議論に発展できたことが有意義に感じられました。
- ・日常行われている「買う、使う、手放す」という行為を、社会全体として無理なく脱炭素型に落とし込むのは言うに易く行うに難いと思った。
- ・「買う・使う・手放す」テーマは参加者全員が生活者として等しく体験する事象なので議論しやすかった。
- ・持ち物は、増やさないほうがいいと感じた。リユース掲示板むさしのエコボの事は知らなかった。
- ・たくさんの意見が出て、有意義なグループ討議でした。
- ・世代が違ってもしっかり意見を共有できる。
- ・考え方の違うメンバーの意見がとても参考になりました。
- ・希望的観測や身近なことからできることを中心に考えているが、早急に温暖化対策を進めるためのアクションプランを作成するには、もっと踏み込んだ議論をしていかなければいけないのかなと考えました。
- ・エシカルな消費をすでに意識・実践しているという意見を聞いて、自分も実践していこうという刺激になりました。
- ・1980年代経験者とそれ以下では消費マインドが異なるというお話は実

	<p>感しているところでもあるので、大変興味深かったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年齢層の方がいらして、提案事項も多種多様で良かったです。武蔵野市内を車不要の街にという案が面白かったです。 ・江守先生が、会場に集まっている方々は関心が高いが、一般には伝わらないとおっしゃっていたことが印象深いです。実は、自分自身は関心が高いので、CO₂のことがもっと分ると消費を変えられるだろうと考えていて、かえって「むずかしさ」が見えないところがあります。先生方が「むずかしい」と思った経験とか、事例とかを教えていただくとありがたいです。 ・共通意見が多く、安心しました。一方で、脱炭酸化に一石を投じるという意味合いでは、知見を深めてより新たな意見を提案できるようにしたいと感じました。 ・環境に配慮した文化を醸成することが急務だとつくづく感じました。次世代にこの夏の暑さのつけを回すことに申し訳が立ちません。大量生産大量消費社会から少し不便な社会にしても良いのではないかと。 ・マイボトルは本当に環境にいいのか疑問という意見に共感した。使い捨て容器を使わずにマイボトルを使うと、たしかに捨てられる容器は減るかもしれない。しかし、単純に考えると、マイボトルを作る・維持することで使われるエネルギーや資源に対して、使い捨て容器を作る・使う・捨てることで使われるエネルギーや資源の方が多くなると、マイボトルは省資源・省エネルギーということにならない。その辺りの効果を測った研究等あればぜひ知りたい。 ・いろんな年代の方の意見が聞けて良かったです。 ・環境に配慮した商品を購入する動機（機能、価格、デザインなど）を伺ってみたかったです。 ・他参加者のアメリカ的な発想が新鮮で刺激になって良いと思います。 ・似たような、表現のカードの配置が、不明。 ・包装紙などのお金を企業に負担させるなど、海外の目線からの話が出て、とても興味深かった。また、私の世代は自分で買い物をすること自体が少ないのであまり意見がいえなかった。 ・1回目も2回目も、イメージや意見出しで、終わっており、このままで、提言がまとまるのか。不安になります。
--	---

④ 会議の運営に対する意見・提案・質問

<p>時間について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回目だったので、初めの説明などは少し省いて、話し合いや、まとめの時間をもう少し長くできればと思いました。 ・ 平日の午後6時30分開始ですと、会社員の参加が難しく、意見が偏ってしまうのではないかと危惧しております。また会場を見渡す限り、高齢者が多い点も気になりました。 ・ 各グループの発表持ち時間を明確にさせていただいたり、討論終了前に意見取りまとめ・総論を準備する時間を設けていただくなど、会議全体進行・ディスカッション進行についても改善されるとより安心感を持って臨めるように感じます。 ・ 議論が活発だったこともあり、グループワークの時間が少し足りない印象でした。
<p>討議内容について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営者に、討議を「社会の仕組み」に導いていただきたいです。「個人の努力でやれること」は今でもやれて、環境問題の解決には明らかに不十分です。この会議こそは希少な、現実的で民主的な解決策を生み出す機会です。本当に武蔵野市に日本や世界の模範になってほしければ、市の仕組みを変えざるを得ません。そうしなければ気候市民会議は「話ばかりで時間の無駄」だと認識されます。
<p>オンラインの進め方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Google jamboard 初めて使いましたが良かったです。色々と工夫いただき有り難うございます。 ・ 新しい入力方法に手間取りました。前々回同様、ワードを立ち上げておき、チャットに張りつけるべくスタンバイしてました。思いのほか手間取り、十分に意見を開陳できませんでした。 ・ Jamboard を使うように、すぐに改善いただき感謝します。より活発にみなさんの意見をうかがえて貴重な時間を過ごすことができました。で、もう一つ細かいのですが、プレストに入る前に、プレストの原則を確認しておくことより流れがスムーズになるかと思いました。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 批判はしない。 2. たいしたことのないようなアイデアも歓迎する（自由奔放）。 3. 質より量を重視。 4. アイデアを連想、結合し便乗する、以上です。 ・ 今回から導入したオンライン上のホワイトボードシステムは使いやすい見やすさともに良かったです。
<p>ネット環境について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場のネットワーク環境が弱いと感じます。せっかくの先生方の講演でも大事な部分で音声途切れることが多々ありました。そのため残念ながら内容をよく理解できませんでした。その状態で講演終了後に「質問はないか」と名指しをされてしまうと困りますので、改善を図っていただけると大変助かります。
<p>複数回の内容の反映に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後のゴールに向けて市としてどんな案がほしいのか、また、江守先生がおっしゃっていましたが、市としてどんなサポートをしていただけるのか

<p>ついて</p>	<p>具体的に分かれると、より議論が進むと思いました。第一回、第二回の提案内容がこのあとの残り三回で、具体的にどのようにこれから活用させるのか気になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営ありがとうございます。第2回は、議論した結果が活動プランにどう反映されるのかいまいちよくわかりませんでした。買い物の仕方を指針として入れるということでしょうか。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の動く・働く（学ぶ）・遊ぶも楽しみにしています。ありがとうございました。 ・ 事前にグループ討議資料をいただけると準備ができると思いました。 ・ 時間が、長引、疲れました。リモートの方々の画面は、スクリーンに、全員の映像が出ると、一体感が出ます。 ・ 捨てるプラスチックも燃料とし、役に立っている。 ・ グループ討議の際、ポストイットを壁に貼るようにしたら、見易くなり議論も深まるのではないか。

3 第3回会議

(1) 開催概要

時間：令和4年9月27日（火）午後6時30分～午後8時30分
場所：むさしのエコreゾート（武蔵野市緑町3-1-5）、オンライン
参加者：会場47人、オンライン12人
テーマ：動く・働く（学ぶ）・遊ぶ
ゲストティーチャー：松橋啓介氏
（国立環境研究所 社会システム領域（地域計画研究室）室長）

(2) 事務局説明

以下の内容について、事務局が説明した。

- ・ 全体スケジュール
- ・ 本日のスケジュール
- ・ 前回の振り返り
- ・ 柿野氏による会議後アンケート質問への回答
- ・ テーマ別参加者アンケートの実施について

(3) ゲストティーチャーによる講演

以下の内容について、ゲストティーチャーより講演を行った。

テーマ：「動く・働く（学ぶ）・遊ぶ」

- ・ 脱炭素ライフスタイルより動く・働く（学ぶ）・遊ぶ
- ・ 脱炭素に向けて、移動をどうすれば良いのか
- ・ 移動で、CO₂はどれくらい発生しているか
- ・ 移動の脱炭素の方法
- ・ どの交通手段を便利にしていくか
- ・ 脱炭素かわさき市民会議からの提言の例
- ・ 第1回会議の成果から
- ・ 知りたいこと

講演後、以下の内容について、質疑応答を行った。

質問	松橋氏による回答
最近ハイブリッド車を購入したが、10万km走らないと元を取れないとの計算になる。うちはせいぜい10年間で3万kmになる。	元を取れるとの考え方は大事。ガソリン車の利用者が安くEV車を導入できるような仕組みが必要。10年間3万kmならば、合成燃料（CO ₂ を出さない）をより高い価格で買って、ハイブリッドで走る方が得になるという社会が訪れる可能性がある。ただ、乗用車の量が非常に多いため、そこを賄うためにはEVの方がいいと思う。

<p>EV車を作る時はレアアースを大量に使うとも聞いている。これに対する対応は議論されているか。資源面からはどう考えているか。</p>	<p>調達・リサイクルは確かに色々な問題がある。安く作ることで、色々なところに無理をして作っているので問題が出る。それは全くいいとは思わない。 ある程度価格が高くてもしっかりとしたEV車を作って、利用者が買える状態にしなければいけないと思う。少ないレアアースで作れる技術の開発等が必要になる。</p>
<p>自転車の利用が推奨されているが、自転車を置く場所がない。</p>	<p>自転車置き場の整備については、自治体からの応援はありえると思う。 ただ、一人一台の自転車を便利な場所に停めることに限界もあるため、シェアサイクルをうまく使った方がみんなにとってメリットがあると思う。 色々な方法で、自転車置き場の問題を緩和するのは、カーボンニュートラルの実現に必要なだと思う。</p>
<p>原発はカーボンニュートラルに貢献できると思う。原発の推進に関する意見をいただきたい。</p>	<p>過渡期的には再稼働は必要だと思うが、十分な情報は持っていないので、回答できない。</p>

(4) グループ討議

参加者はグループ内で「動く・働く（学ぶ）・遊ぶ」について意見交換を行った。

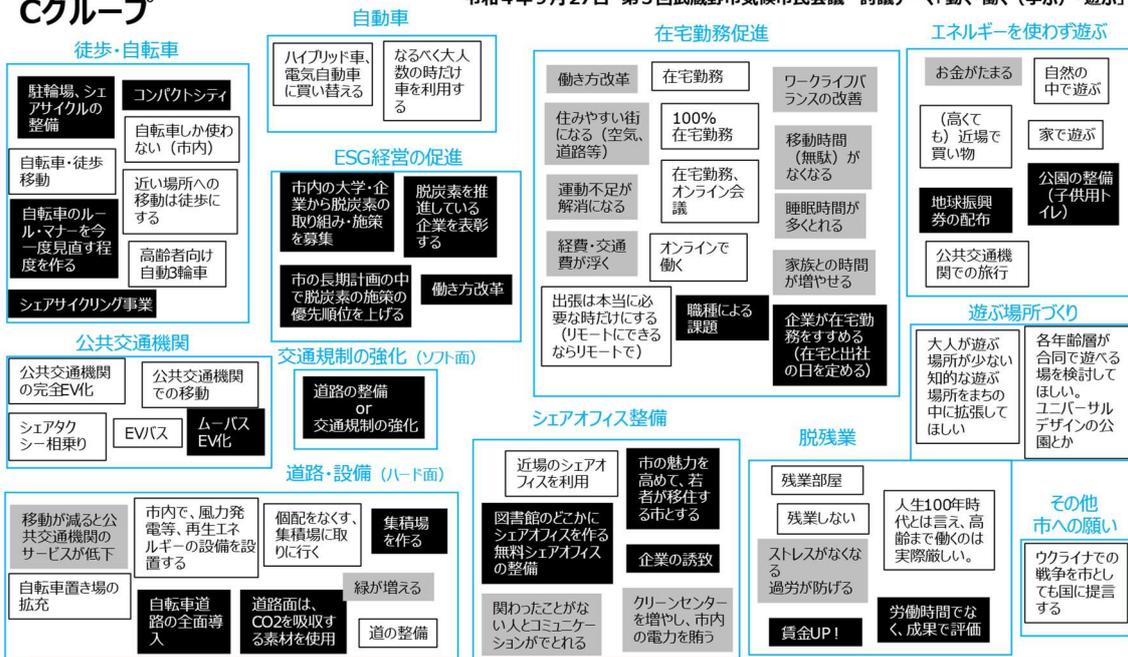
(図 2-4を参照)

グループ討議（第3回会議）

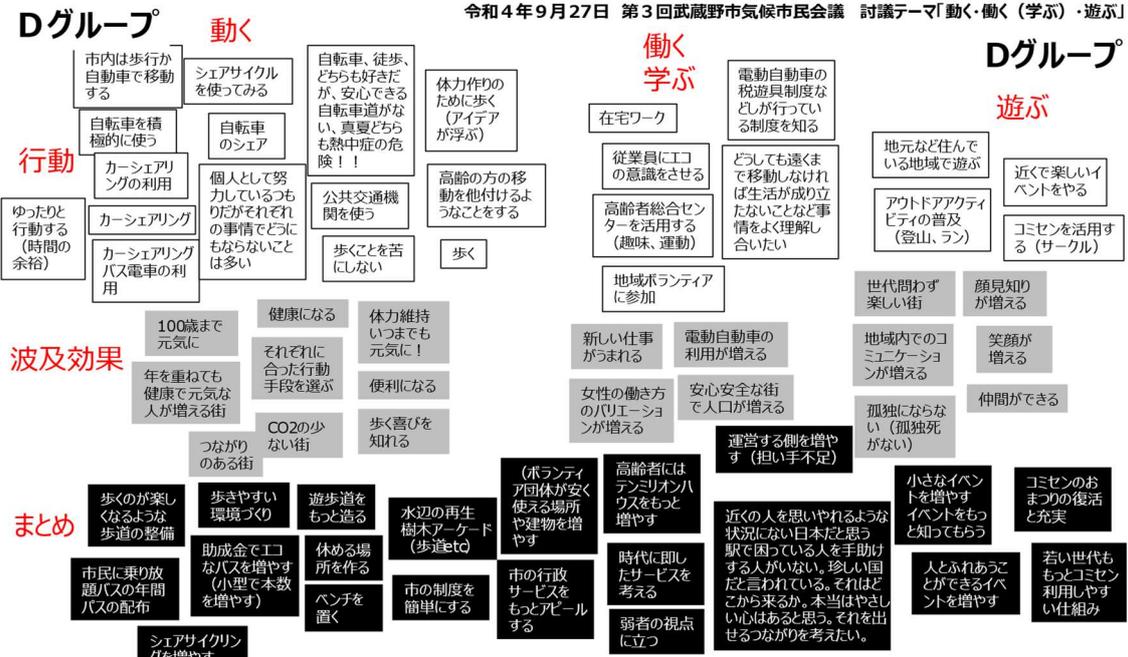


図 2-4 グループ討議内容

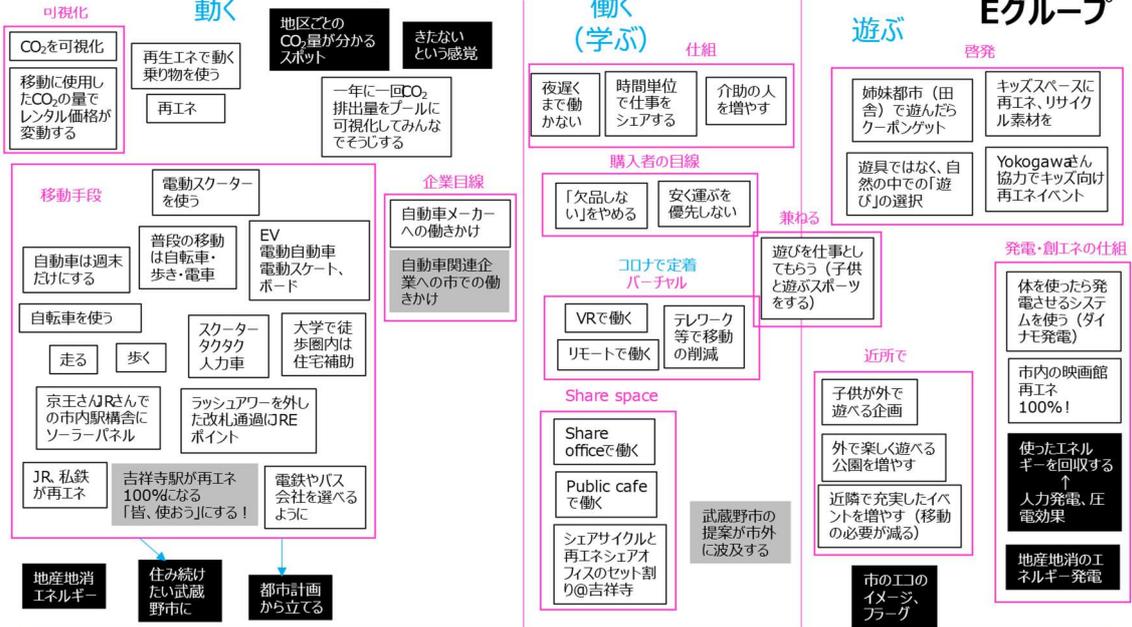
Cグループ



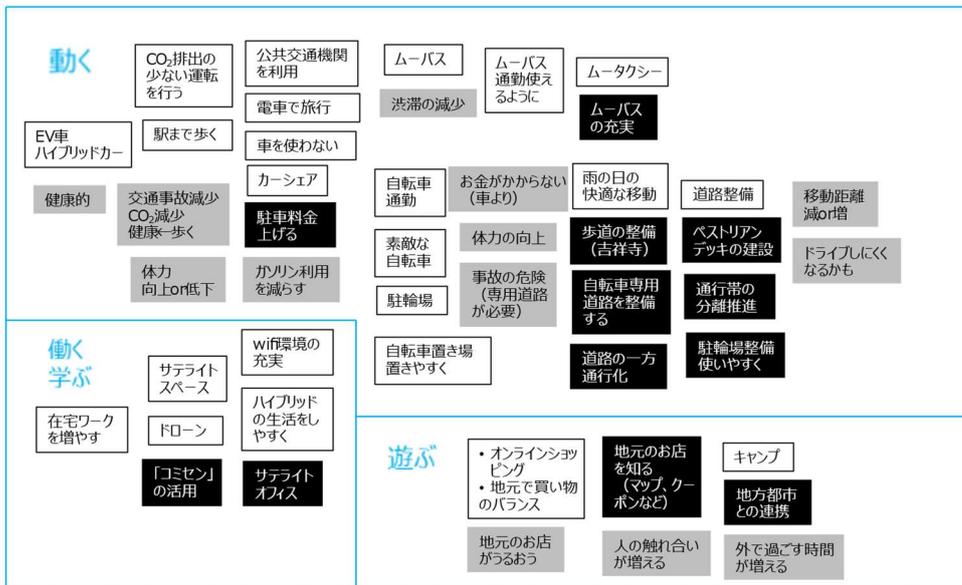
Dグループ



Eグループ



Fグループ

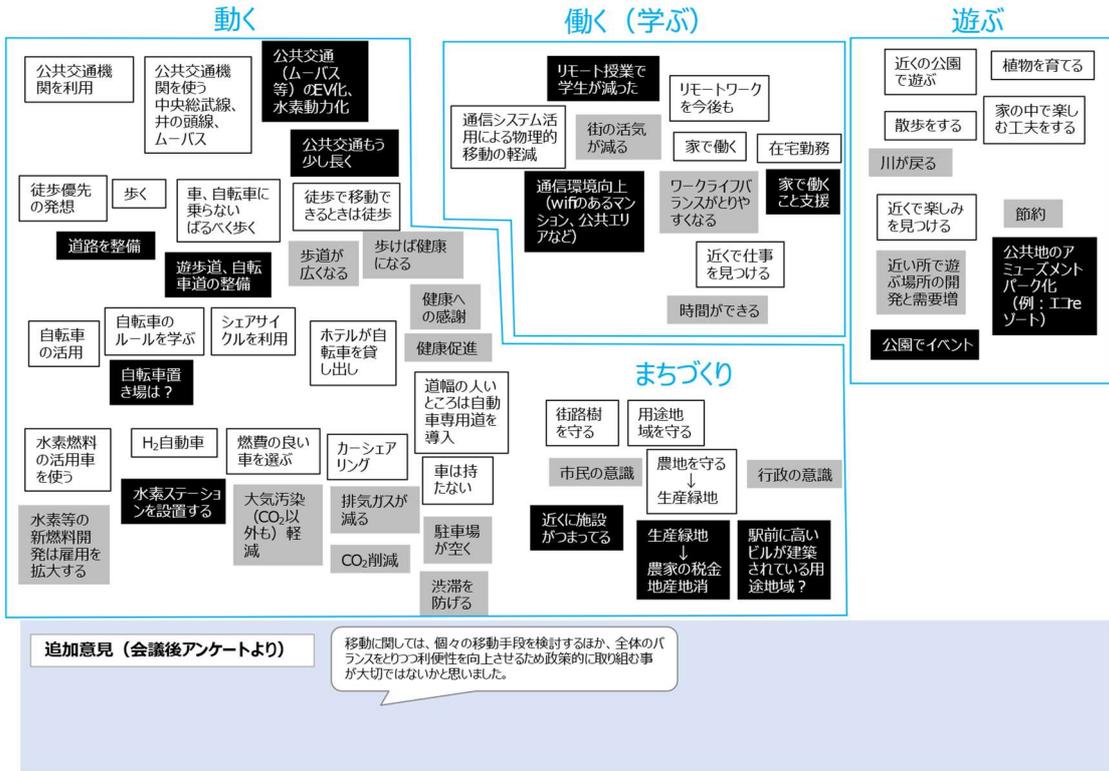


追加意見 (会議後アンケートより)

市という行政単位でできる、鉄道/路線バスに準ずる移動手段の新規導入(例えば電動スクーター)や拡張(例えばムーバス)、それらへのきめ細かい支援(例えば駐輪場整備)を考える時期に来ているのではないかと。

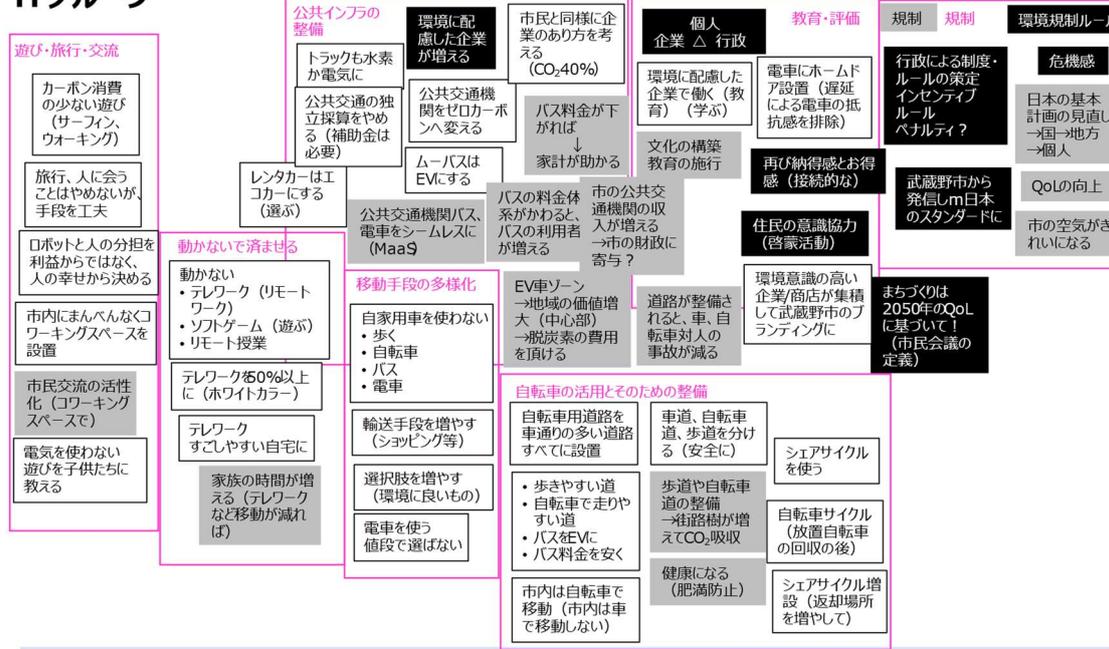
Gグループ

令和4年9月27日 第3回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「動く・働く(学ぶ)・遊ぶ」



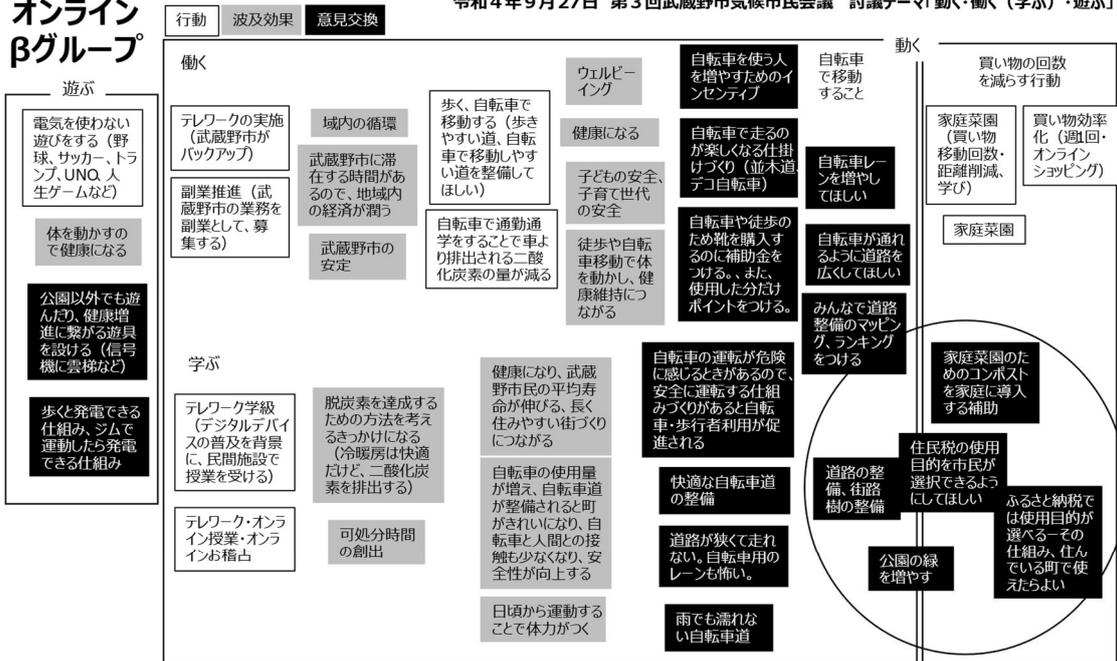
Hグループ

令和4年9月27日 第3回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「動く・働く(学ぶ)・遊ぶ」



オンラインβグループ

令和4年9月27日 第3回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「動く・働く（学ぶ）・遊ぶ」



追加意見（会議後アンケートより）

意見交換にて住民税の使途をふるさと納税のように市民が選択できるようにするとの意見がありました。また、行動のなかで、自転車が環境配慮に良いと認識されている参加者の方が多かったです。両者の視点を踏まえ、住民投票で武蔵野市の道路のうち、車道→歩道、自転車道にして欲しい道を選び、社会実験として、歩行者天国や自転車専用道とする取組があると良いと思いました。良さが実感できれば次の環境施策につながると思います。

(6) ゲストティーチャー・アドバイザーによる講評

< (ゲストティーチャー) 松橋氏による講評 >

2050年のゼロカーボンシティに向けて、学びになる意見がたくさん出ており、特に興味深いと思ったものがいくつかあった。

まず交通手段については、その手段が安かったり、早かったり、あるいは荷物が重かったり、それぞれの事情に応じて交通手段を選べるということが大事だが、一方で、交通手段を選べない人もいる。選べるような環境を作っていくことと、どうしても車が必要な人が困らないような方法を、今から考えていくことが必要となる。

次に、交通手段の優先順位をつけるということ。駅前などでは歩きが優先され、次に、みんなが利用できるバスを優先する。さらに自転車、最後に自動車という順位がよいという考え方で、議論されていた。このような優先順位に沿って、道路の使い方や駐輪場の整備などについても見直していくことも、議論が必要になるだろう。シェアリングについても、シェアオフィスやカーシェア、シェアサイクルなどの意見が多くグループで出ていたようだった。

武蔵野市らしい議論の一つにコミュニティバス「ムーバス」があった。もし自動運転化すれば運転手の負担が下がり、本数を増やせるようになるかもしれない。電動化や自動化などの技術を使い、たくさんの路線を走れるように高頻度化することは、武蔵野市のできるチャレンジの一つであろう。課題として挙げられた電力の不足という点については、「姉妹都市のような市域外と連携し、再エネを調達できるようになるとよい」という意見があった。同時に、日本全体で再エネの拡大を考えていくことも必要である。

個別の提案や意見へコメントしていく。「歩行者天国を実施する」については、時期・時間を区切るなど、実施可能な取組だと思う。「駅・映画館など100%再エネにしたらい」とについては、市に対する提案ではなく、事業者に対してどのような後押しできるかという提案と捉えることができる。「地元の店を大事にしたい」については、多様な店を応援することで、まちの魅力向上につながるであろう。「ソーラーパネルで歩行者の屋根を作る」については、各地で広がるとよいと私も考えている。

本日は、さまざまな興味深い意見が出された。全5回の意見がまとまることを楽しみにしている。

< (アドバイザー) 江守氏による講評 >

議論にあたり示されたルールに、「他の人の発言を否定しない、遮らない、批判しない」とあった。これは、大事なことではあるが、「みんなと同じことを言わないといけない」という雰囲気につながるとよくない。他人と異なる意見を持ってよいのであり、「人の意見を否定する」と区別して捉える必要がある。武蔵野市気候市民会議は、無作為抽出による参加者も含まれ、多様な人たちが集まっており、同じような考え方を持つ人が集まっている訳ではない。価値観や世代、属性が異なる人がいるため、何で意見が異なるかについて互いに理解し合うことも、対話するためには重要なことである。

次に、グループ討議の結果について述べる。まず、武蔵野市の地域特性からか、自動車よりも徒歩や自転車、バス、電車について話し合われていた。車が好きで車に乗る機会が多い人、事情により車に乗らざるを得ない人などの意見にも目を向けると、より有意義な議論になるだろう。また、自転車やバスについての議論では、「駐輪場を整備してほしい」「道路整備してほしい」といった意見が多かった印象を受けた。武蔵野市気候市民会議のミッションは市民の行動の規範を考えることにあるが、市に対して「このようなサポートがほしい」という意見が出ることもよい。

「移動」について考える際、「移動の手段」ではなく「移動の量」を減らすことも考えられる。オンラインを利用した社会が発達すると移動の量が減り、エネルギーに加え、さらには自分の時間もセーブできることにも着眼したい。

講演への質疑応答の際には、参加者から、電気自動車の価格、バッテリーの製造過程で使用される素材の供給確保、バッテリーの廃棄の問題に関する質問があった。電気自動車は、日本での普及率はまだ低い状況にあるが、個人的には世界全体ではさらに普及が進むと考えている。将来は、バッテリーのリサイクル問題が徐々に解決されたり、次世代バッテリーが開発されたりするだろう。このような将来の方向を前提に、移動の問題を考えていくと違った見え方がしてくる。今すぐに電気自動車に換えるのではなく、次に買い替えるときに電気自動車を選択することでも、おそらく2050年のゼロカーボンに間に合う。そういったスケールで話し合ってもらいたい。

さらに、グループ討議結果の発表で、「ここで議論したことを武蔵野市以外にも広げたい」との発言があった。次回以降も、そのような意気込みで議論をしてもらいたい。

(7) 会議後アンケート結果

① 講演に対する質問等

E V 車について	<ul style="list-style-type: none"> ・「マイカーをE Vに」などが表に纏まっていましたが、「マイカーをeバイクに」はどのような効果があるのでしょうか。 ・ガソリン車を買って替えてまでハイブリッドやE V車にする方がエネルギー効率が本当に良いのか分からないままでした。電気を作るのにも石油や石炭などの資源を使っているはずです。
自転車について	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市のお話がありましたが、武蔵野市との地政学的な違い、すなわち前者は坂が多く、後者はフラットというような点は、自転車利用等に影響を与えていると思いますが。前者で自転車の活用が言われたのであれば、なお一層後者はそれが重要となると思います。
テレワークについて	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン、テレワークはやはり、いいことなのでしょう。問題点も出てきていると思います。様々な職業がありますので、テレワークできない仕事の人のことも考えた意見もあればいいなと思いました。
事例について	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にございました、ネガティブエミッション技術に関心を持ちました。日本国内または海外で自治体として計画化している都市(事例)がございましたらご教示頂けると幸いです。 ・脱炭素化につながる市民行動として具体的な行動事例をご提示頂き参考になりました。国内外問わず個人の行動変容により行政区、国内へと環境の取組が拡大していった事例があればお伺いしてみたいです。
江守氏への質問	<ul style="list-style-type: none"> ・江守先生に質問です。2050年にゼロカーボンを実現するために日本は温室効果ガスを2030年には2013年比で60%以上削減する必要があるとの研究結果が世界的に信頼されている報告だと認識していますが、その数字に対して武蔵野市の掲げる53%削減という目標値は低すぎるように思います。武蔵野市の目標値は適当とお考えでしょうか。また、CO₂排出量が業務部門と家庭部門が多い武蔵野市で特別な規制や罰則を作らずにあと8年で目標を達成することは実現可能なのでしょうか。江守先生の見解をお聞かせください。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「移動の脱炭素」についてのお話は、その考え方がとても参考になりました。 ・「一人あたり年間乗用車CO₂排出量武蔵野市0.21」とのことであるが、車検証の登録地・総排気量データ・PT調査・OD調査のほかどのようなデータを基に算定したのでしょうか。相当数の市外地登録の通過車(特に五日市街道、井の頭通り、吉祥寺通り等)が含まれていないのではないのでしょうか。PT調査・OD調査での経路調査は困難だといわれている。武蔵野市の交通特性のデータを把握の上反映されているのでしょうか。施策の前提として妥当なのでしょうか。 ・移動の脱炭素の方法の項で「低炭素エネルギーに転換する」ことの例示

	<p>として電力（原発と思しき表示もある）が掲げられている。「発電システムが火力発電に依存する現状では、排出量は逆に増加する」との見解もある。欧米等に比して、電源構成が偏らざるを得ない我が国ではどのように考えたらよいのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の講演は交通の登壇しかなく、意見が偏っていたと思います。実際に交通の講話だけで、働き方や遊びに関する講演内容が無く、その後のグループ討論に大きく影響していたと感じています。多くのグループが交通の話だけに留まり、あまり有意義な討論とは思えずとても残念に感じる。講演してくれた先生と運営のすり合わせをもう少し丁寧に行うべきだと思います。3回目の会議内容としてはとても薄い内容であったと感じます。気候変動に対して交通からみた理想や空想を語る場になっていて、働く場としての武蔵野市や遊ぶ場としての武蔵野市の会議が少ないのは残念でした。 ・ 将来的には、不要不急の長距離の移動、例えば海外旅行等は行きにくくなる時代がくるのだろうか。 ・ データを用いた説明がとても分かりやすかったです。また、かわさき市民会議で出た意見をご紹介いただき、新たな気づきを得ることができました。
--	---

② グループ討議結果に対する追加の意見

A グループ	(なし)
B グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人は自転車を使いやすくする取り組みを支持しているようですが、車優先街づくりの維持を強く訴える方もいらっしゃいました。この少数派の気持ちを尊重するのが大事である一方で、デンマークやオランダみたいな道路転換への進捗を拒ませてはいけなと感じました。妥協しながら進まなければいけないかもしれないが、それでも進まざるを得ません。
C グループ	(なし)
D グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーターの方にもっと意識を高めにリードしてほしい。付箋に書く事に集中して議論が出来ていない。(議論から良いアイデアが生まれる時間が足りない)
E グループ	(なし)
F グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市という行政単位でできる、鉄道/路線バスに準ずる移動手段の新規導入(例えば電動スクーター)や拡張(例えばムーバス)、それらへのきめの細かい支援(例えば駐輪場整備)を考える時期に来ているのではないか。

G グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動に関しては、個々の移動手段を検討するほか、全体のバランスをとりつつ利便性を向上させるため政策的に取り組む事が大切ではないかと思いました。
H グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただ市民が意見を共有するだけになっており、行政がどれくらい真剣に取り組んでいけるかが大きなポイントであると思う。実際にグループ討論がどれくらい影響を与えることができるのかが曖昧で残念。一つ踏み込んで、この会議で40%のCO₂の排出している企業や商店へのアプローチがまるでないため、本当に2030年までに行政・企業・市民の連携でCO₂の削減53%に達するかが心配。気候市民会議もメディア向けや形式的で行う会議であればあまり意味がないと思うので、意見を行政に反映してもらいたい。市民の行動変容を促すとともに、武蔵野市の企業の在り方や企業変容を促すことにも尽力をして欲しい。日本の基本計画である2030年に50%のCO₂削減は意識が低い。武蔵野市はもっとしっかりと削減目標に対してパイオニアになるつもりで取り組んで欲しい。例えば2030年までにCO₂を60%の削減など世界の水準で施行してほしい。
I グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ討議は皆がだいぶ「違った視点からの意見」を出せるようになってきて良かったです。 ・ 私は武蔵野市の高齢者住宅に務めていました経験からレモンキャブの利用を薦めております。レモンキャブを知らない方が多いので、もっと広めて増車して頂けたらと思います。 ・ 今後、他の自治体にも広げていきたいという意見はとても良かった。移動手段のCO₂排出量の見える化→これを基準に市民が選べる仕組みづくり
オンラインαグループ	(なし)
オンラインβグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換にて住民税の使途をふるさと納税のように市民が選択できるようにするという意見がありました。 また、行動のなかで、自転車環境配慮に良いと認識されている参加者の方が多いました。両者の視点を踏まえ、住民投票で武蔵野市の道路のうち、車道→歩道、自転車道にして欲しい道を選び、社会実験として、歩行者天国や自転車専用道とする取組があると良いと思いました。良さが実感できれば次の環境施策につながると思います。

③ グループ討議に対する感想（共感したこと、わからなかったこと、違うと思ったことなど）

<p>共感したこと、わからなかったこと、違うと思ったことなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私達のグループは、車移動の方が少なく、自転車や徒歩の話が中心でした。他のグループの発表を聞いて、全く新しい違う視点でお話をされていたことが分かり、考えが拡がりました。 ・ シンガポールでの規則を破った際の「罰金」の話は参考になりました。 ・ 「市民としてこういう活動をしたいのでサポートしてほしい」という観点ではなく、議論が市への要望に留まっていたなど反省しました。 ・ 自転車道に関して不満を持っている方が多いと感じました。 ・ みなさん、武蔵野市が良くなるように、そして、武蔵野市から他の市へこの活動が広がるように考えながら参加しているので、多くの意見を聞けてとても面白かったです。特にもっと遊歩道のようなものを市街地から駅まで増やすとか、休憩場所が少ないという意見には大変共感しました。もっと楽しい街になるといいなと思いました。 ・ 自転車が健康につながるけど、安全面などが障害になっていると感じている人が多いと感じました。渋谷区から武蔵野市に転居し、同じ認識を持っており、環境視点で交通安全を克服できると面白いと思います。 ・ 脱炭素社会に向けて行政と一緒に仕組みが立案できれば良いとグループ内では、意見が一致しました。 ・ 討議の中であがっていたように武蔵野市から発信して周りの市にも波及する案を考えていきたい。武蔵野市での地産地消での再エネについても共感した。 ・ 電気自動車はCO₂削減の面では賛成だが、高額なのと充電の面などで難しい。 ・ 交通手段の検討にあたって、社会としても個人としても、多様性をどこまで許容できるかが鍵のような気がしました。 ・ 高校生の方が提案された「武蔵野市街歩きスタンプラリー兼抽選会」がとても楽しそうでした。付箋に纏まっていなかったと思いますが是非参加したいです。 ・ 自治体によってある程度強制的に生活スタイルや移動手段を変更させること、そして気候変動等に関心な住民にもその生活を不便に感じさせないことが重要だと考えた(後者がないと行政からの一方的な変更と捉え不満をだす人も多いと思われるため)。両面の施策を考えた上での実行なのでは。 ・ 江守先生がおっしゃっていた、人の意見を尊重しながらそれに対する自分の思っている意見も言えるようにすること、私も思っていたので共感いたしました。
------------------------------------	--

- ・ 自転車の使い勝手をさらに良くするという提案が多かったが、一方でルールの周知徹底が求められるのではないかと。
- ・ 「移動弱者」を出さないような配慮が必要なのではないか。
- ・ シンガポールの例で、かなり厳しい規制がかけられて温室効果ガスの排出削減が進められており、市民は義務を課せられているのでみんなが同じ条件ということでルールは守られて市民同士の関係性もフラットであるという話に共感。目標達成にはきちんとしたルールが不可欠と考えます。私たちのグループでは移動手段として市全体の環境が良い事が前提となるアイデアが話し合われた。ズルをしても儲からない仕組み、安心して利用できることが移動については重要。全体に関わる規制がある事で市民同士の関係性はフランクでいられるといった意見もあり、共感した。遊び、学びのテーマについては講義でも抜けていたし討議の中でも少なかった。学校の多い地域なので、学校給食の菜食化、地元農家との協力、自然エネルギーの自家発電、緑化、再エネシフトなどで温室効果ガス削減が出来そう商業施設も同じく。
- ・ 市民ができる努力は大切ですが、経団連は炭素税を渋る、富裕層ほどCO₂排出量が多い、欧州諸国は成長率を上げながらCO₂排出量を下げているのに対し、日本は成長率は下がり、CO₂排出量は増えている、これは国が本気で取り組んでいない、多額の献金の方に動く…などと報道は伝えていて、日々の工夫は虚しくも思われます。江守先生も他紙に執筆されていらっしゃるように、システムの変化が必要、私達市民はその後押しをする、それは持つべき大切な意識だと思いますが、日本では政治に関心を持つ教育は残会ながら、という状況です。私は生活は政治に直結している、その意識で市民活動や生協活動をしています。ここではそんな意見は出て来ません。私は「政治」ということを書き出しましたが。市民が生活を通じ社会に関心を持つ、そんな市民コミュニティが広がり、繋がっていける武蔵野市でありたい。
- ・ テーマをもっと絞ってチームの中で深い議論をしたい。思い思いのことを発表するだけになってしまっている。
- ・ 講演が交通しか議題になく、グループ討論のテーマが交通に偏っていたこと。どのグループも同じ内容で話をしていて、同じような結論に至っていることが多く、グループによって深める内容が異なってもいいと感じます。3つは遊び、3つは働き方、3つは交通など。テーマが大きいのでそれに伴い、同じような意見の集約に留まらず、多岐にわたるテーマ分野で多くの意見が集められたほうがいいのでは、と感じました。
- ・ どのグループも「遊ぶ」に関する意見が少なかったのもっと深めていけたらと思いました。

④ 会議の運営に対する意見・提案・質問

<p>当日の進行について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行役の方をかえてみるのもいいのではと思います。 ・ 限られた時間の中での議事進行など円滑で良いと思います。 ・ 今回は「社会の仕組み」に関するアイデアをもっと引き出せてよかったと思います。ただ、グループごとの討議仕様が標準化していないと感じました。 ・ ファシリテーターの方が積極的に軌道修正等をしてくださるので大変助かります。ありがとうございます。 ・ 無理は承知ですが、すべての時間が足りません。 ・ グループ討議の際、ポストイットを壁に貼るようにしていただいたが、わかりやすくなったと思う。 ・ G討議にあたっての注意事項にある対話をキャッチボールのように…短く話そう…などにじっくり話すことを拒否されているように感じます。付箋に書くことも簡単に短く、心掛けないと間に合わない、何とも慌ただしく、もちろん限られた時間にたくさんを求めどんどん進行させたいお立場は解ります。しかし突拍子もないアイデア、自由な発想とはグループで安心して話せて、温まった場となって生れて来るのではないのでしょうか。慌しさについて行けないようなノロい頭の人駄目？しかし一般市民の参加を求められたのではないのでしょうか。また注意事項から言えばF Tの力量、専門性はもっと必要だと思います。余裕がないのは解りますが、各世代が混じり合うG構成だけでなく、同世代ごとに意見交換できる場面も折り込めると、もっと血が通うアイデアも飛び出しそうに思います。 ・ グループ討議の時間(個人の発表時間)が少し短いと感じました。
<p>オンラインのやり方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 付箋紙に入力することができず、発言をしました。先月はできましたが、なぜ今回はできなかったのか。今一度、付箋紙へのオンライン上での入力方法のマニュアルを事前にご送付ください。ひょっとしたら、ネット環境にも拠るでしょうが。
<p>意見のまとめ・反映について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脱炭素について 3 回のグループ討議ができて、市民としてはとても有意義でありがたいと感じています。ここで話し合われたものが、この後の市政でどのように活用されるのか、そろそろ、そういった視点のコメントも市のご担当からいただくと議論の励みになると感じています。 ・ 自由な意見をとのことですが、武蔵野市が求めている意見と市民の意見に相違があるのではと感じています。次回終了後の個人アンケートが市の提言する方針に直結するのかなと思いますが、具体的にどんな意見を求められているのかご教示いただくと更に良い結論が個人で出せるのではと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな目標を達成するためには行政、企業、市民があつてこそ達成されるべきであるが肝心の企業が抜けているのが一番の問題だと思う。 気候市民会議は 5 回で終わらせないでその後有志を集め、企業を交えての会議も必要だと思います。 ・ 前半の講演のあとの質疑応答が毎回本論とずれることが多いので不要かと感じています。また質問の内容によっては、環境に明るくない一般参加者の環境への意識の減退に繋がりがかねないと感じています。その場でのご発言ではなく、紙のアンケートで伺う等したほうが良いかと思います。 ・ 回を重ねるごとに、多くの意見が出されていく中で、どのように、提言に結び付けていくのか、のプロセスが見えないので、若干不安になります。 ・ 前回までのレビューや意見の集計が多くあると、個々が関わっている実感がわくと思います。本当に自分たちの意見が反映されているのかがわからないため不安になる。 ・ 私たちが話し合っている内容がどのように武蔵野市の温暖化対策に活用されるのか具体的なプランが明示されないので会議自体に徒労感が出ています。武蔵野市市民へのお願いを作成するのではなく、CO₂削減(武蔵野市の気候危機対策＝温室効果ガス削減がメインなら)の目標を達成するために市が必要な規制を設けていく、その内容をみんなで考えることが必要と感じます。今までの内容を見ていて、本気で市が 2050 ゼロカーボンを実現しようとしているように見えません。 ・ 会議の準備から当日の運営など毎回ありがとうございます。会議の目的である気候変動打開市民活動プランがどのようなものかをある程度暫定的にでも知りたいです。もしくはそれを議論すべきとも思います。気候変動は行政、市民、企業、など様々な立場におかれる者どうし手を取り合わなくては目的に到達させるのは難しい問題であるのと時間的に切迫しているこの状況にたいして市民一人ひとりのライフスタイルの変容を意識した討論が続き、この市民会議が問題解決の貢献につながるのかを懸念しています。実際に武蔵野市は温室効果ガス排出量の割合が4割が家庭で4割が企業が出しているなかで、企業への働きかけはどのように考えているのでしょうか。詳しい人、詳しくない人様々いるなかで、討論された内容が「市民の声」として取り扱われる事も懸念しています。もう少し会議参席者に情報のインプットが必要にも思います。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発言が聞き取りにくいときがあり善処いただきたい。 ・ 今後、メニューの設定とそのアンケート評価によって方向性を選択するという従来からの手法を踏襲することとしているようであるが、その妥当性はあるのでしょうか。例示を見る限り、メニューの選定が通俗的レベルにとどまってのように思えてなりません。設定に特段の工夫を要するのではないのでしょうか。

4 第4回会議

(1) 開催概要

時間：令和4年10月25日（火）午後6時30分～午後8時30分

場所：むさしのエコreゾート（武蔵野市緑町3-1-5）、オンライン

参加者：会場48人、オンライン11人

テーマ：住まいのエネルギー

ゲストティーチャー：前 真之氏（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 准教授）

(2) 事務局説明

以下の内容について、事務局が説明した。

- ・ 全体スケジュール
- ・ プラン作成の流れ
- ・ テーマ別参加者アンケートの実施について
- ・ 本日のスケジュール
- ・ 前回の振り返り
- ・ 松橋氏による会議後アンケート質問への回答
- ・ 江守氏による会議後アンケート質問への回答

(3) ゲストティーチャーによる講演

以下の内容について、ゲストティーチャーより講演を行った。

- ・ 電気・ガス代とCO₂排出量をムリなく効果的に減らす方法
- ・ オイルショックから50年、確実に効果が実証されている技術は
- ・ 電気代・ガス代はときどきチェックしておきましょう
- ・ 月々の電気代、どこを減らすのが効果的か
- ・ 燃料別・用途別エネルギーコスト
- ・ 省エネ家電への買い替え
- ・ 給湯の省エネ（高効率設備+節湯）
- ・ 電力が足りないのは「冬の夕方」暖房の節約が重要
- ・ 住宅の断熱、断熱リフォーム
- ・ 3つの電気代を間違いなく安くできる確率された技術
- ・ タダの電気を使える屋根載せ太陽光は最強 自家消費を増やすのがいい
- ・ 太陽光発電の載せ方は大きく3つ
- ・ 太陽光発電は本当に良いものなのか
- ・ 再エネメインの電気を契約することで再エネの普及を応援できる

講演後、以下の内容について、質疑応答を行った。

質問	前氏による回答
省エネと換気が両立できる目安を教えてください。その辺の普及啓発もお願いしたい。	おっしゃる通り、換気をちゃんと行っていなくて、空気質が悪い家が多い。過換気すると省エネできない。非常にいい視点。日本は空気質、換気についてはコロナ以前にあまり議論されていなかった。 CO ₂ センサーで計測して、CO ₂ 濃度が自宅 1000ppm、学校等が 1500ppm を超えないように換気していただくのが望ましい。測れない場合は、エアコンの近くに換気口があると、入ってきた外気がすぐにエアコンに吸い込まれて、温めるのが一番いい。一概にこれがいいとは言えないが。

(4) グループ討議

参加者はグループ内で「住まいのエネルギー」について意見交換を行った。

(図 2-5 を参照)

グループ討議 (第 4 回会議)

住まいのエネルギー

1. 全体説明【5分】

2. グループ討議【50分】

- 行動
- 波及効果

【30分】

■ まとめ【20分】 19:40～

3. 発表 (3グループ) 【15分】 20:00～

4. 振り返り【10分】 20:15～

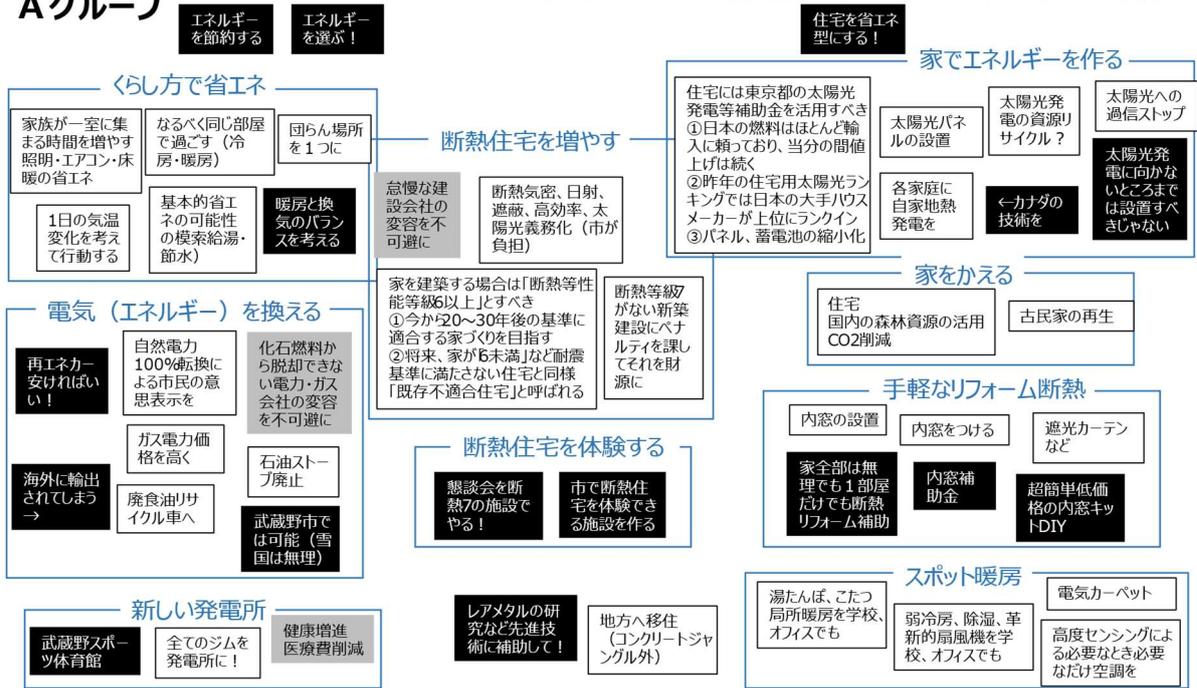


図 2-5 グループ討議内容

(5) グループ討議結果

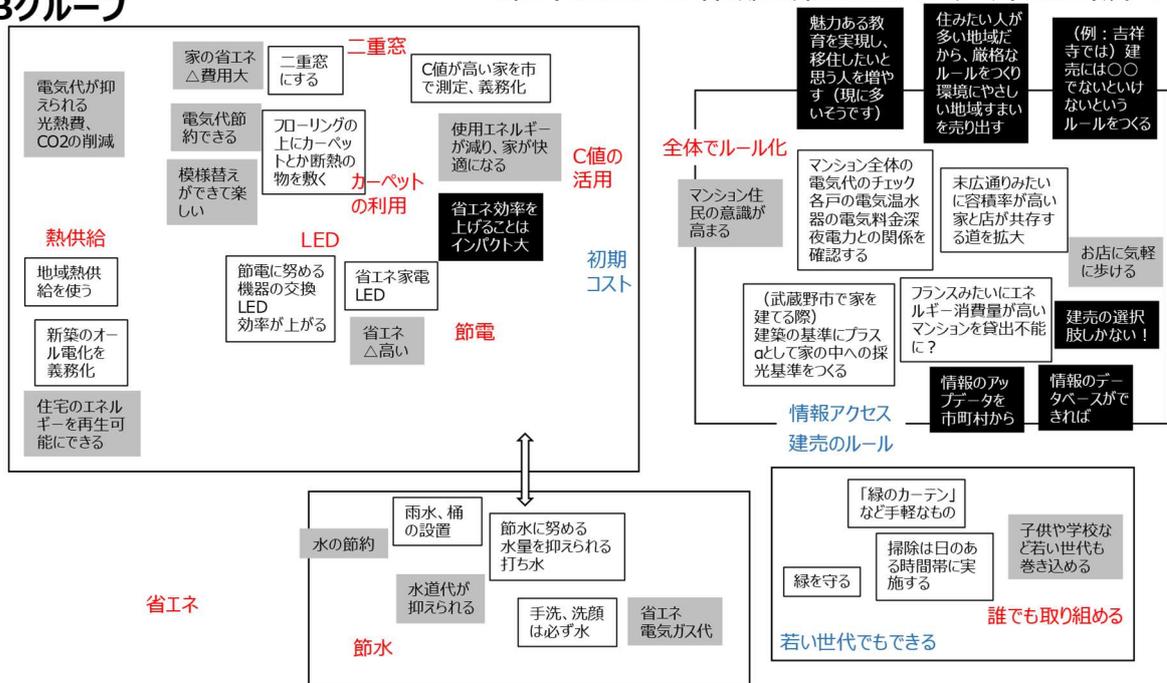
Aグループ

令和4年10月25日 第4回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「住まいのエネルギー」



Bグループ

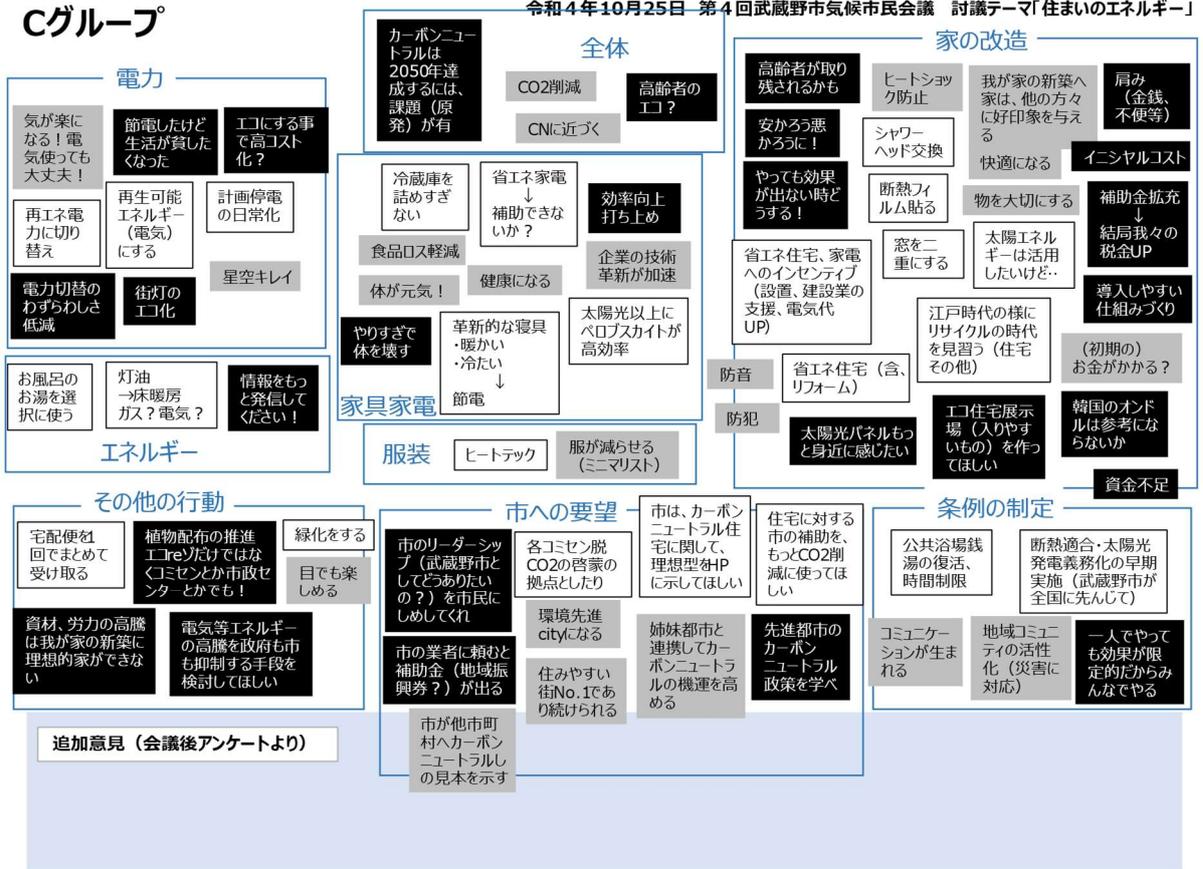
令和4年10月25日 第4回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「住まいのエネルギー」



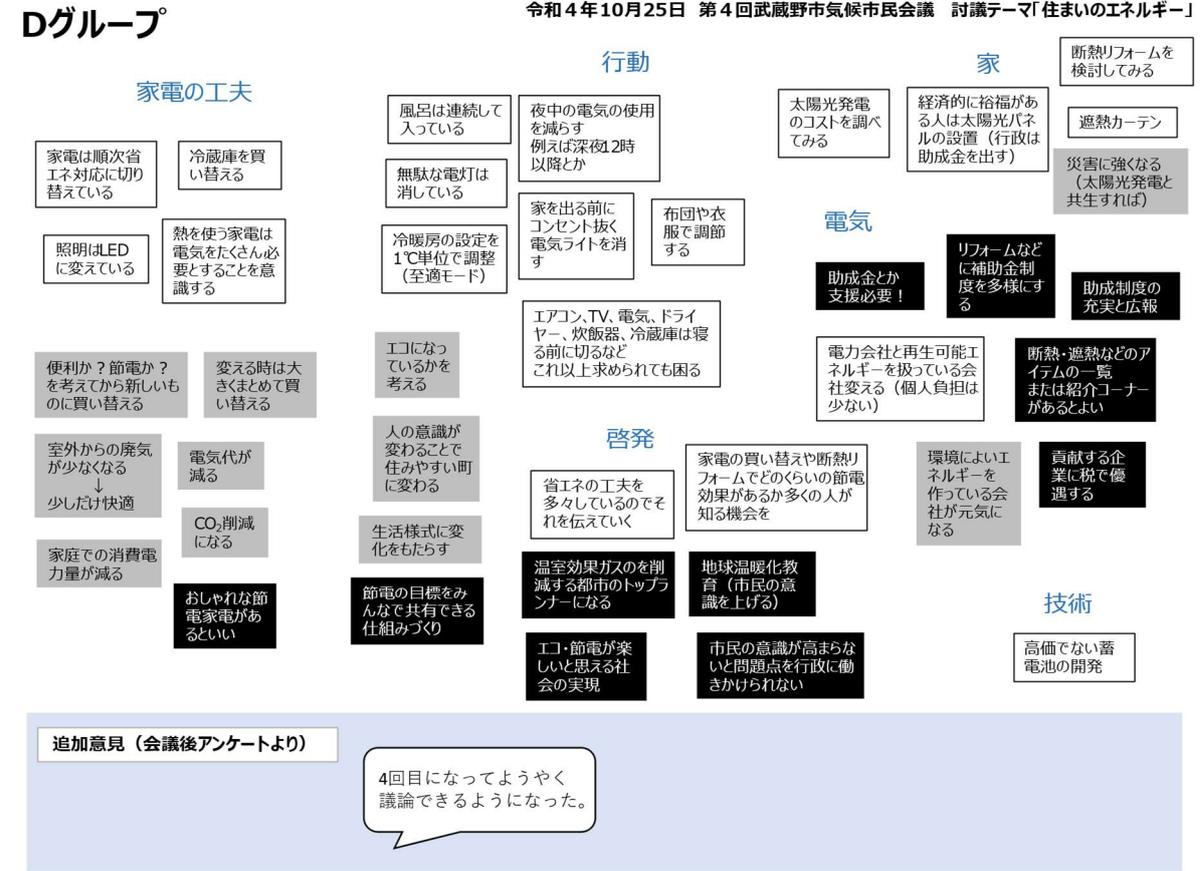
追加意見(会議後アンケートより)

- 市全体の容積率を上げて、戸建てより効率がいい中層集合住宅を建築可能にしましょう。
- 住宅の性能が悪いのは、建築基準法の見直しが必要であり根本的な見直しが必要である。

Cグループ

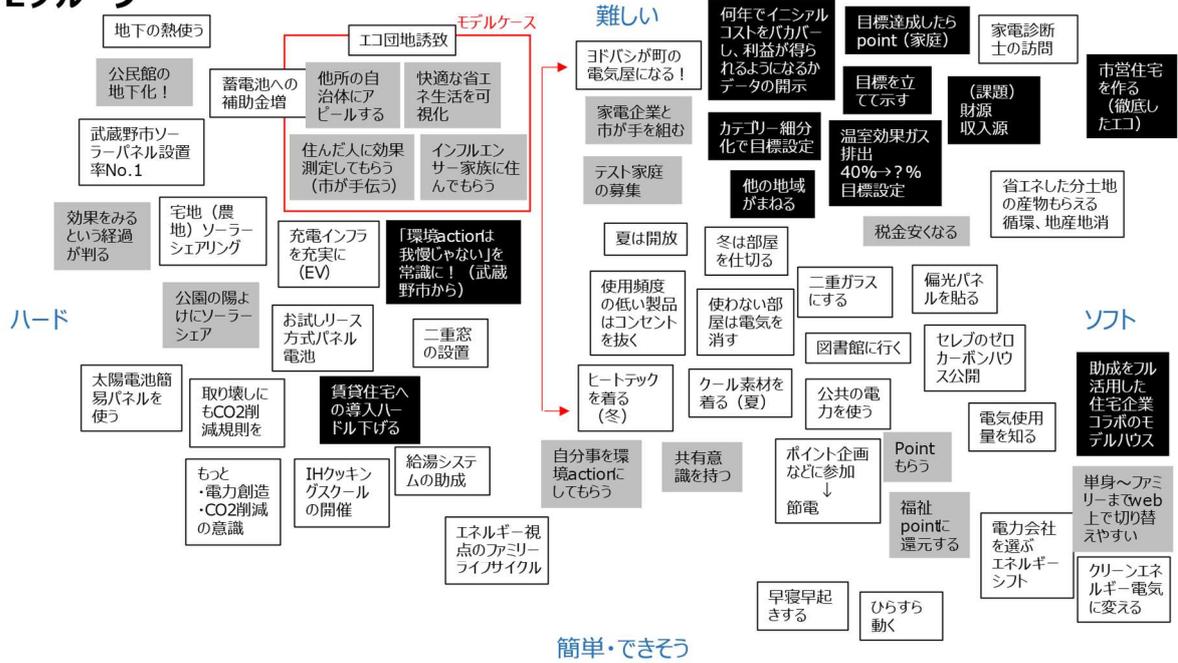


Dグループ



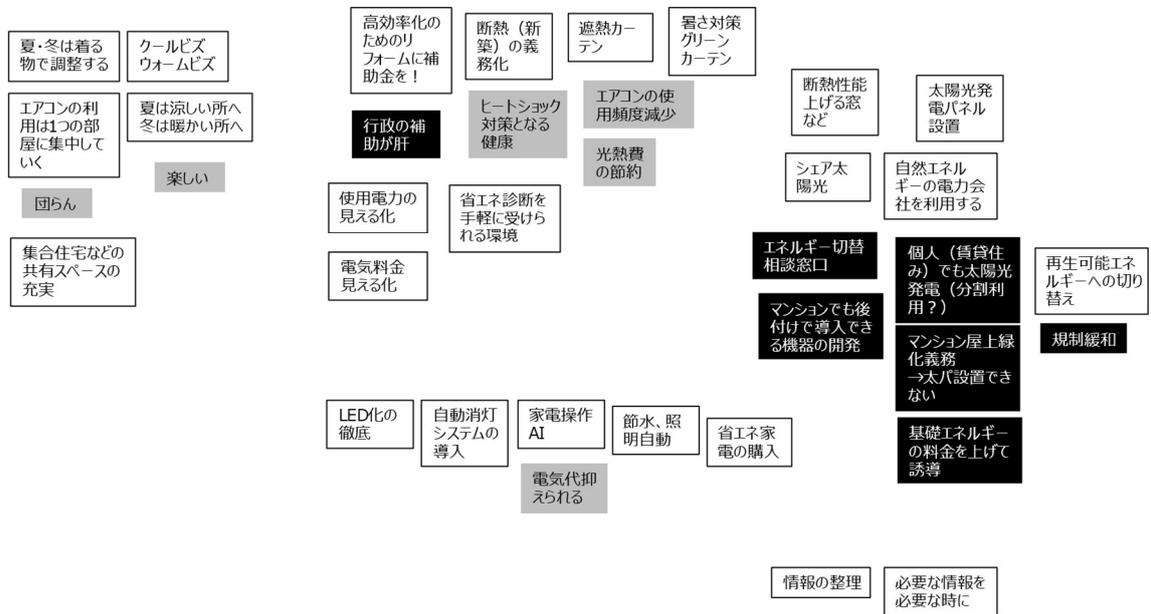
Eグループ

令和4年10月25日 第4回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「住まいのエネルギー」



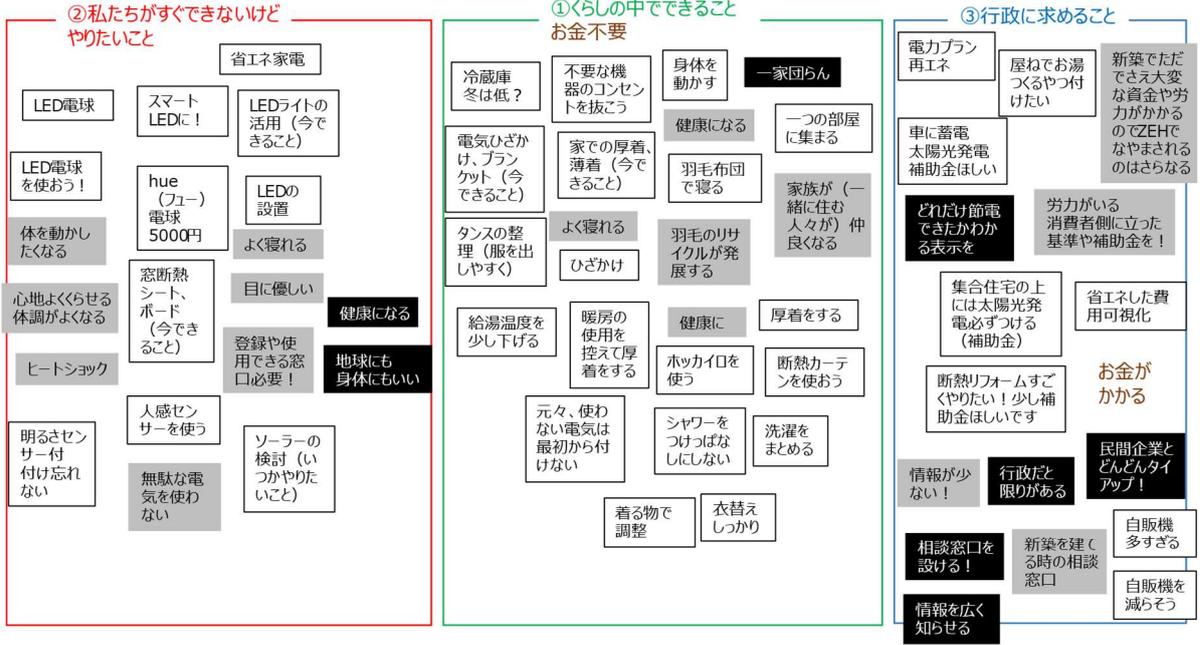
Fグループ

令和4年10月25日 第4回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「住まいのエネルギー」



イグループ

令和4年10月25日 第4回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「住まいのエネルギー」

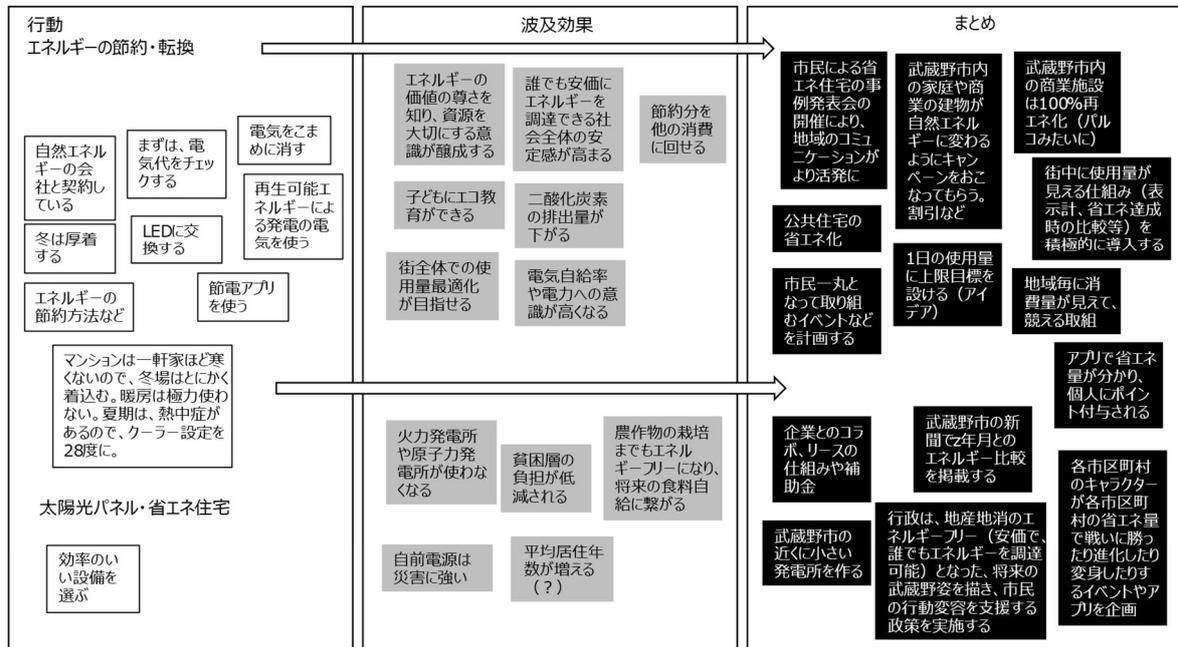


追加意見 (会議後アンケートより)

建設会社にもそれぞれ良し悪し色々あるので、本当に良い建設会社に巡りあうのは、難しいですし、それを本当に考えることが必要ではないかと感じ、ZEHを進める鍵でもあったと思います。

オンラインαグループ

令和4年10月25日 第4回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「住まいのエネルギー」

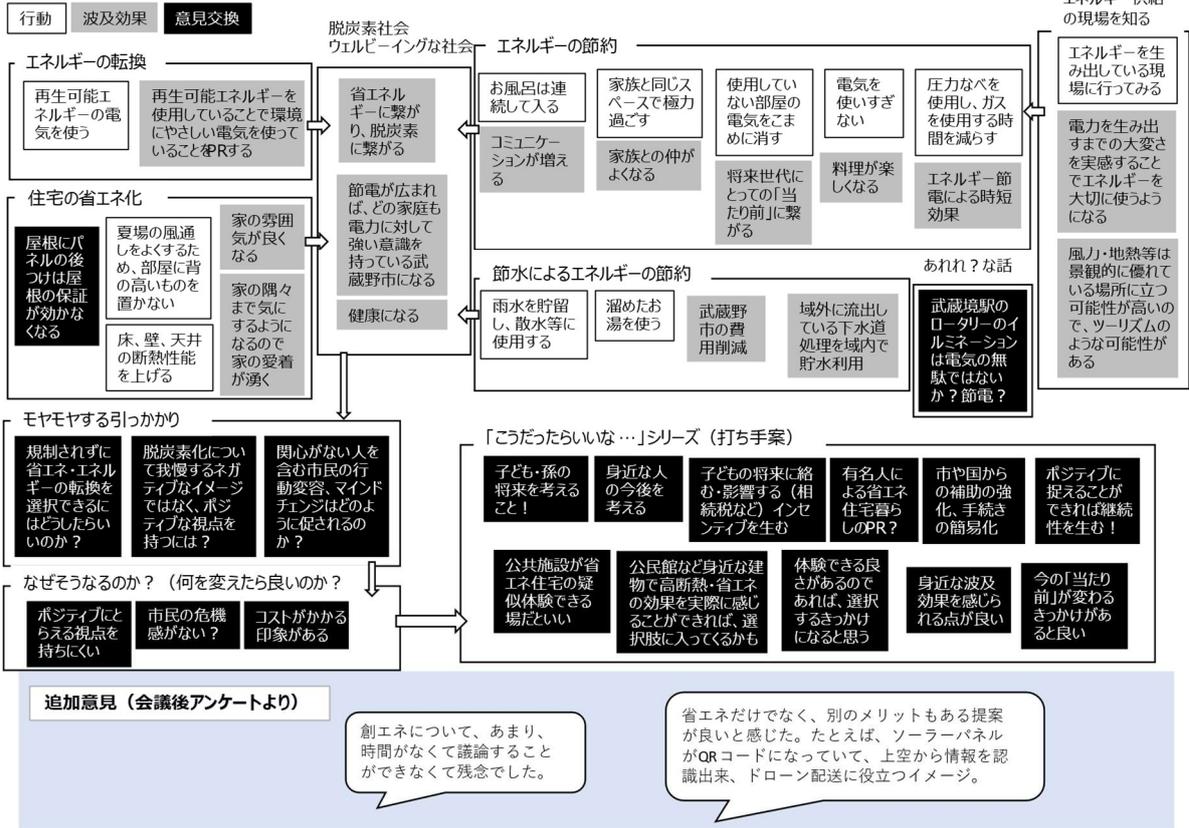


追加意見 (会議後アンケートより)

節電などはほとんどの人がやるべきこととして認識はしているものの、なかなか継続ができないものだと思います。各世代が楽しく省エネ活動を続けられる施策が必要だと感じました。

オンラインβグループ

令和4年10月25日 第4回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「住まいのエネルギー」



(6) ゲストティーチャー・アドバイザーによる講評

< (ゲストティーチャー) 前氏による講評 >

グループ討議での意見を聞き、いくつかポイントがあった。

まず、効果が大きい行動を見極めて実施していくとよい。行動には、手間がかかり効果あまりないことと、一回でも実施すれば効果があることがある。電気代が上がってきたら、私たちは我慢したり、手間がかかることも対応したりする必要がある。はじめから手間がかかることに取り組むよりは、比較的にコストパフォーマンスがよい、無理のないところから取り組み、さらに広げていくとよい。

次に、社会の仕組みづくりに関する意見があった。太陽光発電設備の設置や断熱改修は、概ね10年で元が取れる。20年、30年、40年と暮らし続けると、お得になっていく。長い目では元が取れる。ただ、初期コストが高い。例えば、住宅ローンに組み入れるようにすると、月々の電気代が安くなるため、返済能力が高まる効果が期待される。このような社会制度を作っていくことは重要である。

特に、興味深いと思ったのは、「省エネ住宅の相続税を安くする」という意見があった。確かに、良い家を残すことが評価に繋がるべきである。住宅購入時は、住宅ローン控除や固定資産税の減税などの優遇策がある。これに対し、省エネ型の良い住宅を残していくことが評価される仕組みがない。例えば、木造戸建て住宅は、税法上の耐用年数である22年を経過すると価値がゼロになる。せっかく省エネ住宅を建てたり、断熱改修をしたりしても、そのことが結局評価されず、壊されてしまうことになる。日本の決定的な問題は、みんなが自ずと省エネなどに取り組むような、仕組みづくりが弱いことである。補助金は税金なので、無限に交付することはできない。太陽光発電設備を乗せ、断熱改修を行い、省エネ型にした住宅を次の世代に引き継ぐことが評価される仕組みにしなければならない。省エネ住宅にする本人にとっても、社会全体にとっても利益になる仕組みづくりが必要である。

< (アドバイザー) 江守氏による講評 >

省エネ・再エネにはお金がかかるが、元が取れるかを把握することは、大事な点だと思った。もう一つ思うのは、今すぐ省エネ住宅を購入したり、引っ越ししたりすることが求められているわけではないということ。2050年までに脱炭素化すればよいので、30年で日本の家が全部省エネ住宅に入れ替わるために何をすればよいかを考えればよく、将来、もし家を建てる・引っ越しする機会があれば、省エネ住宅を選んでもらうとよいし、リフォームはできる範囲で実施するとよいと考える。

省エネ住宅や太陽光発電は、快適で電気代が安くなり、緊急時の電源確保も可能になるものでありメリットが多いものの、なかなか普及しない。東京都では義務化について検討されているが、本日のグループ討議でどのように普及させるか議論が行われたことは印象的であった。

グループ討議での意見のうち、面白かったものとして「省エネ住宅に消極的な事業者から罰金を取る」という意見があった。罰金を取るかどうかは別として、工務店の技術力を高めることは大事なことである。

その他、グループ討議では、「公民館等の市の施設を省エネ型にし、施設を利用した市民に『快適だから自分もこのような住宅に住みたい』と思ってもらう」や「有名人が省エネの家に住んで、いいよと宣伝する」という意見があり、これらはよい提案と思った。例えば、武蔵野市に縁がある有名人に省エネ住宅に住んでもらい、アピールするのも良いだろう。

私自身は、あまり断熱のよい家に住んでいないので、夏にはエアコンを付けて家族が一つの部屋に集まって寝るのだが、家族でコミュニケーションが取れて、仲良くなる効果があると感じている。しかし、断熱がよい住宅に住むと、おそらくエアコン一つで家全体が快適になるため、むしろ家族とのコミュニケーションの機会が減る可能性も考えられる。このように脱炭素の取組に関連する変化についても、目を向けて話し合っていくとよい。

(7) 会議後アンケート結果

① 講演に対する質問等

家電について	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネのためには省エネ家電への買い換えを推奨することをよく耳にしますが、LCAの視点まで考慮すると必ずしも買い替えが正しいとは思えません。長く使うことも大事だと感じています。製品によって異なると思いますが、トータルで環境負荷を減らすためにはどれくらいの年月で買い換えるのがいいのでしょうか。
再エネ電力について	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電以外に都市型再エネ発電で有効な発電はありますか。下水を利用して水力発電なんかは難しいですか。 ・自宅での太陽光発電について、パネルの耐用年数やメンテナンス方法などが気になります。台風や豪雨の影響で寿命が短くなったりしないのでしょうか。処分の際にCO₂が排出されたり、ゴミが増えるなど、地球環境に悪影響はないのでしょうか。
省エネのコストについて	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅の省エネ性能をあげるとコストがどの程度増えるのか、事例を教えてください。 ・質問ではないのですが、太陽光発電や、内窓などの設置にかかる費用の参考資料があればいいと思います。セールスで電話がかかってくる、訪問してパンフレットを渡されることはあったのですが、知識が少ないと、業者や機器を選定できないので、太陽光発電や、内窓などの設置にかかる費用の参考資料があればいいと思います。 ・ZEH住宅にする為に断熱性能を高めることはコストが高く、ソーラーのメンテナンスや耐用年数を考えると高性能の物はかなりコストに響くので、風力、水力、海洋も含めて蓄電性能を高め、電気を効率よく貯めておけるかが一番普及し易いのではないかと…という建築士さんの意見をきいたのですが、考え方が先生とは異なり、もしよろしければ先生のご意見も伺えたらと思います。
賃貸物件について	<ul style="list-style-type: none"> ・これから賃貸物件の断熱等級を上げるにはどんな仕組みが有効でしょうか。 ・今回のテーマ(住まいのエネルギー)については、持ち家一軒家以外は、制約が多く、取りうる手段の限界を感じた。広く普及できるような、エネルギー関連商品の開発を期待します。 ・一戸建て住宅の省エネについては良く分かりました。一方、マンション、賃貸住宅、業務部門(オフィス、商業ビル、飲食店など)の冷暖房の省エネ化についてどうするかについてのお考えを頂ければ幸いです。空調と換気の良いバランスについての、大多数の市民へのマニュアルが必要だと思えます。24時間換気を止めたり、給気口を閉めてしまうようなことが冬場には多く、結露やカビを引き起こしているように思います。また、一か所でも窓が開いていると換気されない部屋が出てしまうという

	<p>盲点もあります。他方、給気口全開にしてディーゼル排ガス粒子で壁が真っ黒になることもあります。私個人としては、給気口にフィルターを取り付け、また、防音用のスポンジを挿入し、それでも手をかざしたときに強すぎない風を感じるように調整しています。このような実験に一般性を持たせる研究を行い、マニュアル作りをやって頂けないものでしょうか。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本が省エネ住宅の施策や導入で他国に遅れをとってしまった原因(なぜ差が生じたのか)をご教示いただきたいです。 ・ 少し話がずれてしまうかもしれませんが、気候変動問題を考えた場合、例えば床暖房を入れるときにガスと電気ではどちらがいいのでしょうか。電気<ガス<再エネ電気<自宅太陽光発電の順で二酸化炭素排出量は減りますか。 ・ 質問に対して応答いただけませんでした。愚問である、事実でないなどと応答しないあるいはできない理由を提示するのが最低限のマナーだと思います。いかがでしょうか。それ故今回は当面実質質問を差し控えます。 ・ 高効率設備のうち最も技術的に成熟していると考えられるのは何ですか。 ・ ZEHを目指すとして(費用対効果的視点で)「断熱」「省エネ機器」「太陽光発電」に優先順位をつけるとどのようになるのか。 ・ 日本は建築物(建物)のスクラップ&ビルドが激しすぎるのではないかと。ヨーロッパのように古い建物に手を入れて、もっと長く大切に使う文化に切り替える必要があるのではないかと。 ・ 行政単位でエコ住宅施策が上手く普及している事例があれば教えてください。 ・ 二重サッシのお話をされましたが二重ガラスの方が手間がかからず、遮音も熱効率も良いと実感しています。コメントがなかったのです。 ・ 電気代の確認、リフォームなど参考になりました。地球に良いことが自分に良くなるのは良いと思いました。 ・ 高技術に関するゲストティーチャーの考え方を知りたかった。

② グループ討議結果に対する追加の意見

A グループ	(なし)
B グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市全体の容積率を上げて、戸建てより効率がいい中層集合住宅を建築可能にしましょう。 ・ 住宅の性能が悪いのは、建築基準法の見直しが必要であり 根本的な見直しが必要である。 ・ 参加者にC値など教わりました。

C グループ	<ul style="list-style-type: none"> 各検討時間が短すぎ。
D グループ	<ul style="list-style-type: none"> 4 回目になってようやく議論できるようになった。 あるべき生活様式について考えてみたい。
E グループ	(なし)
F グループ	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの断熱効果を手軽に体験できる場があれば良いと思う。 賃借者が省エネ性能の高い物件を借りた時には家賃補助を出すような仕組みを作れば、貸主は省エネに配慮した賃貸物件を提供するようになるのではないかと。Z E Hの賃貸アパート/賃貸マンション等が街に増える。
G グループ	(なし)
H グループ	<ul style="list-style-type: none"> クリーン（グリーン）電力もそれ程高価ではないとの意見が出ていました。普通の電力とクリーン電力の差額を自治体が一定期間補助してクリーン電力の需要を高めることは脱炭素にとって有効だと思います。 武蔵野市のような業務・家庭部門からの温室効果ガス排出量が多いところでは、灯油やガスから電気への転換を進め、電力会社や政府に電力の脱炭素を強力に進めてもらうのが最も効果的な脱炭素戦略だと思います。 武蔵野市で排出されるほとんどの温室効果ガスは CO₂ と代替フロン（4 ガス）です。エアコンの正しい廃棄（家電リサイクル法の主流に位置づける）の広報は家庭にとって重要です。また、業務部門でのフロンが漏洩しているような古い冷凍・空調機の新機種への交換についての啓発、東京都と協力しての罰則の有効活用やインセンティブの活用も必要と考えます。
I グループ	<ul style="list-style-type: none"> 建設会社にもそれぞれ良し悪し色々あるので、本当に良い建設会社に巡りあうのは、難しいですし、それを本当に考えることが必要ではないかと感じ、Z E Hを進める鍵でもあると思いました。
オンライン α グループ	<ul style="list-style-type: none"> 節電などはほとんどの人がやるべきこととして認識はしているものの、なかなか継続ができないものだと思います。各世代が楽しく省エネ活動が続けられる施策が必要だと感じました。
オンライン β グループ	<ul style="list-style-type: none"> 創エネについて、あまり、時間がなくて議論することができなくて残念でした。 省エネだけでなく、別のメリットもある提案が良いと感じた。たとえば、ソーラーパネルがQRコードになっていて、上空から情報を認識出来、ドローン配送に役立つイメージです。

③ グループ討議に対する感想（共感したこと、わからなかったこと、違うと思ったことなど）

<p>共感したこと、わからなかったこと、違うと思ったことなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報開示は大事ですがそれや個人的な選択だけではカーボンニュートラルを実現できません。先生が仰った通り、特に気にしていない人も環境にいいチョイスを選ぶ仕組みを設けるべきだと思います。 ・ 個人で住まいのエネルギーを削減するには、限度があります。行政が長期的に取り組む仕組みを策定すれば引き続き積極的に取り入れていきたいと思っています。 ・ 吉祥寺などで街のことを考えて発言している方がいるのは共感しました。 ・ 今回も、色々な意見が出て、議論が活性化されて良かったです。ファシリテーターに、いつも素晴らしいリードしてもらい、助かります。出来れば、ファシリテーターは、このまま変更無しでお願いできませんでしょうか。今までの議論も、メンバーも理解いただいているのが、理由です。よろしくお願いします。 ・ 毎回思いますが、普段接することのない方々の意見は多様性に富んでいて、様々な発見があり楽しいです。市にはぜひいいところ取りをいただきたいです。 ・ 市営のエコ団地は非常に面白い案だと思いました。 ・ ハード面(物理的、物質的)だけでなく、ソフト面(生活・行動・社会制度面など)への言及は評価したいです。 ・ 災害発生時にも使用できるという視点は、首都直下地震などへの備えとして、考えておく必要があると感じた。 ・ これまでの検討会が団体代表と有識者で構成されていたのに対し、気候市民会議は「市民」が討論するという画期的な面があります。 ・ Hグループでは、第2回、第3回頃から、「市民と行政と事業者など団体が討論する会議が一番効果的ではないか」という意見が出ており、私は強く共感しています。 ・ 現在の市民の生の意見やアンケートなどは現在の市民の「肌感覚」です。2030年、2050年の気候・気象、災害の状況、実施されている緩和策や適応策、国際情勢や内外の経済の要素は考慮されていません。フューチャーデザインの手法を取り入れ、「2030年の帽子」、「2050年の帽子」を被った市民、行政の方、事業者の方が討論する場を設けて、その後にアンケートへの記入や提案の提出をお願いするという手法が必要だと思います。もちろん、研究者には2030年や2050年の社会をしっかりと見せる役割を果たして頂くことが必要です。 ・ 「住まいのエネルギー」という身近なテーマで、普段考えない点について認識を新たにしました。
------------------------------------	--

- ・ グループ内の意見で出た、市全体で省エネに楽しく取り組める施策の導入が必要といった点に共感しました。
- ・ ディスカッションしやすいテーマでした。電力削減効果の高い施策（しくみ、設備等）と市民の意識改革の両方の推進が必要だと感じました。武蔵野市は各所で環境に関する様々なイベントを開催されていますが、知られていないのが残念です。期間を決めて多数のイベントを同時開催するなど、メディアも活用して大々的に盛り上げられたら多少は浸透が図れるのではないかと思います。
- ・ 節電などは意識することが大切だと思った。
- ・ ちょうど家を購入することを検討しており、住宅の断熱や太陽光発電はこれまでのトピックの中で最も関心がありました。自分の家にも取り入れたいけど、結局お金の余裕がないと難しい。受けられる補助金があるかどうかの調査の段階から、買った後のことまで全て自己責任なんです。振り返りで前先生がおっしゃった規則づくりが苦手な日本、身をもって体験しています。個人の嗜好の問題から早く脱却して、皆が省エネルギー住宅に住めるようにするにはある程度義務化することも必要だと思います。また、今回の市民会議の結果がぜひ市政に反映されて、市民にとって省エネルギー住宅がより身近で手の届く物になる施策が一つでも増えることを期待しています。
- ・ 携帯のガラ携からスマホになぜ、規制、強制せずに市民は変えていったのか。そこにヒントがあるとファシリテーターの言葉に共感しました。
- ・ コミセンの断熱性能など上げる話など、イメージしにくい断熱性能を分かりやすく表現するのは良い。
- ・ 私はまだ、電気料金を支払ったり住む家を考えたりしたことがないのでテーマが難しかったです。もう少し、ゲストティーチャーの先生に誰でも出来るような簡単な対策にも触れて頂きたかったです。また、私は武蔵野市の公立小中学校に通っていたのですがあんまり、今回話した内容のことは触れていないのかなって思ったので家庭科の授業で電気代の事など触れてあげると理解が深まるのかなと思いました。
- ・ なかなか全員が揃わない。誰かがリーダーシップをとって議論が進めばよい。（前期高齢者の私かも知れない。）
- ・ 変化することに抵抗感がある方が多い。
- ・ 今日のテーマは言い尽くされている気がして信憑性が。
- ・ 全体で 50 分では時間が若干足りない。深い意見交換ができない。
- ・ とにかく話し合いをするには時間が短く足りないということに尽きますが、進行役の方が短い時間でとても適切にまとめ進行して下さり、いいな、と思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市の緑化事業と省エネ住宅のかかわりをもう少し深掘りできるとよかったと思います。
--	--

④ 会議の運営に対する意見・提案・質問

市の目標について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高い目標を立てて都市型再生可能エネルギータウンとしてトップランナーを目指してほしい。 全国の見本になる街になって欲しいと思います。
市の取り組みについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本会議で江守さん、前さんと Web ではありますが、接することができて光栄でした。人選された方へ感謝いたします。脱炭素を語るうえで、IPCC に関与している江守さんと接したことが、自分自身が脱炭素を訴えるときのネタになります。この会に参加してよかったです。各自治体において、特徴が異なりますので、武蔵野市の特徴を活かした脱炭素の取組ができると最高だと思います。多摩地区での脱炭素のトップランナーとなり他に自治体へ影響を与える取組ができると良いと思っております。例えば、玉川上水の小水力発電、各コミセン、図書館の ZEB 化、各家庭太陽光蓄電池の設置推進、森林の再生などできると良いかと思っております。
会議の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループ間の交流（検討）が出来ればより良き意見があると思います。 ・ 今回は、スムーズに付箋紙に書き込むことができました。お手数おかけいたしました。 ・ オンラインの運営はとてもスムーズで助かっています。 ・ 最後の発表の所要時間を決めた方が良いと思いました。 ・ 細かすぎて解決策にならないアイデアがまだ多いです。2 回目よりはいいですがファシリテーターから討議の方向性を条例などに向けて下さったほうがよかったかもしれません。 ・ 今更ですが、毎回のアンケートを取るときに各グループの結果の模造紙の写真を添付していただけると、より追加意見や感想を具体的に書けると思いました。 ・ 参加者の意見に基づき、毎回少しずつ運営を工夫してやっていただいていると感じています。ありがとうございます。グループによって進め方が違ったように思うので、グループメンバーを変えるか、ファシリテーターの方を変えてみるとういのかと思います。
第 5 回会議について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設定された 5 回の会議を補うアンケートと懇談会の提案は良いと思います。 ・ 次回が最終回ですが、今まで話しあった内容を武蔵野市が具体的にどのように取り入れていく予定なのでしょうか。説明の時間があればいいと思います。 ・ この最後の会議が終わっても今後この話し合われた内容がどうなっていくのか報告頂けたり、また必要であれば臨時会議をひらくなど、お考え頂けたらと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ スムーズな進行ありがとうございました。会議中にお話のありました、当初計画の 5 回の枠を超えた特別討論が実施される際には、可能な限りぜひ参加したいと思います。 ・ 初回、終了後に、皆さんの意見を分析し、頻出ワードにより、皆さんの意見が、どこに集中しているか。定量解析を事務局に提出しました。4 回目も、終了し、意見集約には、定量的な分析が必要と思料します。最終的には、多数決的に決め、政策提言するなら、今までの皆さんの意見を、定量的に可視化してまとめ開示した上で、意見集約するべきと考えますが、いかがでしょうか。
<p>まとめ方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの 3 回の会議では、思い付きを交換しただけで、「提案した感」がなかったので、「提案に基づいて報告書を作成」と言われても、「ああ、事務局がつまみ食いし、アドバイザーに助言してもらいながら報告書を作るという行政のいつものやり方になるのか」と思って白けていました。今回、11 月 2-10 日のアンケートが行われること、2 月に懇談会が行われることを知って少しほっとしましたが、「11 月 2-10 日のアンケート」とこれまでの会議の「成果」を合わせると「提案」というほどのものになるのか、まだ疑問だと思っています。アンケート・第 5 回会議・報告書案・懇談会が余程しっかり機能しないと「疲労対効果」の高い成果が得られないのではないか、これからが正念場だと感じています。 ・ アンケートの設問項目と選択肢について、アンケートを実施する前に、その項目の立て方等について市民会議参加者に意見を聴くことが必要ではないでしょうか。あくまで「市民会議」であり、その参加者がその意見を総括するものであるはずです。市民参加者は頼りなく、まとまりがつかないということでしょうか。（事務局としての立場や考え方もわからないわけではありませんが、やはりここは通常の手続き過程を踏むことは重要だと思います。）いかがでしょうか。それとも、市側でアンケート項目等を作成し、市民参加者に対して実施したと報告書に記載するのでしょうか。それでも懸念は払拭できません。報告書作成についても同様です。（市民会議の運営方法がよく分かりません。この要望にも実施前の応答はなしでしょうか。）なお、アンケートでは、3 分野の前提として、総論と武蔵野市の位置づけの分野が欠けていると思います。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候市民会議に出て、地球温暖化への関心が高まりました。気候市民会議以外でできる活動を紹介していただきたいです。また、これから策定する活動プランについても私たち市民が積極的に協力できる場を作っていただきたいです。 ・ ゲストティーチャーには、できれば会場で講演をしてほしかった。 ・ 同様の海外事例があれば教えていただきたい。 ・ 毎回参加者一人一人のご意見を尊重され、丁寧に改善されている点、一参

	<p>加者として御礼申し上げます。家庭の事情でオンラインでの出席とさせて頂きましたが、回を追うごとに場の雰囲気もよくなっていると感じます。次回は会議としては最終回となりますが、引き続き宜しくお願い致します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ いつも運営ありがとうございます。・ CO₂削減については、国レベルでの対策（税制など）もあるが、市レベルで可能なことも考えられるので、市民が参加するというより、参加せざるを得ない、ルールメイクが必要だと感じます。
--	--

5 第5回会議

(1) 開催概要

時間：令和4年11月22日（火）午後6時30分～午後8時30分

場所：むさしのエコreゾート（武蔵野市緑町3-1-5）、オンライン

参加者：会場45人、オンライン11人

テーマ：市の現状と取組の紹介／2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組

(2) 事務局説明

以下の内容について、事務局が説明した。

- ・ 全体スケジュール
- ・ プラン作成の流れ
- ・ 本日のスケジュール
- ・ 前回の振り返り
- ・ 前氏による会議後アンケート質問への回答

(3) 事務局による報告・紹介

以下の内容について、事務局より報告・紹介を行った。

- ・ テーマ別参加者アンケート結果報告
- ・ 市の現状と取組の紹介
 - 武蔵野市の地球温暖化対策の動き
 - 武蔵野市域におけるCO₂排出量の部門別割合
 - 武蔵野市の地球温暖化対策の取組

(4) グループ討議

① メンバー入れ替え

図2-6のように、メンバーの入れ替えを行った。

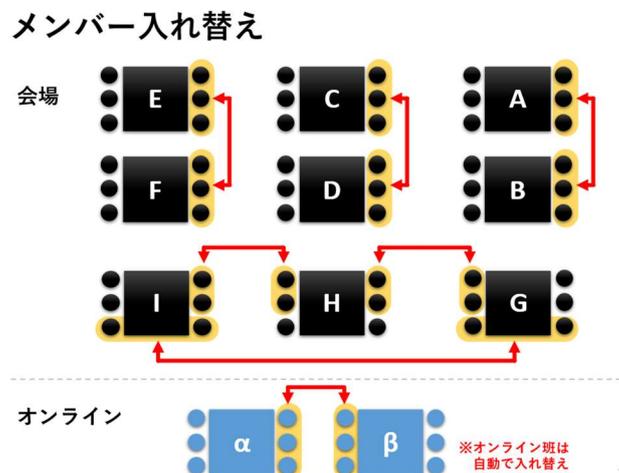


図 2-6 メンバー入れ替えイメージ

② グループ討議

参加者はグループ内で「武蔵野市民に広めたい取組は」「広めたい理由は」「後押しするために必要なことは」についてお互いのインタビューとグループ討議を行った。(図 2-7、図 2-8、図 2-9を参照)

グループ討議 (第5回会議)

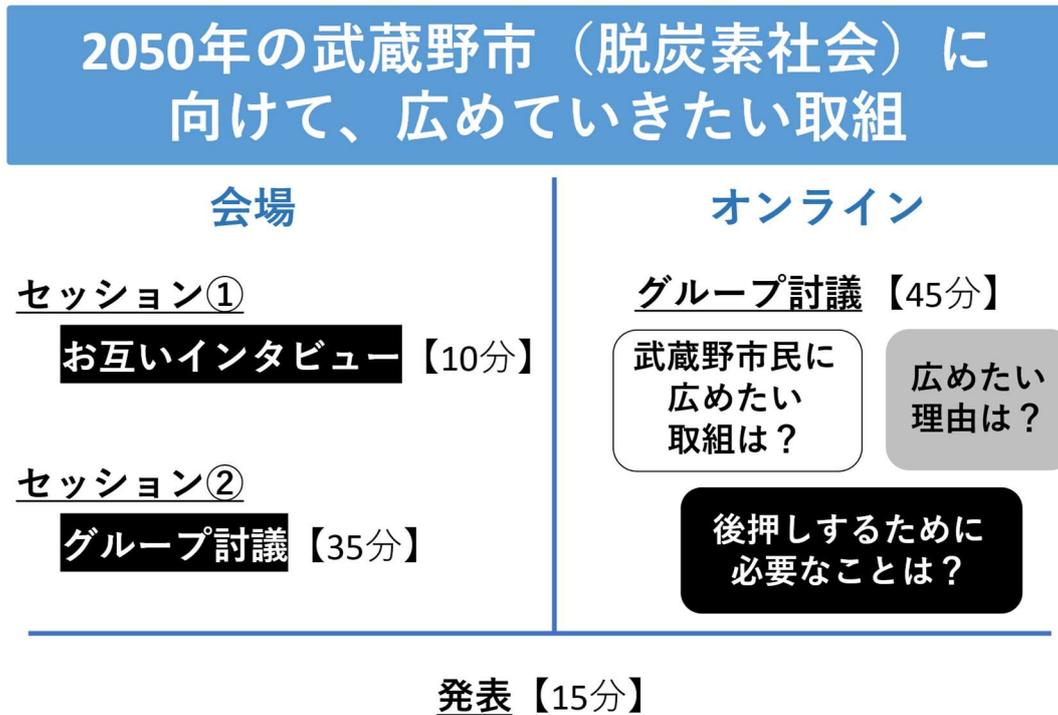


図 2-7 グループ討議内容

セッション①

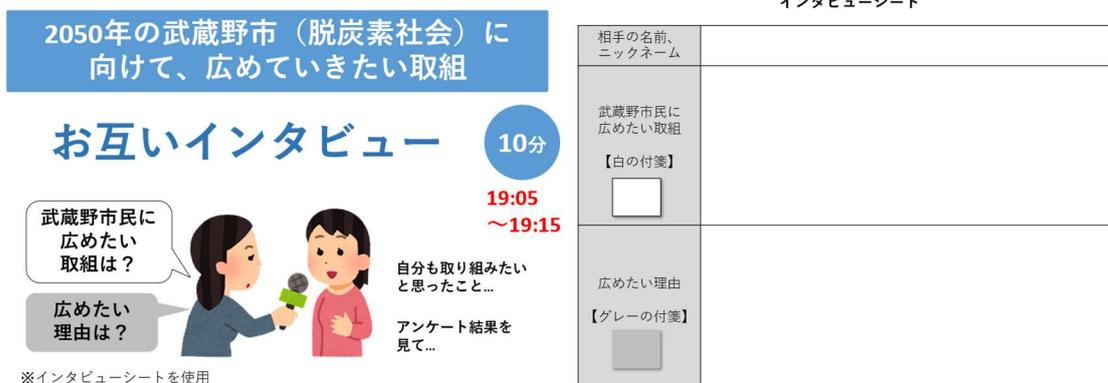


図 2-8 お互いインタビュー内容

セッション②

2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組

グループ討議

35分

19:15
～19:50

武蔵野市民に
広めたい
取組は？

後押しするために
必要なことは？



※模造紙を使用

セッション②

2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組

35分

19:15
～19:50

1. 他己紹介（1人1分×6～8人）
 - 他己紹介
 - 発表者を決める（2分以内で発表予定）
2. 武蔵野市民に広めたい取組
 - 他己紹介の発表から
3. 「2」を後押しするために必要なこと
 - アンケート「取組が難しいと考える理由」（結果報告p.11～30）も参考に

図 2-9 グループ討議内容

(5) グループ討議結果

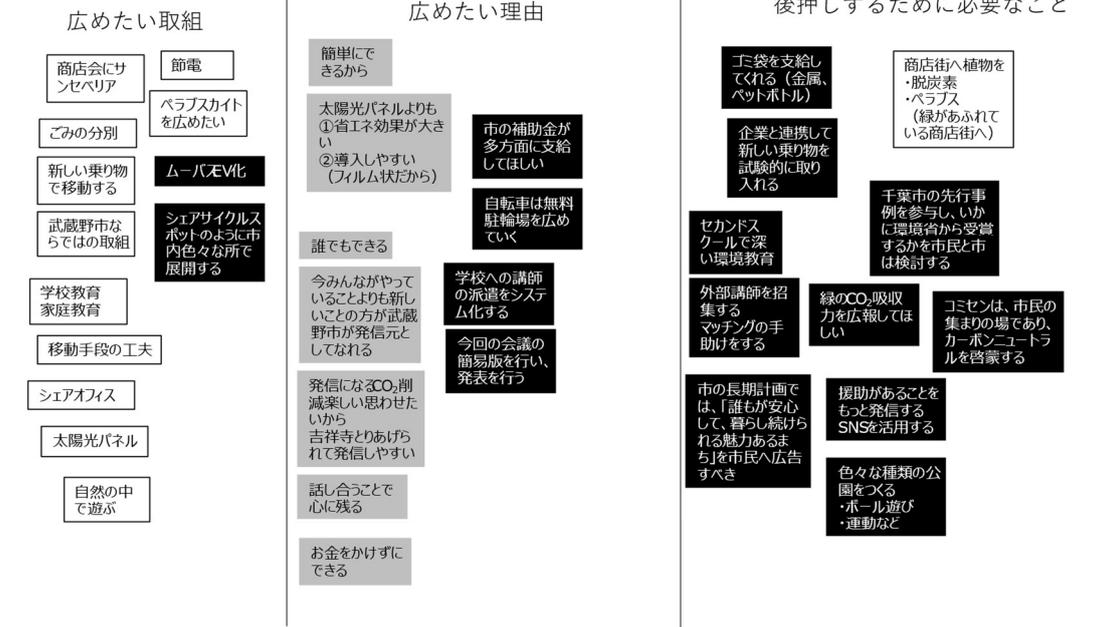
Aグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」

広めたい取組	広めたい理由	後押しするために必要なこと
<p>モノを買う、使う、手放す</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ削減 他多摩市町村に比べて多い 継続的な取組 物を大事に長く使う 生ごみをコンポストにし、野菜をもらおう 食品ロス 	<p>全てCO₂削減策 数値で見やすい 順位で出る</p> <p>効率が極めて 楽しい</p> <p>全てをCO₂に削減につながる</p> <p>市民の傾向として シェアは好まれない ↓ 個人の取組 ↓ 協力</p>	<p>「もったいない」精神を！</p> <p>販売店に責任を持たせる</p> <p>多摩市区内の排出量ランキングを発表すべき！</p> <p>市民の教育 だけでは無理</p> <p>コンポストの 助成システム 等、インセンティブを</p> <p>電気を使わないコンポストを選ぶ</p> <p>廃プラのリサイクルを</p> <p>コンポスト回収の日を作って！ 武蔵野市内で</p> <p>コミュニティ等の施設にてコンポスト受け入れを</p>
<p>動く、働く、遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 車の占有スペースを人間のために取り戻す 	<p>車は輸送力のわりにスペースを取りすぎ 車以外の利便性高めよう</p> <p>EVも同様 Renewableでできる がかかるエネルギーが高い スペースも取る</p>	<p>EVの普及を推進するのも注意が必要</p> <p>車を手放すために、道路を自転車道にする</p> <p>車を使いたい人が減るような仕組みを作る</p> <p>吉祥寺駅前には車の乗り入れ禁止 ↓ 公共の交通のみ乗り入れるように</p>
<p>住まいのエネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 節電、節水 節電、節水 再エネ100%に切り替える 環境に関する授業、教育を学校に導入 将来国を担う世代の環境への意識の高める 	<p>やりやすい ・誰でもできる ・資金、金銭的な制約がない</p> <p>個人でできる ・やりたい意思が尊重できる ↓ ベスト</p> <p>マンション、賃貸：フランスのように断熱性能が乏しい物件を禁止</p> <p>家（寒い）の断熱コストが高く住み心地向上</p> <p>建築会社のロビーイングが強すぎる 解消する手立ても</p>	<p>本当に再エネ100%がチャレンジできるように</p> <p>市内の公立校はもっと環境教育を！</p> <p>都立の高校では、国際的な問題を学んでいる</p> <p>エネルギー教育 原発推進は注意が必要</p>
<p>追加意見（会議後アンケートより）</p>		

Bグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」

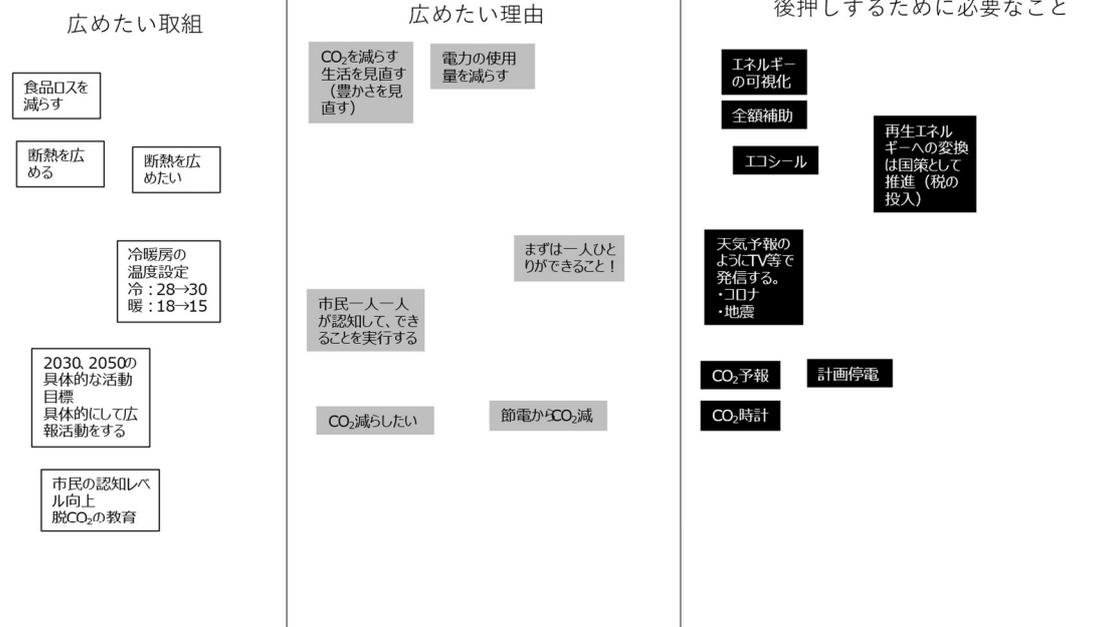
広めたい取組	広めたい理由	後押しするために必要なこと
<p>意識の向上</p> <p>商品を選ぶ時は、環境に配慮する</p> <p>コンポストで生ごみを減らす</p> <p>消費量を減らす取組</p> <p>二重窓にして</p> <p>太陽光パネルを設置する</p> <p>円筒型パネルができれば、5倍の効率！省スペースでできる</p> <p>太陽光パネルは重いことがネック それを克服できる</p> <p>・ウシオ ・フジワラ ・CKD ・電気通信大学 実証中</p>	<p>人が主役！！ 続けていくために、子どもから大人までできるように</p> <p>CO₂を減らすことができる</p> <p>ごみが減って1/4くらい 肥料も使えて 植物を育てられる</p> <p>2050ゼロポート ナー制度 ー家庭版ー</p> <p>2050ゼロポート ナー制に協力するとポイントがたまる！とか</p> <p>エコポイント武蔵野市版（やるならアリ）</p> <p>快適に過ごせる 防音にもなる 光熱費も抑えられる</p> <p>取組む人へのインセンティブ ポイントは見える化すること</p> <p>取組むのは人なので、人の考え方が重要になっていく</p> <p>エコポイントができたなら、何ができるとうれしくないかな？</p> <p>・買い物？ ・割引？ ・CO₂減に直結する電気代とか</p>	<p>意識の高い人 → 更なる広報</p> <p>教育に入れ込む！ → 教育委員会</p> <p>子どもの教育まで全部オンラインでよいのだろうか？</p> <p>ムーブスの停留所を増やす → 主要地点が止まらない</p> <p>物を作る段階から、CO₂排出量でランク付け</p> <p>取組のきっかけをもっと知らせる（情報）</p> <p>コンポスト、スターターキットを手に入れやすく</p> <p>事業者の取組 みやすい方法も 考える必要あり</p> <p>スーパーで、きゅうり やりんごまで 個包装 になっている → 減り が増える</p> <p>豆腐の量り売り みたいなの、面倒 だけでやるのいい</p> <p>地産地消のコーナーはあるけど、 他が個包装</p> <p>輸送や陳列の都合もある</p> <p>サンプル商品 エコランク ★★★★★</p> <p>制度があっても 知られていない 市報に載っているのかな？</p>
<p>追加意見（会議後アンケートより）</p>		

Cグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」



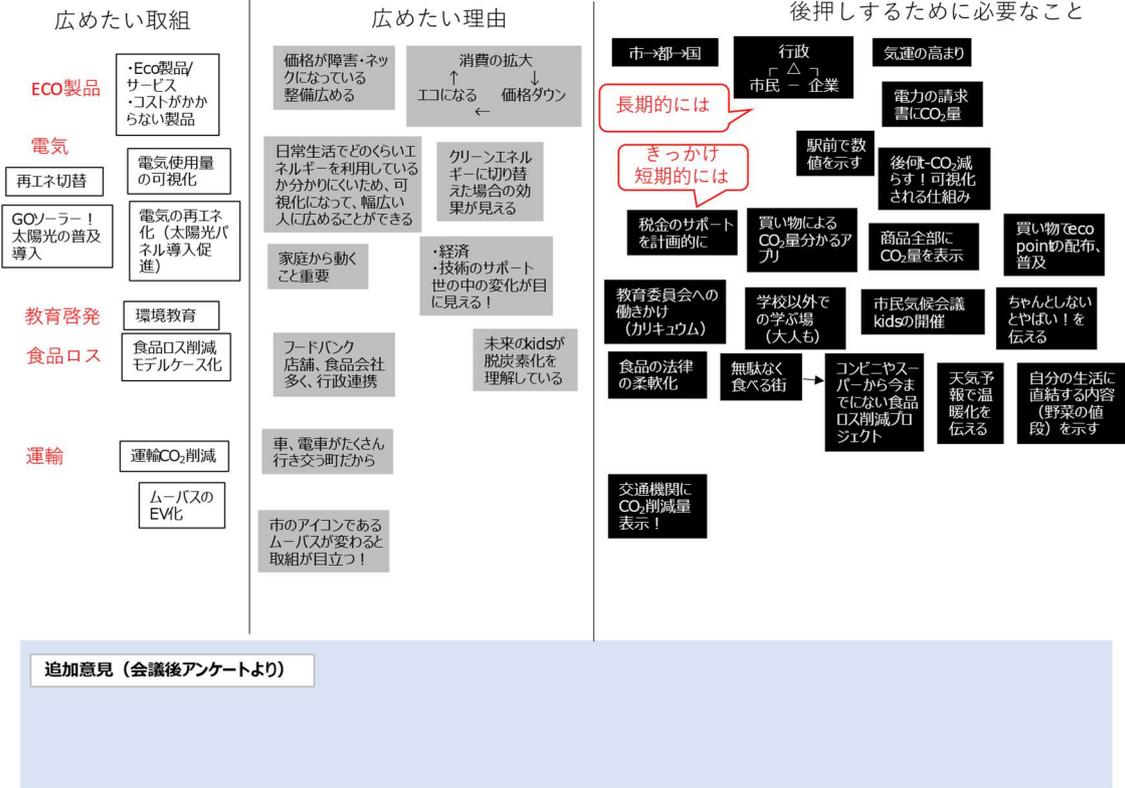
追加意見（会議後アンケートより）

Dグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」

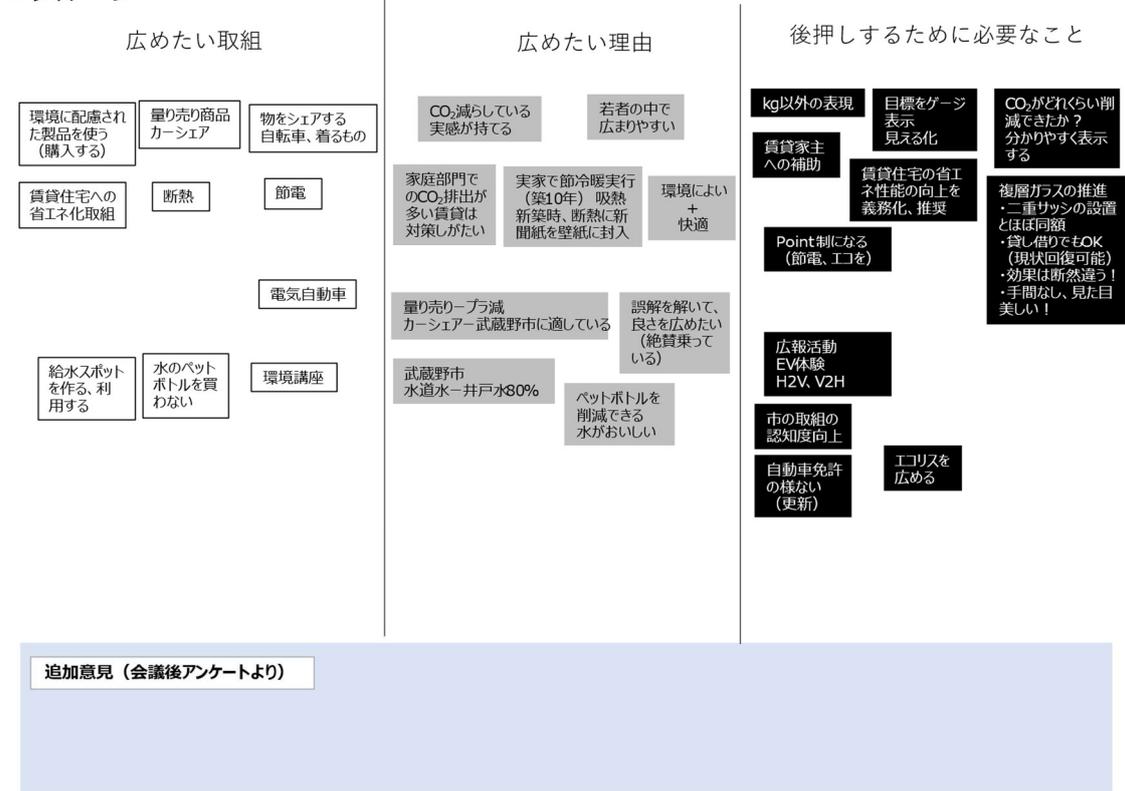


追加意見（会議後アンケートより）

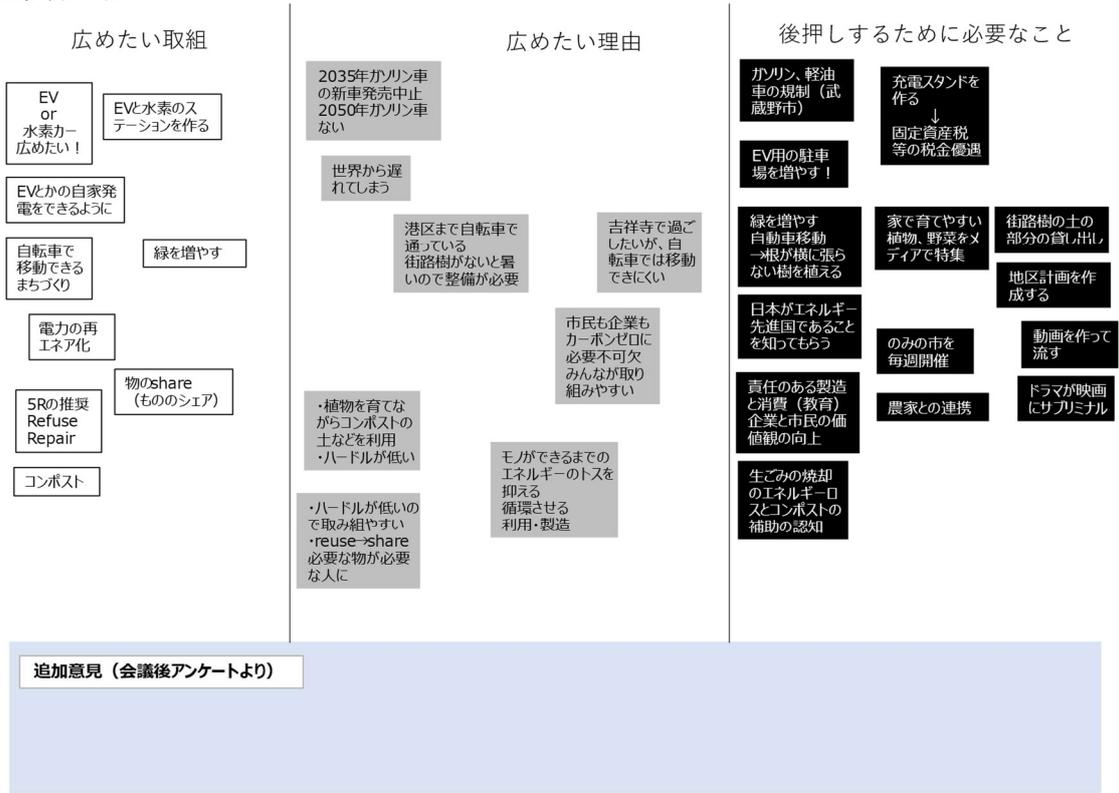
Eグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」



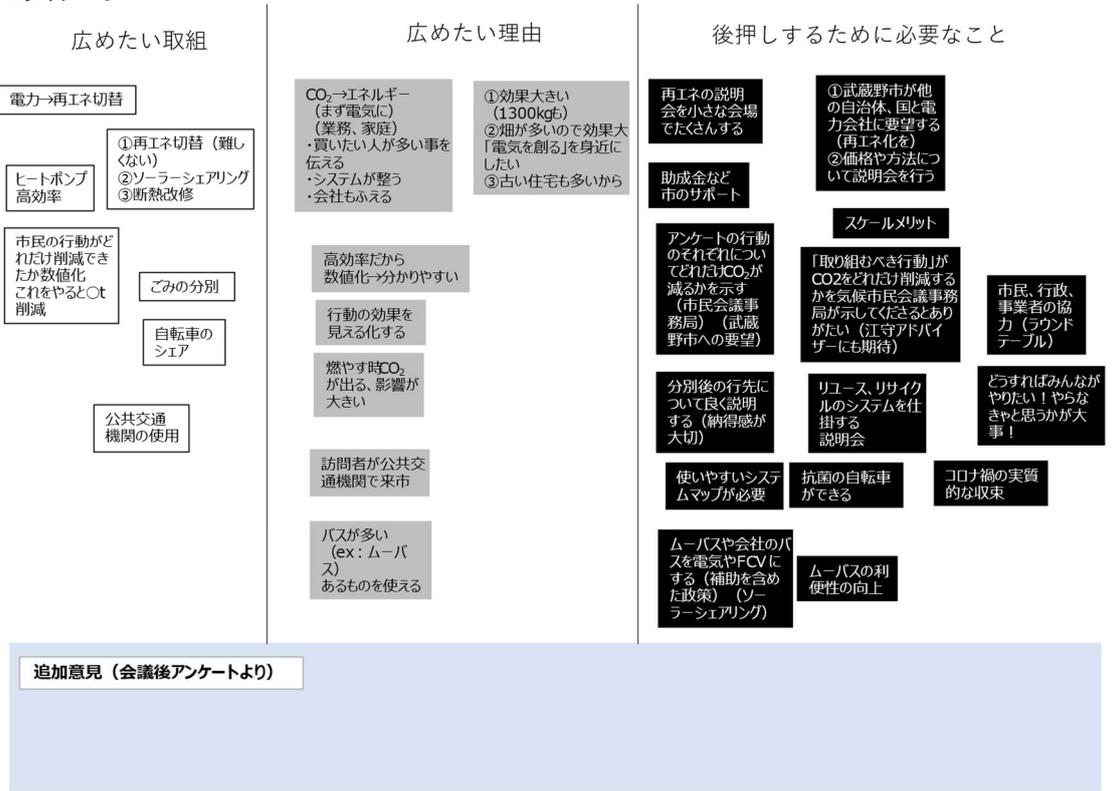
Fグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」



Gグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」



Hグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」



Iグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」

広めたい取組	広めたい理由	後押しするために必要なこと
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組むべき&難易度低いもの 不便を楽しむという価値観の転換(キャンプ気分) <p>誰でもできること</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境にやさしい生活スタイル変容 <p>公共交通機関 バス/電車</p> <p>移動手段</p> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 生ごみの有効活用(肥料化) プラスチック控える ごみの分別 	<p>取組むきっかけ →ハードル低い</p> <p>環境汚染 再生率低い →そもそも減らす</p> <p>取組みやすい CO₂削減</p> <p>武蔵野市小さい →自転車</p> <p>・家庭から出るごみの削減 ・ごみの再利用・リサイクルにつながるため</p> <p>CO₂ ↓ 化石燃料 ↓ 再エネへ</p> <p>ごみを少なく ↓ ごみへの意識変える</p> <p>メタン、CO₂発生 の大きな要因へのアプローチができる(電気、ガス)</p> <p>消費者が変われば、企業も変わる</p>	<p>三振一体で共有</p> <p>市民</p> <p>事業者 行政</p> <p>価値の共有化</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 花王 強い企業取組を知る 周知する 環境への貢献度を見る化 エコポイント むちゅー エコポイント むちゅー 家庭菜園やっている人に <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> こういう会議をもっとやる(無作為) 市民同士つながるきっかけ あなたの声が生かされる エコポイント むちゅー 家庭菜園やっている人に <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> コンポスト 家庭で大変 生ごみコンポスト(堆肥) 行政に渡す 豊かな自然を生かして <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> こういう会議をもっとやる(無作為) 市民同士つながるきっかけ あなたの声が生かされる <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 花王 強い企業取組を知る 周知する 環境への貢献度を見る化 エコポイント むちゅー エコポイント むちゅー 家庭菜園やっている人に <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> コンポスト 家庭で大変 生ごみコンポスト(堆肥) 行政に渡す 豊かな自然を生かして

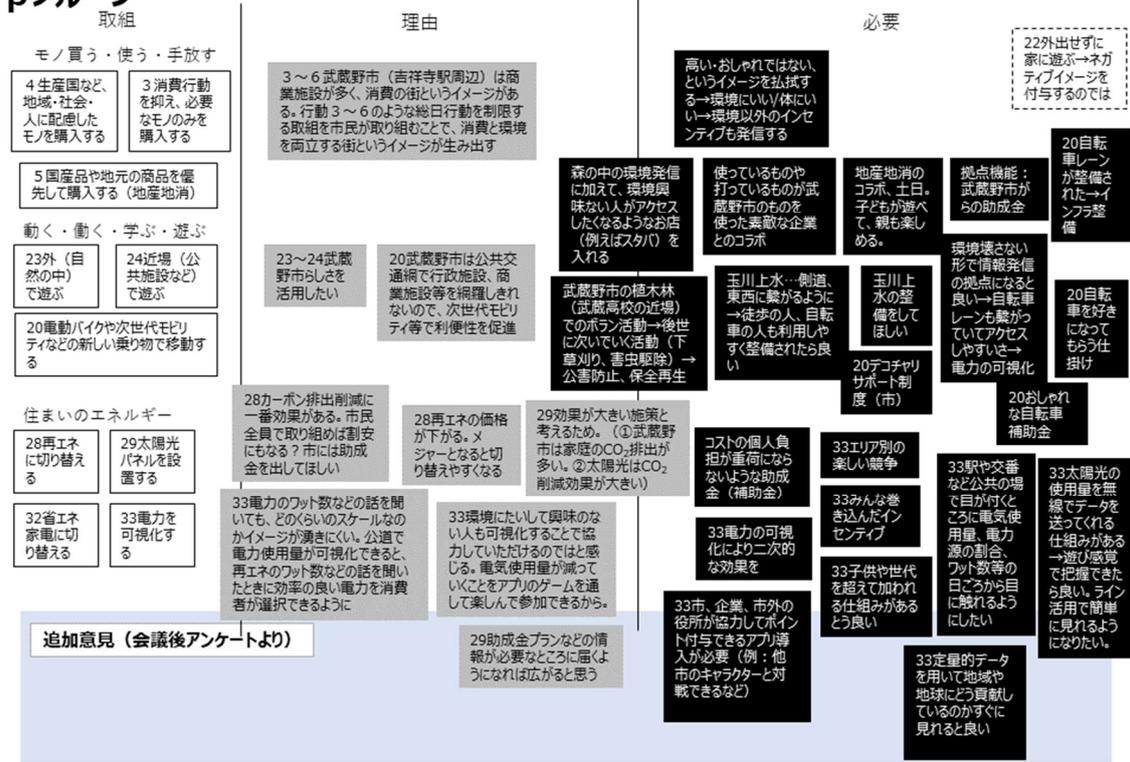
追加意見(会議後アンケートより)

オンライン aグループ 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」

9プラスチック容器、包装の使用を控える	9プラスチックのごみが多いから	9容器を持っていくと中身を入れてくれる量り売りのお店を増やす	9プラスチックの包装を控えるようお店に頼む	
3消費行動を控え、必要なもののみを購入	3「足るを知る」、「ダウンサイジング生活」をすることで、節約もできるし、取組としてのモチベーションも高まると考えるから			
7食品ロス削減	7衣食住の中で、食は市民共通して入りやすい取り組みだから			
14徒歩で移動	14、15は、個人一人でもやりやすい	健康であることが大前提だが、一日1万歩で市内ある程度動くことが可能だから、買い物、病院等日常生活はこの歩数ですべて完結すると考えるから。市の属性からも。	14健康になって環境も良しよ！と市が啓蒙！	14徒歩アリアとか、1万歩歩くと、ポイントが貯まるとか
15自転車移動		14マルイの前の道路に自転車用の青いラインができて、すぐ走りやすくなった	24ご近所情報の広報	23武蔵野中央公園を活用！太極拳とか、サッカーとか
23外(自然の中)で遊ぶ	24近場で遊ぶ	24住みやすい環境、遊ぶ場所など以外とほいものが市内に整っているから	28費用増加を抑えるポイントや補助等の仕組み	28費用負担の増加等のハードルを最小限にできるポイントや補助等の仕組み
28電力を再生エネ電気に切り替える	28効果が高いから			
8生ごみをたい肥として活用する		8家の近所とかにコンポストがあると良い		

追加意見(会議後アンケートより)

オンライン 令和4年11月22日 第5回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「2050年の武蔵野市（脱炭素社会）に向けて、広めていきたい取組」
βグループ



(6) アドバイザーによる総評

<江守氏による総評>

今回、皆さんの参加により、市にとって非常に貴重な情報が得られたものと確信している。テーマ別参加者アンケートの結果は、各行動に対する参加者の支持の程度が分かるため貴重なデータであり、また、自由記述による「取組が難しいと考える理由」や、本日の第5回会議で議論した「広めていきたい取組」とその理由は、これから詳しく分析すると“宝の山”になると思う。

次に、本日のグループ討議の様子や発表に対する感想を申し上げる。

「可視化が必要」という意見が多かった。私もそのとおりだと思う。特に、行動による効果を可視化することが必要である。市民が頑張って取り組んだことにより、どれだけ効果や意味があったのかが分からないと、取組を継続できなくなる可能性がある。また、可視化することで、今まで取り組んでいなかった人が、「やってみよう」と思うきっかけになる。このような素晴らしいアイデアを受けて、市は、市民の取組による効果をフィードバックするような仕組みを作るとよい。

可視化に関する参考情報として、私が所属している国立環境研究所では、生活から出るCO₂排出量を大まかに診断するウェブサイト「じぶんごとプラネット」を作った。平均的な家庭と比べて自分がどのくらいCO₂を排出しているか、すぐにできる取組やその削減効果などの情報がすぐに表示される。ぜひ試してもらおうとよい。

「電力を再エネ電気に切り替える」の支持が高かった。参加者はよく考えた上で、なぜこの行動を行うとよいのかを認識する必要があると思う。なぜなら、再エネによる電気を選んだ時点では、日本全体の再エネの発電量は増える訳ではない。再エネ電気を買った分、今まで使っていた再エネではない電気を他の人が使っている状態になる。武蔵野市での二酸化炭素排出量が減っても、他の地域で増えたら意味がない、ということを理解する必要がある。一方で、あるグループでは、「再エネ電気を選ぶ人が増えると、電気料金が低くなり、さらに選ぶ人が増えるのではないか」という意見があった。再エネに対する投資が更に活発になるため、日本全体の再エネの発電量が増えることに寄与する。つまり、「日本全体の再エネ電気の導入普及を後押しするために、再エネ電気を選んでいく」という気持ちを理解することが大事である。さらに、武蔵野市が国や電力会社に「再エネ増やしてほしい」と要望し、声を挙げていくとよい。

最後に、全5回の会議を通じた感想を申し上げる。

参加者の皆さんにとって、武蔵野市気候市民会議は、普段話さないような年代や職業の人と気候変動問題について考える貴重な機会になったと思う。また、各回のグループ討議を通じて、気候変動と自分の暮らしとの関係についてより興味を持つようになったと思う。武蔵野市気候市民会議が終了してからも、市の取組に注目していくとよい。そして、皆さんのような市民の関心の高まりが、日本全体、世界全体に広がっていくとよい。

皆さんは武蔵野市気候市民会議への参加をきっかけに、気候変動問題のニュースにも関心を持っただろうか。最近、COP27という国連の会議があったが、皆さんはニュースを気を付けて見たり、どんなことが議論されたかを理解しようとしたりした

ろうか。また、ゴッホのひまわりの絵にトマトスープをかけた環境活動家が話題になっていたが、そのようなニュースを見て皆さんは、自分としては賛成するか、反対するか、どう捉えるとよいか、考えただろうか。ぜひそういったことに興味を持ってもらいたい。

このように気候変動問題に興味を持つ人が増えることは、これからの市や国の政策に対しどういう意見を発言するか、どういう政治家を選ぶか、どういう企業を応援するかなど、人々の考えや行動を後押しすることにつながる。武蔵野市気候市民会議では、生活者・消費者の視点から、市民がどのような行動をしていくべきか、自分はどのような行動をしたいか、市に後押ししてほしいことは何かについて話し合った。さらに、社会に対して声を上げることもできる。日本でも、スウェーデンの環境活動家であるグレッタ・トゥーンベリさんの影響を受けて、声を上げる若者が出てきている。このような人たちのSNSをフォローしたり、クラウドファンディングで支援したりして、声を上げている人たちを応援することも、市民ができる行動の一つである。

武蔵野市気候市民会議に参加した皆さんは、この機会を通じてより気候変動問題に関心を持つようになったと思うので、是非、皆さんの周りにも関心を持つ人を広げていてもらいたい。

第3章 討議結果のまとめとテーマ別参加者アンケート

1 各回グループ討議結果まとめ

テーマ別参加者アンケートの実施にあたり、第2～4回会議それぞれのグループ討議で出た行動や取組、それに伴う波及効果などをテーマごとに1枚にまとめ、提案された行動ごとにまとめて配置した。

2 テーマ別参加者アンケート

(1) 実施概要

① 目的

武蔵野市気候市民会議（第2回～第4回）で提案された36の行動（第3章の「1 各回グループ討議結果まとめ」から抽出した）をもとに、68人の参加者に市民として取り組むべき行動や、取組の難易度などを聴取し、その傾向を把握する目的で実施した。アンケート結果は第5回会議のグループ討議で活用し、また、気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）作成のための参考とする。

② アンケートの構成及び設問

<第1部アンケート>

グループ討議で提案された「自分／みんなのできること（行動）」項目に対し、以下の設問を設けた。

- ・ 武蔵野市民が積極的に取り組んでいくべきか
- ・ 取組の難易度
- ・ 取組が難しいと考える理由（任意回答）

<第2部アンケート>

グループ討議で提案された「自分／みんなのできること（行動）」項目のうち、参加者自身が取組みたいと考える項目をテーマごとに、以下の設問を設けた。

- ・ 取組みたい行動（順位付け：第1位～第3位）

③ 回答方法

インターネットまたは郵送

④ 回答期間

令和4年11月2日（水）～11月14日（月）

⑤ 回答状況

第1部、第2部のそれぞれ回答状況は表3-1で示したとおりである。

表 3-1 回答状況

		インターネット による回答数	郵送による 回答数	全体回答率
第1部	第2回会議テーマ 「モノを買う・使う・手放す」	49	4	77.9%
	第3回会議テーマ 「動く・働く(学ぶ)・遊ぶ」	46	4	73.5%

	第4回会議テーマ 「住まいのエネルギー」	45	4	72.1%
第2部		45	4	72.1%

⑥ 配点基準

<第1部アンケート>

「武蔵野市民が積極的に取組むべきか」（7段階）、「取組の難易度」（5段階）の回答を基に点数に直し、行動ごとに回答者の平均点を求めた。

第1部アンケートの配点基準

武蔵野市民が積極的に取組むべきか							取組の難易度				
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5
取組む必要はない  どちらともいえない  取組むべきである							簡単  普通  難しい				

<第2部アンケート>

「取り組みたい」と考える行動の順位を点数に直し、行動ごとに回答者の平均点を求めた。

第2部アンケートの配点基準

1位	2位	3位
10点	5点	2点

(2) 第1部アンケートの結果

① 第2回会議テーマ「モノを買う・使う・手放す」(以下「第2回会議テーマ」という。)

<武蔵野市民が積極的に取り組むべきか>

各行動の各点数を選択した人数は、図 3-1 に示すとおりである。

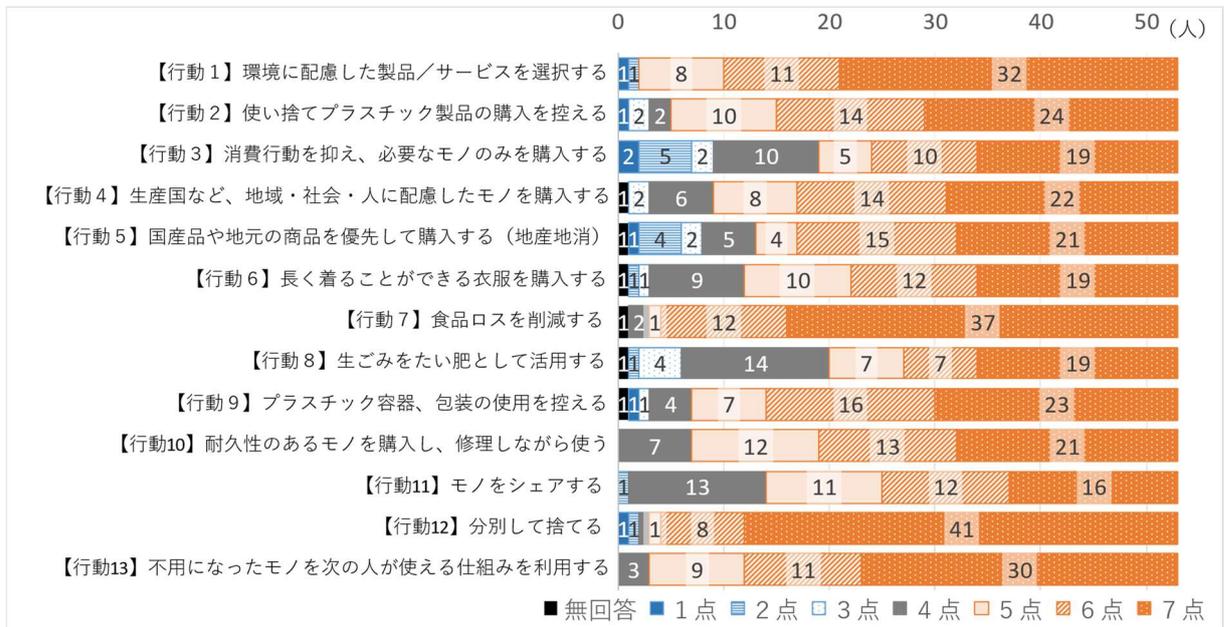


図 3-1 武蔵野市民が積極的に取り組むべき(第2回会議テーマ)

<取組の難易度>

各行動の各点数を選択した人数は、図 3-2 に示すとおりである。

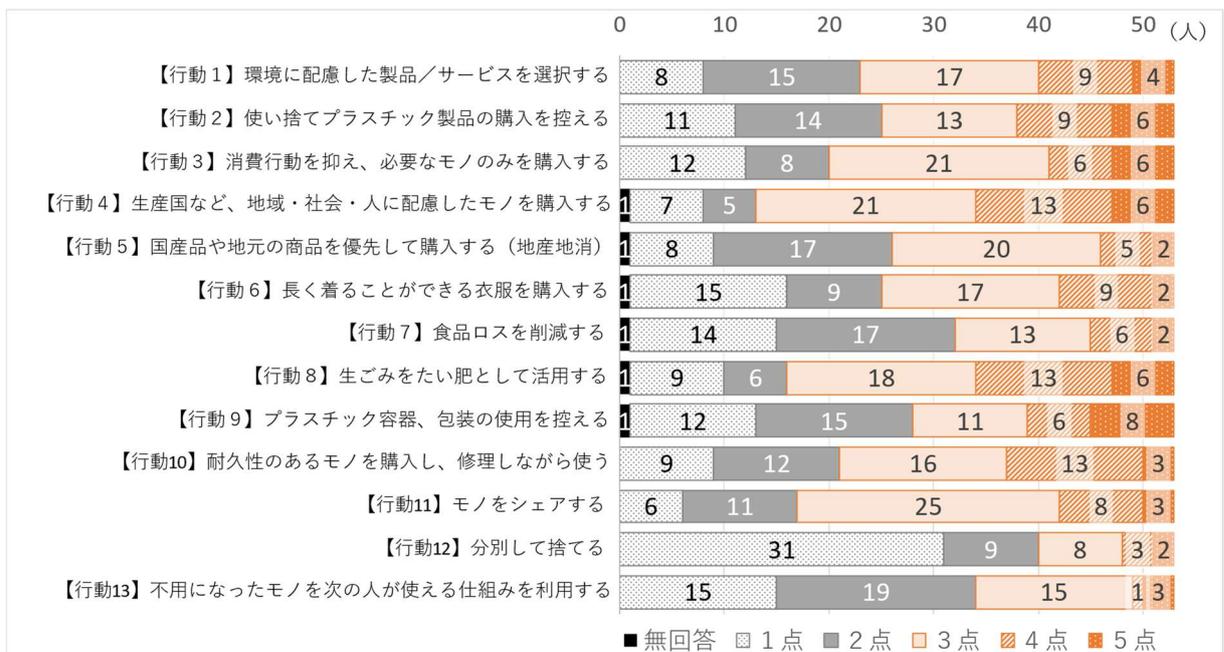


図 3-2 取組の難易度(第2回会議テーマ)

② 第3回会議テーマ「動く・働く（学ぶ）・遊ぶ」（以下「第3回会議テーマ」という。）

＜武蔵野市民が積極的に取り組むべきか＞

各行動の各点数を選択した人数は、図 3-3 に示すとおりである。

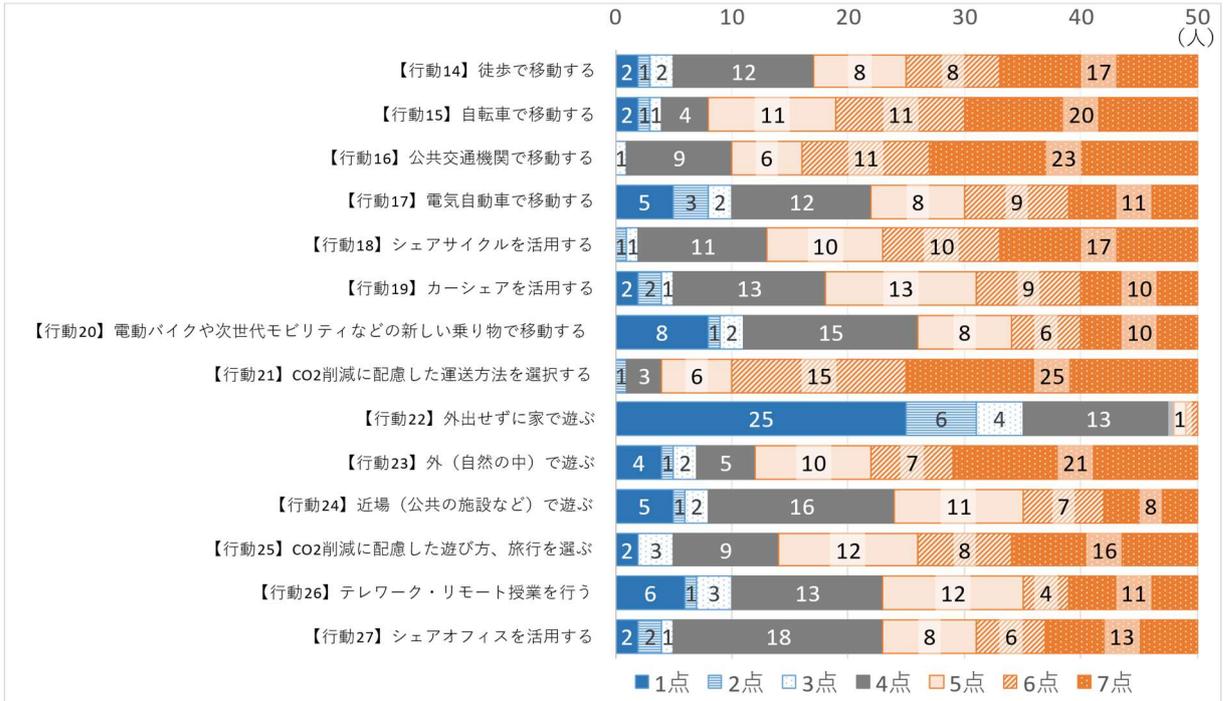


図 3-3 武蔵野市民が積極的に取り組むべき（第3回会議テーマ）

＜取組の難易度＞

各行動の各点数を選択した人数は、図 3-4 に示すとおりである。

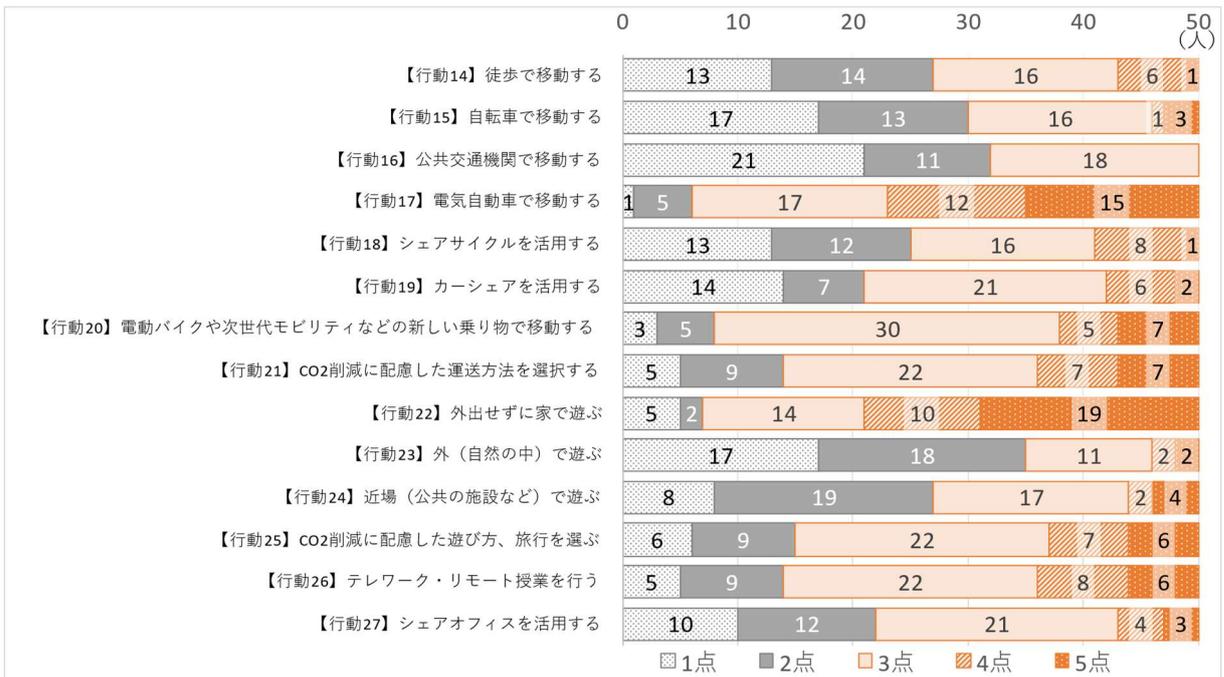


図 3-4 取組の難易度（第3回会議テーマ）

③ 第4回会議テーマ「住まいのエネルギー」（以下「第4回会議テーマ」という。）

<武蔵野市民が積極的に取り組むべきか>

各行動の各点数を選択した人数は、図 3-5 に示すとおりである。

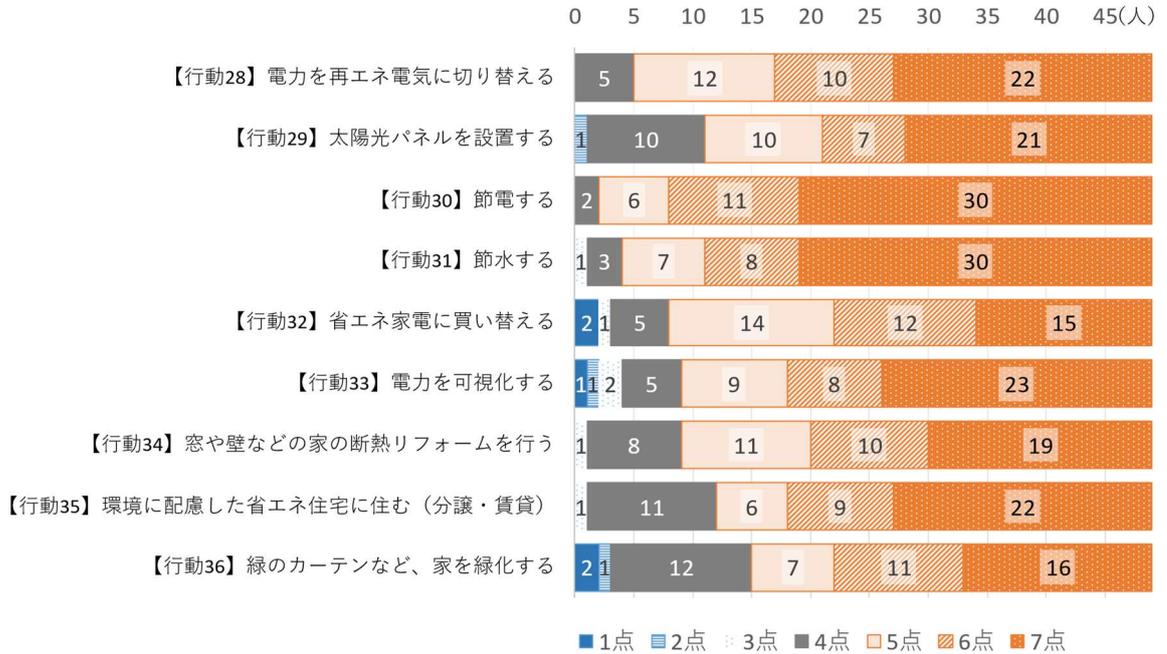


図 3-5 武蔵野市民が積極的に取り組むべき（第4回会議テーマ）

<取組の難易度>

各行動の各点数を選択した人数は、図 3-6 に示すとおりである。

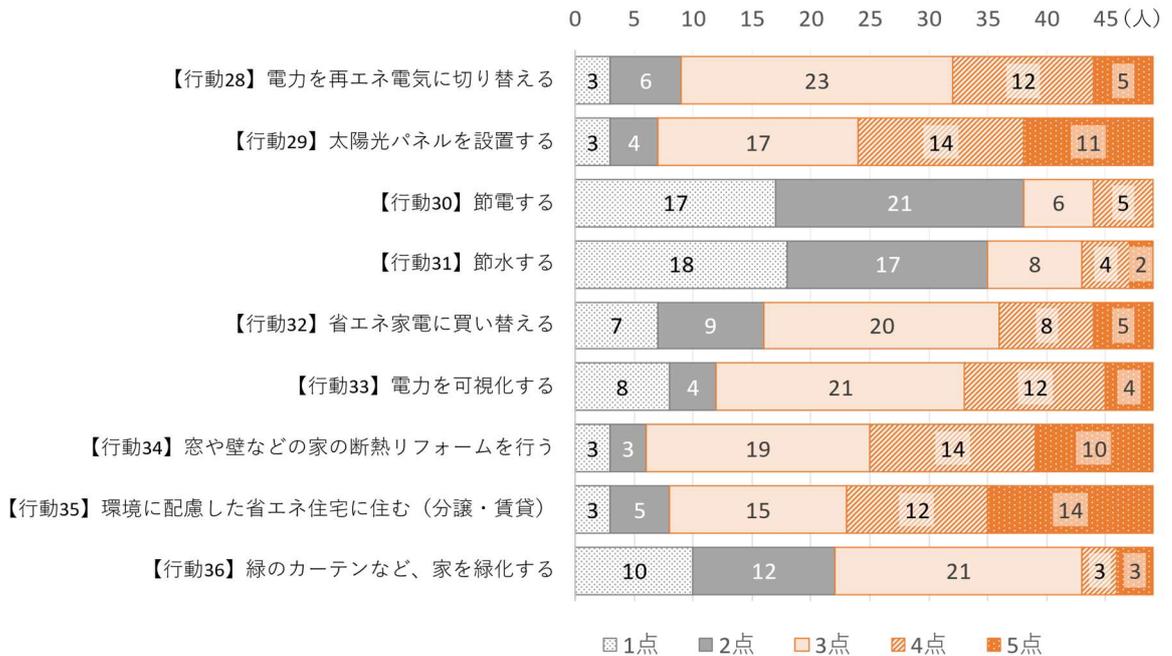


図 3-6 取組の難易度（第4回会議テーマ）

(3) 第2部アンケートの結果

「あなたが取り組みたいと考える項目」による順位付けの結果を点数化した結果は、
図 3-7、図 3-8、図 3-9に示すとおりである。



図 3-7 あなたが取り組みたいと考える項目：第2回会議テーマ



図 3-8 あなたが取り組みたいと考える項目：第3回会議テーマ



図 3-9 あなたが取り組みたいと考える項目：第4回会議テーマ

① 第2回会議テーマ「モノを買う・使う・手放す」

各行動に対する各項目の平均点等は、表 3-2 に示すとおりである。

表 3-2 行動ごとの平均点（第2回会議テーマ）

行 動	武蔵野市民が積極的に取り組むべき（平均点）	取組の難易度（平均点）	あなたが取り組みたい（配点基準に基づく得点）
1 環境に配慮した製品／サービスを選択する	6.28	2.74	110
2 使い捨てプラスチック製品の購入を控える	5.98	2.72	79
3 消費行動を抑え、必要なモノのみを購入する	5.21	2.74	139
4 生産国など、地域・社会・人に配慮したモノを購入する	5.81	3.06	60
5 国産品や地元の商品を優先して購入する（地産地消）	5.51	2.49	55
6 長く着ることができる衣服を購入する	5.58	2.45	21
7 食品ロスを削減する	6.49	2.28	110
8 生ごみをたい肥として活用する	5.28	2.96	17
9 プラスチック容器、包装の使用を控える	5.89	2.62	29
10 耐久性のあるモノを購入し、修理しながら使う	5.91	2.79	48
11 モノをシェアする	5.53	2.83	6
12 分別して捨てる	6.55	1.79	97
13 不用になったモノを次の人が使える仕組みを利用する	6.28	2.21	62

【網掛け凡例】

- ・武蔵野市民が積極的に取り組むべき（平均点）：6点以上（比較的上位）
- ・取組の難易度（平均点）：3.5点以上（比較的上位）
- ・あなたが取り組みたい（配点基準に基づく得点）：100点以上（比較的上位）

② 第3回会議テーマ「動く・働く（学ぶ）・遊ぶ」

各行動に対する各項目の平均点等は、表 3-3 に示すとおりである。

表 3-3 行動ごとの平均点（第3回会議テーマ）

行 動	武蔵野市民が積極的に取り組むべき（平均点）	取組の難易度（平均点）	あなたが取り組みたい（配点基準に基づく得点）
14 徒歩で移動する	5.30	2.36	151
15 自転車移動する	5.68	2.20	225
16 公共交通機関で移動する	5.92	1.94	156
17 電気自動車移動する	4.72	3.70	25
18 シェアサイクルを活用する	5.56	2.44	12
19 カーシェアを活用する	5.00	2.50	21
20 電動バイクや次世代モビリティなどの新しい乗り物で移動する	4.44	3.16	22
21 CO ₂ 削減に配慮した運送方法を選択する	6.18	3.04	22
22 外出せずに家で遊ぶ	2.24	3.72	0
23 外（自然の中）で遊ぶ	5.42	2.08	62
24 近場（公共の施設など）で遊ぶ	4.60	2.50	20
25 CO ₂ 削減に配慮した遊び方、旅行を選ぶ	5.34	2.96	22
26 テレワーク・リモート授業を行う	4.60	3.02	76
27 シェアオフィスを活用する	4.96	2.56	19

【網掛け凡例】

- ・武蔵野市民が積極的に取り組むべき（平均点）：6点以上（比較的上位）
- ・取組の難易度（平均点）：3.5点以上（比較的上位）
- ・あなたが取り組みたい（配点基準に基づく得点）：100点以上（比較的上位）

③ 第4回会議テーマ「住まいのエネルギー」

各行動に対する各項目の平均点等は、表 3-4 に示すとおりである。

表 3-4 行動ごとの平均点（第4回会議テーマ）

行 動		武蔵野市民が 積極的に取り 組むべき (平均点)	取組の 難易度 (平均点)	あなたが 取り組み たい (配点基 準に基づ く得点)
28	電力を再エネ電気に切り替える	6.00	3.20	116
29	太陽光パネルを設置する	5.73	3.53	81
30	節電する	6.41	1.98	225
31	節水する	6.29	2.08	106
32	省エネ家電に買い替える	5.55	2.90	76
33	電力を可視化する	5.78	3.00	76
34	窓や壁などの家の断熱リフォームを行う	5.78	3.51	48
35	環境に配慮した省エネ住宅に住む（分譲・賃貸）	5.82	3.59	80
36	緑のカーテンなど、家を緑化する	5.41	2.53	25

【網掛け凡例】

- ・武蔵野市民が積極的に取り組むべき（平均点）：6 点以上（比較的上位）
- ・取組の難易度（平均点）：3.5 点以上（比較的上位）
- ・あなたが取り組みたい（配点基準に基づく得点）：100 点以上（比較的上位）

(4) 取組が難しいと考える理由

① 第2回会議テーマ「モノを買う・使う・手放す」

各行動の取組が難しいと考える理由は、表 3-5 に示すとおりである。

表 3-5 行動ごとの取組が難しい理由（第2回会議テーマ）

	理由（自由回答）
<p>行動 1</p> <p>環境に配慮した製品／サービスを選択する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価格が高ければ選択が難しくなるから。 ・ 価格や満足度の面で競争力があるようにすることが、製品やサービスの課題 ・ 普通の商品と全く変わらないのであれば、簡単であるが値段や性能に差があるのであれば難しいのではないか。 ・ コストが高くなる場合、選択を促すのは難しくなる。 ・ 一般製品に比べて価格が高いと、現在の経済環境の中では選択しにくい。 ・ 環境に配慮した商品サービスは、最近増えてきており、選択肢が広がっていると思います。一方でそのための追加コスト（有形無形の）については、市民全員が支払うことが出来るかどうか、懸念材料です。 ・ 消費者側は値段をよく見ていると思うので環境に配慮した製品にあまり需要がないかもしれませんが、それでも是非取り組んでほしいです。毎日何を買うにもプラスチックゴミがたくさん出てしまい精神的に疲れます。野菜や果物はなるべくプラスチックゴミが出ないように武蔵野市として取り組んでいただけるととても嬉しいです。元々昔はプラスチックを利用していなかったのですから、様々な工夫ができると思います。 ・ 価格が高い分、難しいと感じる人も多いかと思います。消費を吟味することは楽しみながら出来る限りでよいかと思います。積極的に取り組むべきかと言われると、優先すべきはエネルギーの問題かと思いますので一般家庭に再エネなどのエネルギー切り替えが一番の課題と思います。 ・ プラスチックバックを有料化したらマイバックが普及したように、何らかの経済的な動機付けが無いと関心の無い方々には伝わりにくいと思う。 ・ 多忙な日常や経済的なことを考えると、全て達成出来ないと感じる。 ・ 環境への配慮について、製品を販売する会社が騙そうとすることが多くて効果的に選ぶのが難しいです。個人で実行するのが困難だと思われます。 ・ 製品選択において、機能とカーボン産出量と価格のバランスをどのようにとっていけばいいのか、消費者が知りえる情報量が少ないと思う。 ・ 購入時に経済的負担増になるときは公的助成制度などがあったほうが良い。 ・ 各世帯の所得の差による取り組みの困難性に行政がどこまで対応できるか。 ・ 環境問題に危機感を感じている個人差があるから。 ・ 価格や好みなど、環境への配慮以外の価値観を強く持つ消費者もいるため。 ・ 何を重視するか人それぞれだから。 ・ 個々の考え方や生活環境が、違うからです。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 購入する商品がどの程度カーボンゼロに貢献しているのかが一目でわからない。商品ごとにカーボン産出量をラベリングするなどの規制を行い、消費者が選択可能にするといいいのではないだろうか。 ・ 無農薬食品、無添加食品など、健康を考慮した食品を購入したいが、それらの商品の選択とカーボン産出の関係がわからない。もしも、健康に配慮した食料品を選ぶとカーボン産出が増えるとする、どちらに価値を置くべきか、悩ましい選択になるのではないか。 ・ 先行事例がないこと。 ・ 武蔵野市オリジナルを創出する時間と手間がかかること ・ 購入する市民の意識も大事だが、製品をつくる企業が環境に配慮した製品を作れるかが大きな課題。 ・ 市販の商品・製品が少ない。 ・ 小売業者の協力が得られるか。 ・ 今やっていることが 10 年先 20 年先に必ずしも正しい結果となるとはとは限らない。EV化などは最たるもの、レアメタルの使用についてはゲストティーチャーの先生も今後の技術開発に期待することを認めておられた、1970 年代の原子力利用の期待と同じことになる可能性がある。 ・ きちんとした認証機関等がないと、環境に配慮していることを確認するのが大変になるかもしれません。 ・ フェアトレードタウンなどのように市が宣言して牽引する必要がある。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">行動 2</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">使い捨てプラスチック製品の購入を控える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチック製でないものがあまり売っていないから。 ・ 使い捨てプラスチックを使っていない製品がそもそも選択肢になっていないケースが多いです。 ・ 食料品や日用品といった身近なものはプラスチックありの商品が主力 ・ プラスチック製品が多すぎる。 ・ マイボトルを持つことでまずはペットボトルの消費を抑えることは割と簡単にできることかと思えます。現状ペットボトル製品が多すぎるというのが難しい問題かと思えます。 ・ プラスチック製品があまりに多いのに対して買わずに済ませる手段が少なすぎる。 ・ 代替品がないと難しい。 ・ 現状ではないほとんどの物がプラスチックで包装されているため。 ・ コンビニ、スーパーなどの製品には最初から梱包に使用されていて、消費者に選択の余地がない場合が多いから。

- ・極力水筒などを持参するようにしているが、出先で買わざるを得ないことなどもある。
- ・「使い捨てプラスチック」になるか否かが分かりにくい。プラスチック代替製品は、デザイン性の面で相当な工夫が必要。
- ・消費者側というよりは、メーカーや販売店側でプラスチックを使わない方法を提供いただくのがよいのではないかと思う。もちろん、2つの製品があり、一方がプラスチックを使っていないとしたら、そちらを選ぶのは必然だと思う。
- ・購入者だけの問題ではなく、製造業者（販売者）の協力が不可欠だから
- ・リサイクル率が上がることと、その回収率で、控えることなく、循環の選択をとりやすいまちづくりも必要。
- ・ファストフード店が紙製ストローなどの使用に切り替えるとのこと、先日までの「割りばし論争」は何処へ行ったのか、結局今の便利さを手放したくないだけでは、結局マスコミの論調に流される。
- ・ペットボトルなど、再利用のルートが確立されている商品がいいが、再利用可能な様にうまく分解できない商品（容器）を選択せざるを得ない場合もあるため、法制化が必要だと思います。
- ・プラスチックの方が便利で安価なこともあるだろうから、どのような製品を不要にするかの線引きが課題だと思います。
- ・ペットボトルなどは便利で買ってしまうため。
- ・惣菜屋などで使われ続けるプラ容器の扱いをどう位置付けるかが難しい。
- ・買いたいものが何かによるからです。
- ・プラスチック製品は便利であり、紙ストローなど代替品の実用性に疑問を持つ人も多い。多くの人に実施してもらうには、「環境へ配慮できる」以外のインセンティブや、市内の店舗では使い捨てプラスチック製品を禁止する、などの規制が必要だと思う。
- ・まだ市民の意識が薄いと考える。
- ・お菓子やお肉などは難しいかもしれないが、野菜や果物など減らせる部分は減らしていき、容器を持っていくと中身を入れてくれる店ができると良いと思う。プラスチックはリサイクルできるから使ってもいいやと思う人が結構いると思うが実際にプラスチックはきちんとリサイクルされているのはごく一部である。そのようなプラスチックリサイクルの真実を伝える勉強会などをひらけば理解が深まると思う。
- ・ペットボトルを含めたビッグ4（ペットボトル、ビニール袋、紙コップ、ストロー）などの消費を控えることは必須。責任のある消費が市民には求められる。便利よりも環境に配慮していることの価値観をあげることが求められる。併せて提供する側のモラルの向上が必須。
- ・危機感を感じているか個人差がある。

	理由（自由回答）
<p>行動3</p> <p>消費行動を抑え、必要なモノのみを購入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に必要かどうかを判断するのは人間にとって難しいです。広告が溢れる現代社会では思わずに説得されることが多いのではないのでしょうか。 ・ 政府の経済対策は常に需要喚起なので、そこから変える必要がある。また、「精神衛生上必要な買い物」を必要と考えるか不必要と考えるか、難しい問題である。 ・ 何が必要かの判断は、ひとそれぞれだから。 ・ 常々、必要なもののみを購入するように努めている。一方、例えば災害や防災の備蓄量をどの程度準備すべきかという、個人個人の生活環境に依存し、正解は無いように思う。つまり、必要なモノと量を最適化する個々の環境に依存しているので難しいのではないか。 ・ 「必要なもの」は人によって異なるので、一律に何を減らせとは言えないのでは。 ・ これには、リユースの文化を育てることが重要な気がする。 ・ 消費行動を変えることはライフスタイルを変更する事なので、反発が大きいと思料。 ・ 所得格差が発生する。 ・ 良く考えて物を買う、私たちの世代にとっては難しくない。 ・ 消費＝生産であるため、経済へのインパクトを考慮すると、単純な消費削減は望ましくないのではないかと、環境配慮型への消費シフトが優先事項かと思えます。 ・ 必要最小限にするのは大切だが、モノが売れなくなるのは避けないといけないのではないかと。 ・ かえって経済がしぼんでしまうと思われるから。 ・ 購入をしないと経済が回らないというジレンマがあると思う。私個人としては必要なものしか買ってないが、消費者社会において市民のマインドセットを変えるのは難しいのではないかと。武蔵野市内の経済をなるべく直線型の経済ではなく循環型の経済にする取り組みを増やしたらうまくいくのではないかとおもう。 ・ ファストファッションなど、トレンドを重視して毎シーズン商品を買替えるという行動、またそれが経済効果をもたらすという考え方もあるため。 ・ 吉祥寺の発展に関わるのではないかと。 ・ 現行の資本主義経済ではステークホルダー間の利害不一致が大きいため。 ・ 本当は積極的に行動することがいいとは思いますが、人間、ついつい買ってしまいそうだからです。 ・ 地球環境のために、個人の欲求を抑える必要がある取り組みを、広めたり継続することは難しい。得をしたり楽しいと感じる仕組みが必要と思う。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要なものを買う。買うならばサーキュレーションの輪に入っている者を購入すべきで、使い捨てはもつてのほか。5R の考えのもとに購入を考え、買い換えるときにゴミにならないで、できる限り資源に還元できる素材で構成されたものを購入する。 ・ 消費が美德とすりこまれている。 ・ 使い捨てで育った人が多い。 ・ まだまだ常に新しいものを消費する価値観が根強く、壊れても直せる製品・メーカーが少ない現状が問題かと思います。修理が可能な製品を企業に求めることや、使えなくなってしまうものはリサイクルできる仕組みが必要かと思います。 ・ 特に子供のモノなど周囲が持っているからと言う理由などで買わざるを得ないこともある。 ・ 製品を作る側の環境配慮が求められる。安いが判断材料ではなく、どれだけ環境に配慮しているかの価値観を重視して製品をつくるのが大事。素材や製品がゴミにならずに、リサイクルでき、できるだけ環境負荷の少ないサーキュレーションの中で製品ができていくのが大きなポイント。 ・ 個人の価値観に左右されるため。 ・ 環境問題に危機感を感じている個人差があるから。
<p>行動 4</p> <p>生産国など、地域・社会・人に配慮したモノを購入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価格が高ければ選択が難しくなるから。 ・ そのようなモノは料金が安い場合があるので、定着が難しいのではないかと考える。 ・ 金額との兼ね合いが難しい。 ・ 性能、値段が異ならないなら簡単だと思う。 ・ 物価高の今、それでも日本は安いと言うものの、収入と釣り合わず、気を回す余裕がなさそうだからです。 ・ これも販売者に騙されることが多く、そもそも選択できないケースがほとんどです。 ・ 配慮した製品の選択肢は必ずしも多くないから。 ・ 地産商品を手に入る機会が少ない。 ・ トレーサビリティが不明瞭な商品も多いほか、ネットで調べる煩雑さもある。 ・ 販売者が必要な情報、かつ信頼性のある情報を付加する必要がある。または、消費者が情報を収集する必要がある。 ・ 全てが表示されるわけではない。 ・ 判断に資する正しい情報の入手が難しい。 ・ 環境という面だけではなく、SDGs にも対応していくべきであり、ぜひ取り組みたいと思います。一方で、商品やサービスについて、どの程度配

	理由（自由回答）
	<p>慮されているのかの情報が不足していると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品にそのような情報がない場合が多いため、生産国、地域、社会、人に配慮した製品かどうかを知ることが難しい。 ・ どこでだれがどのように作られたモノかを、分かるような製品が増えると良いと思います。これも企業への働きかけが必要か、消費者・ニーズが変わる事など必要かと思います。 ・ 前提として配慮したモノなのかどうか容易に分かるようになっている必要がある。 ・ 国や地域、社会での商品選択は大雑把には可能であるが、様々な歪みが入ってしまうのではないかと思う。理想は人への信頼をもとにした商品選択で、生産者と消費者を結ぶ取り組みが増えると良いのだろうと思う。 ・ フェアトレード理念や啓発には時間がかかりそう。 ・ 配慮する基準作りが、困難を極めると思料 ・ 現状この考え方はあまり広まっていないと思うので、市が積極的に広める必要がある。また、武蔵野市独自の認証制度などがあると市民が判断する基準ができ取り組みやすいと思う。 ・ 販売店舗が少なすぎる。 ・ 電気や食品など地産地消する考えはとても大切。ロスが少ないうえ、環境負荷が少ないからである。一方で電気など武蔵野市で賄えないことが大きな問題で、原発や火力発電で得た電気をお金を払えば関係ないとする企業や市民が問題であると感じている。各家庭や各企業が再生可能エネルギーで電気を賄い、必要にして足りるといったミニマムインパクトの基に使用をすることが大事。再生可能エネルギーに切り替えるのは必須だし、それを実現するための供給元を支援したり、武蔵野市自体が市民エネルギーを誘致したりすることが大事である。 ・ それを選ぶことが難しい。 ・ 多忙な日常生活でそこまで考える余裕がない。 ・ 環境問題に危機感を感じている個人差があるから。
<p>行動5 国産品や地元の商品を優先して購入する（地産地消）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価格が高ければ選択が難しくなるから。 ・ 生活に余裕があるならまだしも、生活がかかっている場合、国産品や地元の商品を優先して購入する（地産地消）ことは、経済学的な比較優位の原理から有効とは言えないから。 ・ 国産であっても、生産のインプットで輸入品を多く使うことがほとんどです。これで実際に効果を得られるのが想像しにくいです。 ・ 現在の生活様式では、選択肢が限られる。 ・ 地産商品を手に取る機会が少ない。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市で生産されたものを武蔵野市民が消費することは、とても大切だと思う。一方、消費するものをすべて武蔵野市で生産することもできないだろうから、難しさもある。 ・ 品物による。 ・ 輸入品への依存は、物価高が後押しする。 ・ 武蔵野市は消費都市である、(地産地消を) 多少は出来ても生産地、生産国の立場もある、設問自体が多少愚問の感がある。 ・ 最近の円安で必ずしも国内産が高価なわけではないので、外国産しかない商品以外は、比較的取り組みが容易であると思います。また、極端な国産信仰は、国内商品の品質の低下や非関税障壁になるので、注意が必要かと思います。 ・ その方がエコという価値観を広める必要がある。 ・ 意識して地産地消を習慣つけたいところですが、他に良いものがあればそちらに目がいつってしまうのではないのでしょうか。 ・ 武蔵野市の農家の野菜などをうまく活用できるといいと思う。自分の食べているものや使っているものがどこからくるのかをより詳しくしれて安心できる。 ・ 特に電気。地方の原発や火力発電に頼っている現状は早急に改善すべき案件。 ・ 多忙な日常生活でそこまで考える余裕がない。 ・ その方がエコという価値観を広める必要がある。 ・ 環境問題に危機感を感じている個人差があるから。 ・ どこまで「優先」するかの匙加減は人それぞれだから。
<p>行動6</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">長く着ることが出来る衣服を購入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価格が高ければ選択が難しくなるから。 ・ 長持ちする服は手が届きにくい価格帯がほとんどであると考えため、若者は特に難しいと考える。 ・ 価格面での優位性がないと難しい。 ・ そのような商品は値段が高い街場合が多く、経済的にできにくい場合もある、また、そのような品質のお店が増えてくるのにも時間がかかりそう ・ 長く着ることが出来る衣服は値段が高い。 ・ 初期コストが安い衣服を売るファストファッション店の存在感が圧倒的ですがこれを抑えて高品質の物を増やすことができればインパクトが大きいでしょう。 ・ 体格が落ち着けば、長く着れるものを選択するのは容易だと思う。 ・ 価値観の違い。着られれば良い、とだけ考える人ばかりではない。 ・ 難しくない、繕うことの手間を惜しまねば30年近く来ているシャツもある。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供服等の、長く着用することが前提になっていない商品以外は、お直しサービスも利用すれば、取り組みは容易であると思います。 ・ 多くの人の立場で考えた際、購入動機の一つ目となりうるか不明なため。 ・ 長く着れるものでなければ古着市場も活性しない。 ・ 日本は流行に流される時代が終わってないような気がする。 ・ ファストファッションに対する市民の考えの改善が必要と感じる。安いものに価値をおくのではなく、環境配慮に価値観を置く市民が武蔵野市で増えることが大事。フェアトレードむさしのさんのように市民が購入するものを吟味する必要があるし、製品を販売する側のモラルや規制があつてほしいと思う。武蔵野市が日本を率先してCO₂の削減に取り組む自治体になってほしい。 ・ アパレル産業が与える環境への悪影響は大きいので、少しでも優先度は高いと思います。愛着を持って長く着ることの価値観の浸透が課題かと思います。 ・ 個人の価値観に左右される。一般にお直し代が高い。 ・ 環境問題に危機感を感じている個人差があるから。
<p>行動7</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">食品ロスを削減する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政が積極的にリードしなければ難しい。 ・ 市民だけでなく企業行政も巻き込む必要があるから。 ・ 企業が作り過ぎない。足りないくらいで丁度いいと思う。製品が溢れ過ぎている。 ・ 市民レベル（家庭レベル）で実践することは、それほど難しくないのでは。外食産業や食品販売などからの食品ロスの減少は仕組みから変える必要があるのでは。 ・ 消費者はいつでも手にはいる便利さを優先したら実現は難しい。加工食品も野菜も陳列されずに廃棄されるものが多いので小売り事業者には廃棄の制限を儲けるべき。 ・ 必要にして足りる。必要以上の食品を作らない。フードロスは環境問題でもある一方社会問題でもある。フードロスがでるビジネスの形態に問題がある。何事もロスが出ることに課税や規制を行い、改善してほしい。 ・ 農家は捨てる野菜を子供食堂など福祉に使えるような仕組みが充実するべき。 ・ ロスを削減する仕組みづくりが必要。 ・ 難しくない。現に我が家は、妻の努力もあり、賞味期限はあまり気にしない、ほとんど食品ロスを出していない。 ・ 意識の問題であるので、取り組みが難しい理由が見当たらない。地方や、昔の人は、お客さんに対して食べきれない量を出すのが礼儀だと思っている人が居ましたが、徐々に減ってきていると思います。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の献立を考えながらロスを削減することは実際に実行していますが、毎日忙しく働いている人たちにその余裕はあるか疑問です。 ・ 偽装はないか。期限をみながら、消費者が食品を安心して購入することができるように、社会全体で目を肥やす必要があるのではないかと思います。 ・ ラベリングが適切であるか。
<p>行動 8</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生ごみをたい肥として活用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンポストは高いため、普及には補助が必要だから。 ・ どこまで行政が支援するか。高齢者や共働き子育て世代などに対する緩和策など。 ・ 農場などに輸送する必要があるって実際にメリットがあるかどうかをしっかりと計算する必要があります。 ・ 町中に生ゴミ回収 BOX を作れば良い。 ・ 各家庭の堆肥化より、地区ごとのコンポストシステムの配備を願う。 ・ 地域にコンポストが出来れば良いが管理が難しいか。生ゴミを乾かすように促して成果を出した自治体は存在しているので力を入れても良いと思う ・ 全員が取り組めるようにするには自助努力だけじゃ設備等整えられないため難しい。 ・ 家から徒歩十五分以内の場所に生ゴミを持って行ける場所があればとても嬉しい。みみずなどが分解してくれるコンポストだとお良いと思う。 ・ 生ごみのたい肥化を個人（特に庭などのスペースのないマンション住人）で行うためには、スペースや設備の問題があると思います。 ・ 生ゴミ処理機やコンポストの設置を個人とするのか武蔵野市とするのか、また武蔵野市とする場合の設置場所など、課題がある。 ・ 臭気の問題を解決する事、堆肥の引き取り先（購入者）の確保が容易とは言えない。 ・ たい肥にするまでの臭い等が気になるため。 ・ 臭いがある。 ・ 生ごみをたい肥にするにはそれなりの道具が必要だと思うので、それを各家庭に置くことができるかどうかわからないので。場所・臭いなどの問題 ・ マンションで生活し、ディスポーザーを使うので、生ごみの分別とたい肥化ができない。 ・ マンションなどの居住者は生ごみを堆肥にしても、マンションなどでは活用が難しい。 ・ 市民のマインドセット

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした分別が難しい人もいるかもしれない。 ・生ゴミが多いのでそれを肥料にできると燃やすゴミがだいぶ減る。肥料作りは肥料にできるものとできないものをきちんと分離しないといけないので少し難しそう。だから誰かがきちんと管理しなければいけない。 ・たい肥にするための知識、時間が必要であり、市のリーダーシップによる市民への啓蒙が必要であると考えため。 ・堆肥にする仕組みとネットワークの構築に労力と時間がかかる。 ・都市部では各家庭で堆肥化は難しい、食品ロスをあまり出さなければ生ゴミ自体が少なく、回収堆肥化の環境負荷がある。 ・活用の仕方が分からない。 ・たい肥を必要としている所と、どうつながるのか。流通システム作りが難しいのでは。 ・庭やベランダのない住宅もあるため、地域の中で循環する仕組みが必要。 ・堆肥は使う人が限られるのではないかと思う。 ・個人として取り組むというよりは、市が推進する方がいいと思う。 ・準備を市がPR出来れば可能になるかも。 ・各家庭や各企業がコンポストを利用し堆肥化するのは容易なこと。それをできる市民を育てられるかが大きな行政の課題 ・ベランダでもできる商品を知らない。コンポストするようになってゴミが減った！楽しいですよ。 ・管理が難しい。
<p>行動9</p> <p>プラスチック容器、包装の使用を控える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの製品がプラスチック製だから。 ・使用しない選択肢がないケースが多いです。市で量り売りなどを促進する仕組みを導入する必要があると思われます。 ・買い物の際に、すでにプラスチックに包まれているので選択出来ない。 ・商品の梱包に最初から使用されており消費者に選択の余地が少ないから。 ・包装されていないものの方が少ない。 ・商品の多くにプラスチックが使われている。 ・流通している食料品等にプラスチックを使っているものが多いため。 ・現状は多すぎる。 ・自身がそれを不要と思っても、スーパーなどで既に包装されているため。 ・代替品の開発が不十分。 ・プラスチックは素材として優秀なので、代替材の開発もなかなか難しいと思う。 ・プラスチック容器、包装については、コストが安く扱いやすいため、普及してしまっているのだと思います。最近ソニーが商品パッケージからプラスチックを排除する発表を行っていましたが、代替の容器・包装材が普及

	理由（自由回答）
	<p>すれば、そちらを利用しやすくなるのではないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラップやビニール袋の利便性を超える商品を見つけていない。何か代替品があればよいのだが、難しいのではないかと思う。 ・野菜の商習慣を変えるパイオニア的取り組み。 ・スーパーなどの流通自体がプラスチックによって支えられている、節約と回収両方力を入れるべき。 ・控えるという気持ちを、どこまで維持できるか。 ・市民の問題ではなく、企業努力の問題。環境に配慮した包装やリサイクルできる素材で製品を提供する時代はもう来ている。市民としてビニール包装製品を購入しないも大事だが、売る側も包装方法を考えるべきである。 ・早く進めるべきだと思います。 ・市民の問題ではなく、企業努力の問題。環境に配慮した包装やリサイクルできる素材で製品を提供する時代はもう来ている。市民としてビニール包装製品を購入しないも大事だが、売る側も包装方法を考えるべきである。 ・家庭内のプラスチック容器、包装の使用を控えるのは複数回使用のできるものを使用すればよいが、購入の際については、事業者への働きかけが必要だから。 ・企業の責任が大きい。 ・企業がパッケージをやめれば良い。
<p>行動 10</p> <p>耐久性のあるモノを購入し、修理しながら使う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修理にかかる時間が長ければ買う方が楽だから。 ・修理すれば使えるものの、修理するコストの方が購入コストを上回ることがある。 ・耐久性が高い品物は高い。 ・修理の事の方が高い事が多い、それだけ資源を使うという事。 ・修理代が高い。 ・耐久消費財であっても、最近の商品はある程度の年数で壊れることを前提に作られてしまっているから。また修理は新製品を購入するよりも割高になる場合が多い。 ・修理してくれるところが少ない、または修理代金が高い。 ・耐久性について頼れる情報の入手は困難です。 ・メーカーの部品供給期限があり、調達できない場合が多い。また、個人レベルで対応できないケースも多い。 ・家具などの耐久品は修理可能であるが、大型家電などは、部品供給の問題もあり、修理して利用するというよりは、廃品をリサイクルしていく方がよいのではないのでしょうか。 ・長く着ているものがカッコいい。 ・修理を消費行動として定着させるための工夫が必要なのではないかと思

	理由（自由回答）
	<p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ QCDなど企業活動に変革が求められる。ESG活動など。 ・ 修理ノウハウが定着していない。 ・ 修理がどこまで（いつまで）可能か。 ・ 修理をより文化的に。 ・ 特にハイテク化/電子化されたものは、耐久性の見極めも、修理も難しい。 ・ とくに子供、女性や高齢者にとって、修理することはハードルが高いかもしれない。 ・ スペシャリストなど呼んで月一のお直し会などを開催できると楽しいと思う。 ・ 耐久性のない安いものをついつい買ってしまい、使い捨てのクセがついている。考え方を、変えなければいけない。 ・ 新しいものに価値があるのではなく、長く使うことで愛着がわくことに価値観をもってほしい。素材がサーキュレーションの輪にある製品はとても重要で、耐久性があったり、直せるのは製品ができるだけゴミにならないので大事なアプローチであると考えています。 ・ 意識改革 ・ 新しい物好き。 ・ 安くて使い勝手の良い商品が多い。修理して使う生活をしていない。
<p>行動 11</p> <p>モノをシェアする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍では限界があると思う。 ・ まだコロナのこともあるので人が使ったものに抵抗がある人もいるのではないか。 ・ 自転車などはやりやすいが、家電などの個人所有のシェアは実際に始めたら課題は多そう。例えば人間関係のトラブルや治安など ・ かつてカーシェアのユーザーだったが、ペットの同乗ができないなど、制限が多く、利用をあきらめた。 ・ きめ細かな、消費者ニーズに合わせたシェア産業が育つとよいと思う。 ・ 対象を厳選し利用モデルの普及・浸透に工夫が必要 ・ モノの定義をするのが困難 ・ 「モノ」によるから。 ・ シェアする方法（ルール）が必要。 ・ シェア自体に抵抗を示す方も一定程度いるであろうから。 ・ 清潔さの観点などからモノのシェアに抵抗があるため。 ・ 所有の方が確実に使えるという事、所有による満足感など、のメリットは捨てがたい。 ・ シェアサイクルや、シェアカー等普及しており、共有利用に抵抗感のない商品、サービスへの取り組みは容易であると思います。取組が難しいケー

	理由（自由回答）
	<p>スとしては、利用場所、時間が集中してしまう、商品、サービスは、利用の分散化が課題であると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な取組だとは思いますが、事業者の協力を得て強力に推進していかないと、定着しないかもしれない。 ・ 面白いからやって欲しい、プラットフォームが欲しい。 ・ プラットフォームを用意する必要がある。 ・ ベビー用品や使用しなくなった家庭用品を、二次使用できるような仕組みがないから。 ・ 仕組みが必要、またそれを認知して貰うことも必要。 ・ シェアサイクルの仕組みづくりに時間と労力がかかる。 ・ カーシェア、サイクルシェアなどひろまってきている考え。それを実現するための仕組みが整えられるかが大きなポイント。利用する側と供給する側の一致が求められる。 ・ 実際に経験した事が無い。
<p>行動 12</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">分別して捨てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特にプラスチックは、分別しても実際にリサイクルできないことがほとんどです。分別している民衆が分別で満足してしまっていて使用量を削減しようとしにくい現状ですから、むしろ逆効果をもたらしてしまう可能性が高いでしょう。 ・ 分別した場合の行く先が良く分かっていないと適切な分別は困難 ・ 分別すれば資源、まとめればゴミ。ゴミを分別するとどのようにリサイクルされるかを広く周知する必要があります。 ・ 分別回収をしてもらえるので、分別してごみ捨てを行っている。 ・ ゴミの分別で迷うことが多いので、詳しい分別表を作ってほしい。 ・ 今の収集方法をさらに細分化するには、意識だけでなく、仕組み（個人が適切にごみを識別できるかなど）の構築が必要だから。 ・ めんどくさいを省けるユニークなアイデアが欲しい。 ・ 難しくない。 ・ 分別回収するための分解できない商品があるため、供給サイドに改善をしてほしい。 ・ 高齢だったり、障害があったりする方もいるからです。 ・ 結局サーマルリサイクル（焼却処理でリサイクルでない）ならば分ける必要はないから、分けた後にどのようにマテリアルリサイクルができているかを市民に伝える必要がある。一刻も早くサーマルリサイクルは廃止すべきでマテリアルリサイクルにシフトチェンジすべき。 ・ 市民が、毎日、曜日ごとに燃やすごみ、燃えないごみに分別して出しているため、武蔵野クリーンセンターでは「ごみ」発電を行うことで、ごみ原料を軸。武蔵野市民はごみに対する意識が高い。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のごみ出しで若い世代ができていない。経験がないため
<p>行動 13</p> <p>不用になったモノを次の人が使える仕組みを利用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者を介したり、個人同士で持ち物を受け渡しする際、悪意のある事業者や人にあたることもある。公的な機関が間に入るといいのではないかと思う。 ・ 交換できる仕組みづくり。 ・ 仕組みをいかに認知して貰うかがキーだと思います。 ・ マッチングにつき、地域での近所付き合いがある程度定着があれば可能だが、現状はそのマッチングこそ市の取り組みが大きいと感じるから。 ・ 個人情報に留意すると仕組みが煩雑になる。 ・ 現状は回答のとおり。 ・ 中古品の品質が不明であることが難点か。 ・ まだコロナのこともあるので抵抗がある人もいるのではないかと思います。そこは十分に消毒などすることも考えますが、そこも個人差があると思います。 ・ 他人が使用したものへの抵抗感があるため。 ・ リユースの考えはとても大事である。人が使ったものでも価値がある製品を作ることが大事。アップサイクルや製品価値を高める企業が増えてほしいし、市民はそういう製品を選んでほしい。 ・ 最近コミセンで「むさしのエコポ」を見かける。取組は非常に良いと思っているが、いかんせん利用者が少ない。この取り組みを「武蔵野クリーンセンター」で行う事はできないか。クリーンセンターで目利の人を雇い、収集日が空いている第2、第4木曜日に行う事はできないか。

② 第3回会議テーマ「動く・働く（学ぶ）・遊ぶ」

各行動の取組が難しいと考える理由は、表 3-6 に示すとおりである。

表 3-6 行動ごとの取組が難しい理由（第3回会議テーマ）

	理由（自由回答）
<p>行動 14</p> <p>徒歩で移動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの習慣を変えることは難しいから。 ・ 行動範囲が徒歩圏を超えるため。 ・ 人口密度が低い武蔵野市では徒歩で移動できる経路が限られています。吉祥寺付近は非常によくできていますが、その他の地域は店と住宅が混ざる再開発が必要でしょう。 ・ 歩きやすい道ばかりではない。普段気にするほどでないが、長距離は歩きづらいこともある。 ・ この設問の趣旨がよくわからない。移動手段は、それぞれの体力やその時の状況等に応じて市民が適切に判断することでよいと考える。 ・ 時間との兼ね合いもある。できる人ができるだけやればいいのでは。 ・ 移動に時間制約がある場合は促進が困難と考えるため。 ・ 最近、駅まで約1.5kmを歩くようにしています。歩数をカウントして、歩くほどメリット（お金でなくてもよい）があるサービスがあれば、より取り組みやすいと考えます。 ・ 高齢化、自転車、バスが充実しているから。 ・ 出来るだけということはわかるが、身体の状態で難しい人も多いと思う。 ・ 高齢者、障害のある方は難しい。 ・ 人により歩行能力が違う。 ・ 個々の事情や高齢、障害といった問題があるから、できる人がやればいいな、と思う。 ・ 足が悪い人には辛い。 ・ 健康のために歩くは理解できても、環境のために徒歩を選択するというのは、やや飛躍している。 ・ 徒歩での活動をメリットとして啓発することが困難と捉える。
<p>行動 15</p> <p>自転車で移動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車の道や駐車場が多いから、パリミたいにただ自転車に転用すれば輸送力とエコ性をすぐでも向上できるはずです。 ・ 悪天候の日など。 ・ 安全性は言わずもがなであるが、シェアサイクルは効果的と見る。 ・ 自転車用の道路が狭いので、危険だと感じる人がいるかもしれない。 ・ 道路の自転車レーンが未整備である上に、自転車運転者の法令無視が甚だしく、危険極まりない状態である。 ・ 自転車の走行が今の道路状況だと安全だとは思えない。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市の道路の幅を考慮すると、このまま自転車利用を大きく増やすのは、安全上問題があると考えます。自転車利用帯の確保や、その利用帯の上や路肩に駐車している自動車の取り締まり、即時撤去を実施すべきと考えます。 ・ 自転車専用道路、駐輪場などの整備が先では。 ・ 自転車専用道路の整備が進んでいない。駐輪場が少ない。自転車のマナーが悪い ・ 自転車道の整備。自転車が安心して車道を走れるよう道を確保。自転車のマナー講習が必要 ・ 難しくない、駐輪場などもかなり整備されたし。 ・ 駐輪場が十分に確保出来ている前提となる。 ・ 行動範囲が自転車での移動範囲を超えるため。 ・ 単独での質問では同回答すべきか困惑する。自転車でいくか、徒歩で行くか、電車で行くかなど移動手段は、市民が置かれた状況に応じて適切に判断すればよい。環境への意識を持っていれば自ずと良い選択ができるからである。 ・ 公共交通であるバスが自転車の後ろを走っている状況も見られるが、それらの自転車の何割かは、歩行者がいないと見るや歩道を走り、歩行者がいるとまたバスの前に出てくるというご都合主義である。車道を一方通行にして自転車レーンを広くして自転車の安全な運転を可能にしつつ、自転車の法令違反をしっかりと取り締まるのが自転車利用推進の条件である。 ・ 個々の事情や高齢、障害といった問題があるからやれる人がやればよいな、と思う。
<p>行動 16</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">公共交通機関で移動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電車空白地帯にトラムを引けば使う人が多いと思われます。ただし、自転車より初期コストが高いでしょう。バス優先信号や車線はすぐにでも実施できるはずで。 ・ 公共交通機関ではいけない（または時間がかかる）場所があるのでは。 ・ その時の状況によるので。 ・ 武蔵野市の現状を考慮すると、駅から延びるバスの定時性確保や、JR 中央線の混雑緩和がないと、これ以上の公共交通機関へのシフトは難しいと思います。 ・ すでに公共交通機関は充実しているので、これ以上は難しい気がする。 ・ ペットを伴う移動では、同乗他者に配慮する必要があるため。 ・ 設問が徒歩、自転車で行けない場所へ自家用車を使うか公共交通機関を使うかとなっていれば、7の積極的に取り組むべき、を選択するが。 ・ 個々の事情や高齢、障害といった問題があるからやれる人がやればよいな、と思う。

	理由（自由回答）
<p>行動 17</p> <p>電気自動車 で移動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ すぐには難しいと思うし、電気自動車でないひとの風当たりが強くなりそうで怖い。 ・ 電気自動車が解ではない。電源の再生可能エネルギー化、脱炭素化が解。 ・ EV車の性能（走行距離他）及び充電インフラがまだまだ整備されていない。高速道路、新幹線のような国策としての推進が必要。 ・ インフラの整備が先なのでは。 ・ 技術の発達とインフラ整備の両立が不可欠なので難しいが、必要なことだと思います。 ・ 短距離なら可能と思うが長距離だとインフラがまだ必要だと感じる。 ・ そもそも車が必要かを考えるのが前提で、そのうえで電気自動車にするかどうかだが現在ではまだ電気自動車の購入はハードルが高いから。シンプルにどこで充電するかの問題もある。 ・ 充電設備等が少ない。 ・ 充電スタンドの整備が必要。また、普及させるには購入補助も検討したほうが良いと考える。 ・ 公共及び自宅、特にマンションの充電設備の整備が拡大されないため、補助金を活用して電気自動車を購入しようとしても、利用できる環境になっていない。 ・ 充電ステーションがない。 ・ 価格が高い。 ・ 価格の問題。 ・ 購入費用が高い。 ・ 電気自動車は高価。 ・ コストと航行距離で自分の活用目的にあった車が生産されていない。 ・ コスト的な課題があると考えため。 ・ できれば電気自動車にしたほうが良いと思うが、価格が高い。充電と走行距離に不安がある。 ・ EVでも自動車はエネルギーを多く使い、広い面積を独占するため、限られている土地の効率的な使い方だと考えにくいです。 ・ 自家用はコストと時間がかかる。公共交通機関、例えばムーバスなどから始める。 ・ 電気自動車を所有していない。 ・ 電気自動車を購入する費用を捻出しないといけない。電気自動車の電気を化石燃料で作っているのでは脱炭素に貢献しているとは言えない。水素自動車の普及を早めた方が良いのかもしれない。 ・ 電気自動車のある程度の利用がなされていることが前提となるであろうから。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ E V 礼賛は馬鹿みたいな話、レアメタルの問題、高速道路を一時間走って 30 分充電、バッテリーは高いし劣化の問題はまだ大きく顕在化していない、そもそも車のエネルギー効率アップは車を軽く作ること。 ゲストティーチャーの言っていた「今後の技術開発に期待」1970 年代から原子力開発でさんざん聞いたセリフ ・ 本当に環境にやさしい乗り物かどうかの評価が固まっていない。 ・ 電気自動車の普及がまだ先だと思うから。 ・ 補助制度が必要。 ・ 普及には公的な支援が必要。 ・ 個人の取り組みというよりは、市内の車両を電気自動車に切り替える話だと思います。 ・ 設問に工夫をお願いしたい。 ・ 市内で使用する電気の発電のために他の自治体で CO₂ が発生し、原発事故のリスクとともに生活する人がいることを忘れてはいけない。 ・ まず市内走行路線バスの 100%再エネ。 ・ 電気自動車の性能・価格、充電施設の未整備が解消されていくことが必要。 ・ 買い替えにお金がかかるため。 ・ 徐々に電気自動車に変わっていくことで簡単には変わらないから。
<p>行動 18</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">シェアサイクルを活用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使いたい場所でシェア地点がないように感じる。 ・ 場所が足りないと思う。 ・ 駅前に十分なシェアサイクルを置く場所がありますか。 ・ シェアサイクリングステーションの確保が困難では。自分の自転車ではないため、乱暴に使用する人も出てきてシェアバイクが長くもたないのでは。 ・ シェアサイクルだと事業者に利鞘をとられるため自前でよい。また、シェアサイクルには電動自転車が多く、リチウムイオンバッテリー寿命と廃棄の問題を懸念する。 ・ 使用頻度、維持費用などの費用対効果に疑問。 ・ 料金と利用のしやすさがネックになるのでは。 ・ 自転車専用車線を大幅に増やす必要があるでしょう。 ・ 利用を促進するために、官民協力による条件と環境整備が必要である。要は「本気度」が必要。 ・ シェアの仕組みにつき市のリーダーシップが求められるから。 ・ 利用しやすい仕組みがある前提。 ・ あえて難しい理由を挙げれば、利用したい場所と時間に、空いているかが課題。 ・ 街の構造上、シェアサイクルの需要が伸びるかがわからない。自分用の自転車の方が便利な気がする。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既に利用者がたくさんいる。 ・ 身近に手の届く距離にシェアサイクルがない。 ・ ルールを守らない人がいる。 ・ 武蔵野市外から来た人にとって便利だと思う。 ・ 実際に経験したことがない。 ・ まだまだコロナのこともあるので、シェアに、抵抗がある人もいるのではないかなと思うから。
<p>行動 19</p> <p>カーシェアを活用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍では難しいのでは。 ・ まだコロナのこともあるので抵抗がある人もいるのではないかなと思うから。 ・ 私は人が使った車を使いたくない。 ・ 車が要らない街づくりを目指すべきです。 ・ 費用と使いやすさがネックとなるのでは。 ・ カーシェアを使用したいというニーズが少ないところは、使用されない車も出てきて、いざ、使用するときバッテリーが上がって使用できないなどが発生しそう。運用管理が、難しいのでは。 ・ 利用しやすい仕組みがある前提。 ・ シェアのためのマッチングが市によってなされることが求められるから。 ・ 車の使用目的は様々だと思われるが、それらに応じる形で「いつでも、どこでも」使えるようにすると逆にエコではなくなるのではないかな。 ・ カーシェアの利用だけでは、CO₂が大きく減少するわけではないので、武蔵野市内では環境に配慮した自動車（電気自動車やハイブリッド）のカーシェアのみ営業できるようにしてはどうか。 ・ ペットが同乗できず、用途に限りがある。 ・ 市内での移動であれば、カーシェアそのものの必要性は低い。したがって、そのような仕組みは成功しないであろう。 ・ トラブルがあった時解決しにくい。 ・ 民間カーシェアと公共交通機関の業務提携など、シェアカー駐車場までのアクセスが良くないと、荷物の多い時や雨の日には自宅の駐車場に車があればと思うに違いない。 ・ 実際に経験したことがない。
<p>行動 20</p> <p>電動バイクや次世代モビリティで移動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律などの整備が追いついてないと思う。 ・ 法整備も進んでおらず、まだ、時期尚早なのでは。 ・ 法律や保険などが対応出来ていないと難しい。 ・ 車道、歩道の狭さやルールづくり。 ・ 道が狭い。 ・ 道路の整備等が必要。 ・ そこまでインフラが整っていないのでは、と感じる。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車、バス、トラムはすでに活用できます。星を次世代技術に賭ける時間はありません。 ・ 安全性がよくわからない。 ・ 電動バイクは積極的に進めなくてもよいかと思います。次世代モビリティは高齢化に向けて取り組むべきですが、安全性の確立が必要では。 ・ その開発や利用推進のための啓蒙が強力に必要だろうから。 ・ レアメタルの問題、高速道路を一時間走って30分充電、バッテリーは高いし劣化の問題はまだ大きく顕在化していない、そもそも車のエネルギー効率アップは車を軽く作ること。ゲストティーチャーの言っていた「今後の技術開発に期待」1970年代から原子力開発でさんざん聞いたセリフ。武蔵野市内の道路状況を考慮すると、安全性に疑問。 ・ まずは、自転車の利用を優先すべきか。 ・ 初期投資が大きい。取り組みのインパクトは高いと思うが。 ・ 充電所などを増やす必要、ルール作りも必要。 ・ コスト比較で既存のモビリティの方が割安に感じている。 ・ （難易度に関わらず）必要ないと考えているのに、取り組みの難易度を聞かれても。 ・ 車道、歩道の狭さやルールづくり。 ・ トラムの配備が理想だが、ハードルが高い。 ・ 電動バイクや次世代モビリティのそれぞれについて具体的に検討しないと判断が難しい。 ・ 実際に経験したことがない。 ・ 最近そういった乗り物の事故や意識の低さを目にしますので、改善されればいいのかもかもしれません。
<p>行動 21</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">CO2削減に配慮した運送方法を選択する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の選択では不十分です。 ・ 強烈的な市の制約が必要で、現実的か、検討する必要がある。 ・ 二酸化炭素排出量の削減にどう配慮したのか、が判り難い。 ・ 配送にかかる排出量をどうやって確認するのかその手段が一般的じゃない。 ・ 見える化が必要。 ・ どれが該当するか分からない。 ・ 消費者の立場だと環境に配慮した運送方法かわからない。 ・ 運送方法を選択ができる場面がそもそもあまりないように感じる。 ・ COVID19蔓延下、また妻・夫とも仕事で忙しい世帯では、通販による運送(配送)が不可欠で、運送方法は消費者が選択できない。 ・ 情報が不足していて、選択ができない。 ・ 自身がそれを選択するのは現時点では難しいと感じる。 ・ その場その場で何が良いか、すぐ使えるか、という問題。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運送業者の協力が不可欠。但し、移動距離の短い市内の配送には、営業所に戻って充電が可能な電気自動車の利用は適していると思います。 ・ 通販サイトなどが対応しないと実現しないため。 ・ 通販サイトなどのEコマース業者の協力が必要。業者は競争優位を、消費者は安さを優先しがちになるので、それを克服できる仕組みが必要。 ・ 個々の事情があるから。 ・ 企業行政を巻き込む必要があるから。 ・ 民官の協働がテーマ。 ・ 個々の事情があるから。
行動 22 外出せずに家で遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意図が伝わらないから。 ・ 家にいることがいいとは思えない。 ・ 子供はとくに遊ぶべき。 ・ イノベーションに創造性は不可欠。創造性にセレンディピティは不可欠。外出、旅、冒険による未知との遭遇、他者との出会いは発想を育む。外出はすべき。 ・ 人間の生活には自然・社会が必要。 ・ 健康的でない。 ・ 全く外出しないのは難しいように思う。たまには外出したほうが健康的。 ・ 心身両面での健康保持対策を考慮すべし。 ・ 不健康。 ・ 健康、嗜好から言ってかなり難しいし、私は決してしないだろうから。 ・ 外出せずに家で遊ぶこと自身が難しいというよりも、その結果である市民、国民の健康との両立、精神衛生との両立が難しいと考える。 ・ 健康や生活の豊かさという観点から適切ではないと考えるため。 ・ 家にいてばかりでは健康に良くないし、まだそれで経済が回る世の中ではない。 ・ 外に出たいから。お金回らない。 ・ 個人の趣味の問題だから。 ・ アウトドアを好む人もいるので。 ・ 人は外出が好きです。 ・ ナンセンス。 ・ 家で遊ぶのは強いられてやるものではない。それよりは外で遊んでもCO₂削減になるような方法を考えるほうが現実的。 ・ 家で遊ぶだけなら何故、「全国旅行支援」があるの。 ・ 余暇の過ごし方まで決められることに、抵抗を感じる人は少なくないと思われる。 ・ 外でしか経験できない事もあり、強制はできないため。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外に出かけたい欲求は誰しも持っているので持続可能な取り組みではないため。 ・ 自分の町をよく知るための取り組みはあるといい。 ・ 合理的な説明が出来ない。 ・ 外出制限、行動制限は望ましくない。 ・ 仕方なく 5 難しいを選択しているが、取り組んではいけない。 ・ 外に出ないと気候変動を肌で感じられない。 ・ 家が狭い。 ・ なぜ家。 ・ たまに外出しないと気がめいる。
行動 23 外 （自然の中） で遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭い武蔵野市では自然が少ないです。井の頭公園はすでに混み合っていて、新しいスペースは確保しにくいです。駐車場や自動車用道路の転用は可能かもしれませんが。 ・ 外で遊ぶことを促すために心地よい公園や自然を維持するべきだと思う。 ・ 本テーマの対策として適切かは不明であるが、自然と繋がり気候を知るきっかけとなるため。 ・ 武蔵野市には大規模公園が近くにあるので、そんなに難しくない。 ・ 魅力的な遊び場作りが課題だと思う。 ・ 余暇の過ごし方まで決められることに、抵抗を感じる人は少なくないと思われる。 ・ 外出する場所や距離によっては、時間やコストが課題になるが、特に難しい理由が見当たらない。 ・ 個人の自由だと思います。ただ自ずとそうなるよう、自然の中で遊べる場所を充実させられたらいいと思います。 ・ 個人の趣味の問題だから。 ・ 外で遊ぶか、内で遊ぶかは、環境によって個人の選択に任せるべきだと思う。 ・ 外出する場所や距離によっては、時間やコストが課題になるが、特に難しい理由が見当たらない。 ・ 外で遊ぶことを促すために心地よい公園や自然を維持するべきだと思う。 ・ 自然はとてもいいという反面、厳しいこともある。また、気楽にそういったところに出向けない人もいる。
行動 24 どの近 施場 で設（公 遊設共 ぶな	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの世代にも魅力的と思われる公共施設を作る必要があるから。 ・ 住宅街の近所の面白さを開発規制などの改正により面白くする必要があるでしょう。 ・ 個人の趣味の問題だから。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 余暇の過ごし方まで決められることに、抵抗を感じる人は少なくないと思われる。 ・ 個人の自由だと思います。 ・ 行動を規制すべきではない。 ・ 各地で遊ぶことは悪いことではないし、本テーマの対策として適切かは不明であるため。 ・ インターネットで予約がいるのは面倒。 ・ 割りと、自分の住んでいるところを知らないということもあるので、近いところから知っていくのもエコを考えてもいいと思う。 ・ 遠くへ行けばよい。 ・ 難しくない。
行動 25 CO ₂ 削減に配慮した遊び方、旅行を選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ どう行動すればよいか分からないから。 ・ どれが該当するか分からない。 ・ 遊び方がわからない。 ・ イメージが湧かないため難しい。 ・ 個人の選択で解決できる課題ではありません。 ・ 個人の自由だと思います。 ・ 有効な具体的企画モデルの創出と提案をコンペして消費者が選ぶ必要あり。 ・ 旅行の目的は、非日常の体感で、CO₂削減と逆行するため。 ・ どこまで配慮するか、が個人の判断だから。 ・ 徹底的に配慮したものとまではいかず、気軽に取り入れられそうな方法を提供していけばハードルが低いように思われるため。 ・ その時々によって一番楽しい方法を選びがち。 ・ CO₂削減に配慮した遊び方や旅行の、サービス提供やその情報が不足しており、その様なサービスを選択しづらい。 ・ 情報が不足している。 ・ CO₂削減量を可視化するのが難しいのではないか。 ・ 飛行機利用などを考えると CO₂排出は避けられなさそう。 ・ 姉妹都市とのレジャー企画がゼロカーボンで行われるモデルケースを作る。 ・ 自分の希望と場所がそうであればいいと思う。
行動 26 テレワーク・リモート授業を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市外に該当する場合が多く、市外の地域も巻き込む必要があるから。 ・ 通勤時間が無駄。 ・ デジタルデバインド（特に高齢者に多い）対策が必要。 ・ 全てがテレワーク、リモート授業でいいわけではないから。 ・ テレワークは経験したことが無いが、リモート授業はやっていると思病む。学校は対面に意義があると思う。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークができない職種もあるし、リモート授業が推奨されるべきとも思わないので。 ・学生生活は直接の交流によって育まれるため、リモート授業については推奨とは言い難い。 ・対人関係の構築も教育の一部だと思うので、低学年については、授業は対面で行った方が良いのではないかと。一方でリモートワークについては、エッセンシャルワーク以外はほぼ普及したのではないのでしょうか。 ・教育の場ではリモートに限界がある、できればオフラインで 仕事はリモートしやすい環境整備は必要。 ・企業でのテレワークには賛成。中学生以下のリモート授業には次の理由により反対する。友達との交流がなくなる、分からないところがあっても質問できない、実技はどうするのか、授業終了後の清掃や片づけが大事。 ・人との交流をしっかりとすべきであるため。 ・家庭環境や通信設備・機器の問題から積極的でない家庭も多いから。教育においては、対面とリモートを組み合わせて行うこと、サポートの必要な家庭への公的援助が必要。 ・積極的に進めるべきでない。 ・実際に会うことも大切だと思うので、選択できるようになったら良いと思う。 ・コロナでだいぶ進んだことではありますが、コロナ対策以外でのいい部分が少ない気がする。リモートできる人ばかりではないので。できる人がやればいい。 ・自身がそうしようと思っても企業や学校などの考えによるので、選択肢は自ずと限られる。 ・対面は重要。 ・対面が必要なコミュニケーションもあるため。 ・それが及ぼすマイナスの影響を軽減する仕組みがないと、普及は難しい。
<p>行動 27</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">シェアオフィスを活用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これは一体どうやって気候変動対策になるのでしょうか。 ・使用料金と容易に使用できる環境を構築できるか。 ・よく利用します。 利用料の会社負担を義務化すると思います。 ・そういう環境にある人ばかりではないから。 ・ケースバイケースであろうから。 ・事務職のことばかり考えているからこんな設問になる、現場で汗を流している人の事を考えて下さい。 ・武蔵野市にシェアオフィスが少ない。 ・機密情報の取扱いに配慮する必要がある。 ・実際に経験したことがない。

③ 第4回会議テーマ「住まいのエネルギー」

各行動の取組が難しいと考える理由は、表 3-7 に示すとおりである。

表 3-7 行動ごとの取組が難しい理由（第4回会議テーマ）

	理由（自由回答）
行動 28 電力を再エネ電気に切り替える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 料金が高くなる場合が多いから。 ・ 市レベルで選択できることではないでしょう。 ・ 再エネの利用が簡便でないため。 ・ まず、再エネ電気の割合を増やすことが先では。 ・ 段階的な取組が求められ、すぐにすべてとはいかないだろうから。 ・ 初期投資が大変。 ・ 省エネ器具に取り換える費用が掛かる。 ・ 現状では選択肢に限られる。情報面/経済面の支援がないと難しい。 ・ コストがかかる。 ・ 料金の高騰で逆風が吹いている。多くの人に広まるには市としての補助が必要。 ・ 再エネの会社に変えると割引がもらえるキャンペーンを実施すると思う。価格的な部分で、切り替えが難航するケースもある。 ・ 現状ではコストと安定供給に課題があると考えため。 ・ 現状では再エネ電気かどうかを正確に判断することは、一般には難しい。一部の売電業者は、安定供給に不安があるだけでなく、再エネ電力の割合が極めて低いという問題がある。 ・ 再エネ電力を提供している業者の情報が不足している。 ・ どの電力会社が良いかの情報が不足していることと、再エネ電力会社のコスト競争力が不足しているため。 ・ コストがどの程度になるのか、情報が不足している。 ・ 再エネの発電供給量が非常に低い現状では、難しい気がする。太陽光等で自家発電した分を自家消費するのは良いと思う。 ・ 再エネプランをだしている企業もそこまで多くなく、かつ現行のルールでは“実質”再エネの電気の使用に留まるため、否定はしないが、自家発電自家消費を推奨したほうが真の再エネ使用になると考えるため。 ・ すべての電力を再エネで賄うことは現段階の電力状況では不可能。 ・ 制度が整っていないから。 ・ 再エネといっても LNG を利用しているケースが多く、大幅な CO₂ 削減には結びついていない。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・送電線を所有している電力会社が再エネを優先させた輸送電力量の配分に非協力的だから。また、コストパフォーマンスの良い蓄電設備が普及していないから。 ・勉強会を定期で開いてなぜ再エネに変える必要があるのか、どのような会社があるのかなどを説明すると思う。 ・個々の事情があるから。 ・市としては、既に武蔵野クリーンセンターにおける廃熱エネルギーを周辺公共施設へ供給、公共施設への太陽光発電システムを行っている。今後も、廃熱エネルギーの供給増、東京都の太陽光発電等補助金及び市からの助成金を活用し積極的に推進は図るべき。 ・電気代の面で難しいと思いますが、優先度の高い事項だと思います。 ・マンションなどだと選択肢が限られる。
<p>行動 29</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">太陽光パネルを設置する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コストがかかるから。 ・金銭的な負担が大きい。 ・設置コストが高いこと。 ・設置コストが高い。 ・長い目で見れば損をしないというが、初期投資がまだ大きすぎる。 ・既存家屋の場合は設置できるか否かの判断も必要で、さらに設置となると多額の出費が必要となり、技術的/経済的支援がないと難しい。 ・初期コストがかかるので、補助金等で賄えれば良いと思う。 ・コストが個人負担のネックになると考えるため。 ・コストがかかることと、日当たりによるから。 ・購入費用が掛かる。 ・費用の問題。 ・高価。 ・価格の問題。 ・設備投資の面で難しいとは思いますが優先事項だと思います。 ・初期投資が大変。支援があればよい。 ・初期コストがかかるので、補助金等で賄えれば良いと思う。 ・提供業者による商品性の改善と、導入コストの補助が必要だと思います。 ・FIT制度がなくなって、経済的メリットがなくなったから。公的補助を期待する。 ・市としての補助が必要。 ・金額、助成が必要。 ・値段、環境、行政の補助。市としては、将来レアメタル、特にレアアースの研究を太陽光パネル、蓄電池の縮小化を図り、住みより生活改善の一環としたらどうか。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合住宅の場合。 ・ マンションはどうするのか疑問だから。 ・ マンションの場合、後付け設置が難しい。 ・ マンションでの設置に対応した太陽光パネルが欲しい。 ・ マンションなどだと選択肢が限られる。 ・ 価格、工事など、既存建築物にどのように普及させるか。 ・ 一戸建ては難しくないが（特に新築）、集合住宅や既存の雑居ビルの場合、安全性や費用負担、利益配分の問題の解決が困難。 ・ どこに設置を依頼すればよいかわからない。 ・ 住宅への後付けで屋根からの雨漏れなど問題ないか心配。 ・ これだけ密集した住宅地で太陽光パネルを設置したら別の問題が起こりそうな気もするので。鳥への影響、屋根の耐震性、地震被害、光の反射など。 ・ 既存家屋の場合は設置できるか否かの判断も必要で、さらに設置となると多額の出費が必要となり、技術的/経済的支援がないと難しい。 ・ ソーラーパネルに対しての情報が錯綜している。 ・ 知りうる範囲では、あまり期待できないから。 ・ 家の立地条件により発電量が違う、廃棄の条件が整っていない。
行動 30 節電する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業行政にも協力してもらう必要があるから。 ・ 事業者への規制を求める。 ・ 商業施設の照明を夜間は消すルールを作るといいと思う。 ・ 程度によると思うが厳しすぎるのは非現実的であると思う。 ・ 程度の差はあれ、節電は可能なはず。 ・ 意図的な節電よりも効率向上が持続可能性が高いと思われます。 ・ どこまでやるかは、個人次第だから。 ・ 個々の事情があるから。 ・ 省エネ型家電は高価である。
行動 31 節水する	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな行動をすれば良いか分からないから。 ・ 多くの市民に「水の学校」の啓発効果を訴求しなければならない。 ・ 判断が個人に委ねられるから。 ・ 個々の事情があるから。 ・ 水道はひねるとジャーではないことを意識すれば良い。
行動 32 省エネ家電に 買い替える	<ul style="list-style-type: none"> ・ コストがかかる。 ・ 初期コストが高くて、販売店の騙し売りが強いので市からの規制や支援が必要でしょう。 ・ 費用対効果の問題で、総じて省エネ家電は高価であるから。 ・ 高いから。 ・ 省エネ家電→操作難しそう→若い家族しか使わない。

	理由（自由回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的余裕がある人ばかりでないから。 ・ 省エネ家電は高いし大型のものが多い、わざわざ買い替えれば資源の無駄遣いになりかねない。 ・ 単身者向けの省エネ家電、小さい冷蔵庫などに選択肢が少ない。 ・ 所得格差があるので、簡単にいかない。 ・ 無理して買い換える必要はないが、耐用年数を過ぎたものは、買い替えを検討すべき。 ・ 買い換えのときが来たら。使えるものを捨てなくて良いと思う。 ・ 支出を伴う話なので、推進するなら何か分かりやすいメリットがないと難しい。 ・ 家電製品が高額になっていることと、壊れるまでは買い替えは通常行わないため。 ・ 買い替え時の選択として、特に問題なし。
<p>行動 33</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">電力を可視化する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コストがかかるから。 ・ 可視化の方法によっては、技術的/経済的支援が必要である。 ・ これを取り組んでもインパクトが低いでしょう。 ・ 可視化して何をすることが明確ではないのでは。 ・ 電力使用量データの収集が困難 無線などで情報を収集できるが、データ転送装置の設置場所によってはデータを転送できない場合がある。 電力使用量データの信ぴょう性を示すのが困難では。 ・ 可視化する方法がわからないので。 ・ 仕組みがわからない人も多いと思うから。 ・ やり方よくわからない。 ・ 正しく可視化する仕組みがある前提。 ・ 可視化ツールの整備が十分ではない。 ・ 電力の使用状況は現状でも把握できるが、即時性がない。また、使用に対応した供給サイドの再生エネルギー構成については、把握する手段がない。 ・ 市内をさらに細かいエリアに分けて成果を競わせたら良いと思う。 ・ その時々電力消費量の可視化と思うが、技術的には極めて容易で安価にできるが、設置してもそれほど活用されない。 ・ 行政や電力会社が進めるような制度でないと、市民の自発性に頼るだけでは進まない。 ・ 機器の設置が必要。 ・ 可視化の方がまだまだ難しいと思う。

	理由（自由回答）
<p>行動 34</p> <p>窓や壁などの家の断熱リフォームを行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コストがかかる。 ・ 高価。 ・ リフォームコストがかかる。 ・ それぞれの家庭の財政的な余力によるため。 ・ コストがかかる。長期的に見てコストダウンするという理解が必要。 ・ お金がかかるため市としての補助が必要。 ・ お金がかかる。 ・ 費用対効果の問題があります。 ・ 金額。助成が必要。 ・ 購入費用が掛かる。 ・ 所得格差がある。 ・ 支出を伴う話なので何かメリットがないと難しい。 ・ 経済的余裕がある人ばかりでないから。 ・ リフォームにかかる費用が高額だから、経済的メリットはほとんどない、または実感できないから。 ・ 工法別の効果の判定については技術的支援が不可欠であり、実施に際しては経済的支援が必要となる。 ・ 環境、行政の補助が必要。 ・ 断熱を後付けするのは大変な手間と費用が掛かる、新築の際に努力目標を設定すれば良い。 ・ 賃貸者にとっては工務店・大家に依存するため。 ・ 無理に家を安く建てたいハウスメーカーを行政から規制する必要があるが、効果が極めて高いと思われます。 ・ 制度的なインセンティブの整備が必要と考えるため。 ・ 各家庭事情が違う。 ・ 既存住宅への対応。 ・ 断熱リフォームをどこに依頼すればいいのかわからない。 ・ 特に既存の一軒家では1か所をやればよいというものではないので、結局大規模なリフォームになりがちで簡単には行えない。 ・ 窓のタイプによっては、交換が難しい、断熱フィルムを貼るくらいしかできない。 ・ 費用、取り付け可能性、優良業者の選択など、困難が多い。北向きの寝室の内窓については有効で困難が少ない。 ・ 建てた家を売却するメリットがあまりにも少ない法律。

	理由（自由回答）
<p>行動 35</p> <p>環境に配慮した省エネ住宅に住む（分譲・賃貸）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市からこの住宅を建てやすくして、建てても良い地域を増やす必要があります。 ・ まずはそういった住宅を増やすことから始めなければならないため時間がかかるように思った。 ・ 「環境に配慮した省エネ住宅」の提供が少ないので、選択できない。 ・ モデルケースが少ない。 ・ 対策施策として助成制度を創設しPRが必要。 ・ みんなできれば省エネ住宅にすみたいが金銭的な理由が大きいので本当に広めるべきと市が考えているなら助成が必要。 ・ 所得格差がある。 ・ 費用対効果の問題だから。 ・ 購入費用が掛かる。 ・ 高価。 ・ 経済的余裕がある人ばかりでないから。 ・ 金額。 ・ お金がかかる。 ・ 費用が掛かる、現行でも断熱材はかなり使用されている。 ・ 環境に配慮した省エネ住宅は現状多くない。 ・ 高断熱・省エネ住宅は割高であり、低価格・低品質のディベロッパーの住宅を選んでしまう傾向が強い。 ・ 省エネ化のコストアップを上回るメリットの提示が不可欠。 ・ 制度的なインセンティブの整備が必要と考えるため。 ・ 現状、賃貸物件を探す際に基準がないため、武蔵野市独自の評価・認証制度を作る必要がある。そのような物あれば、それを基に環境に配慮した住宅を選ぶ人は多いと思うし、今まで関心がなかった人に興味を持ってもらうきっかけにもなると思う。 ・ 購入者や借主は、購入資金や賃貸料金の負担があるので一般には難しい。むしろ家主や分譲業者に省エネ住宅を建てさせる施策を講ずるべき。 ・ 住み替え時の選択において、特に問題はない。 ・ 行政と業者が積極的に取り組まない限り、賃貸人に選択の余地がない。 ・ 今から 20～30 年後の基準（断熱等性能等級 6 以上）に適合する家づくりを目指す。

	理由（自由回答）
行動 36 家を緑化する 緑のカーテンなど、	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施が比較的楽ではあるが、インパクトは低いでしょう。 ・ コストがかかるのとメンテナンスに手間暇がかかる。 ・ 害虫駆除や維持管理が難しい印象がある。 ・ 趣味の問題だから。 ・ マンションのため、植物の育成環境が十分ではない。 ・ マンションなどだと選択肢が限られる。 ・ どの程度の効果があるのかわからないから。 ・ 建ぺい率 4 割で駐車場を取った緑化の場所は少ない。

第4章 終了後アンケート

1 実施概要

(1) 目的

武蔵野市気候市民会議全5回の会議を通じて、参加者が考えたことや感じたことなどを把握し、報告書等の作成時の参考するため。

(2) アンケートの設問

主な設問項目は下記のとおり。

- ・ 会議全般（会議への参加しやすさ、プログラム、運営への満足度）について
- ・ 情報提供（ゲストティーチャーの講演・送付資料）について
- ・ グループ討議について
- ・ 会議で得られた成果（学んだことなど）について
- ・ 会議の満足度について
- ・ 会議を通じて、わたしたちが脱炭素のまちを目指す上で積極的に進めるべき気候変動対策に対する考えの変化や、新たに考えたことまたは実際に取り組み始めたことなど
- ・ 第5回会議への質問・追加意見
- ・ 武蔵野市気候市民会議全体に関する意見や感想
- ・ 懇談会への参加意向について

(3) 回答方法

インターネットまたは郵送

(4) 回答期間

令和4年12月16日（金）～令和5年1月4日（水）

(5) 回答状況

インターネットによる回答数：49

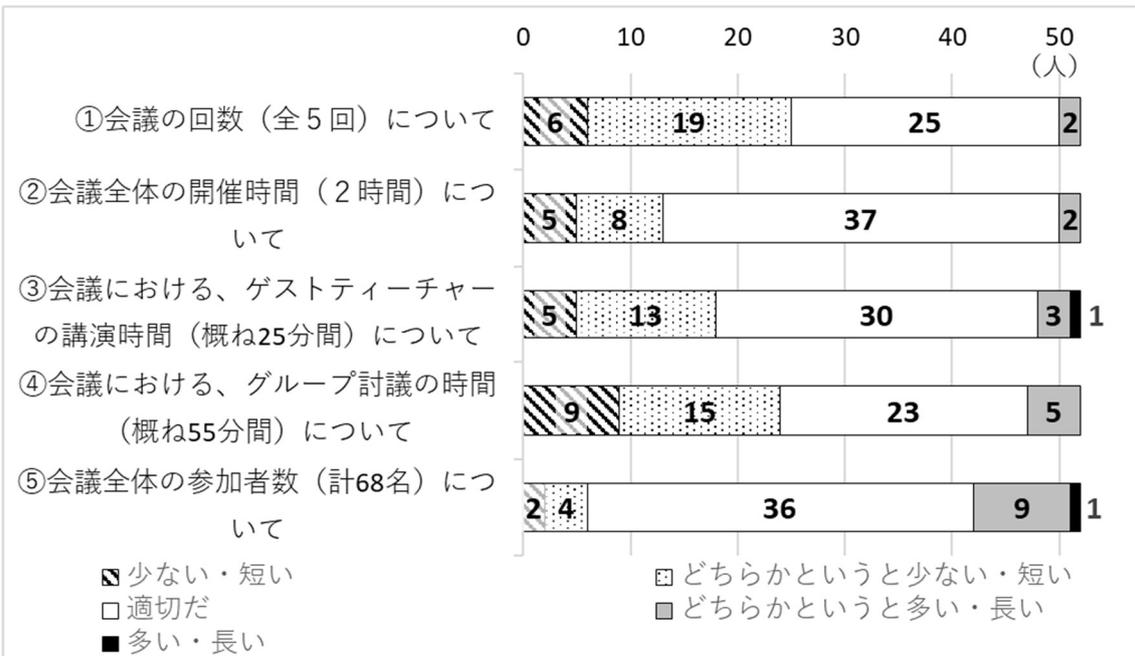
郵送による回答数：3

全体回答率：76.5%

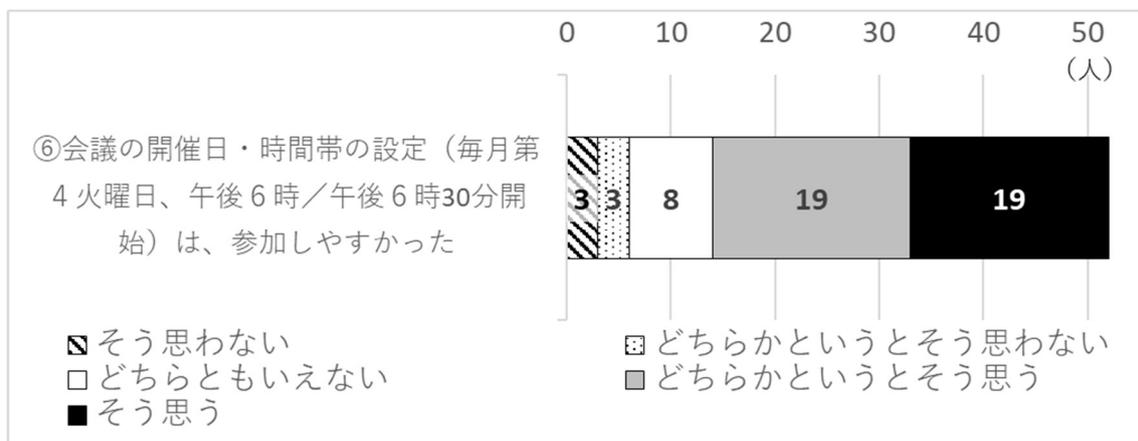
2 アンケートの結果

Q1. 会議全般（会議への参加しやすさ、プログラム、運営への満足度）について

次の項目について、あなた自身の感じ方に近いもの（5段階評価）を一つずつ選んでください。



⑥会議の開催日・時間帯の設定（毎月第4火曜日、午後6時／午後6時30分開始）は、参加しやすかった



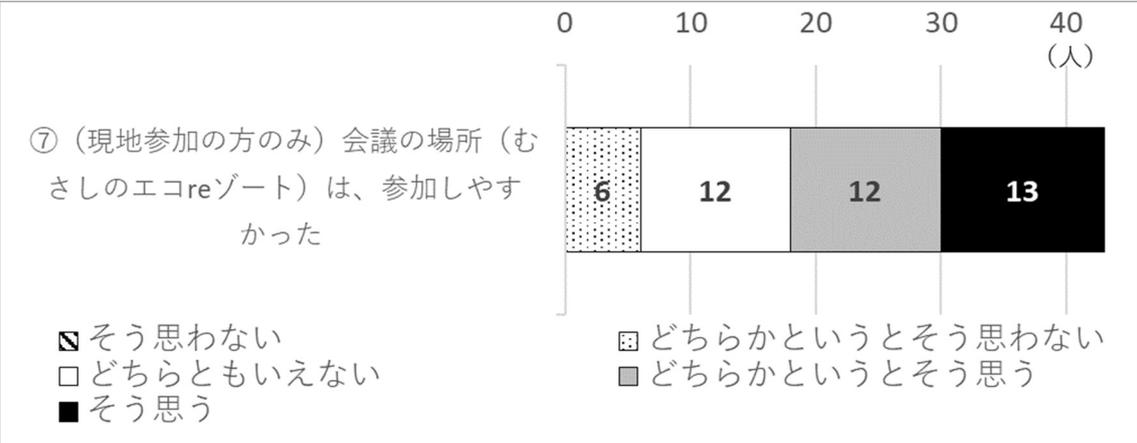
今後同じような会議等が開催される場合、どのような日程・時間帯の設定であれば参加しやすいか、お選びください（複数選択可）。

項目	回答者数
平日の昼間	4
平日の夜間	41
土日祝日の昼間	15
土日祝日の夜間	9
その他（自由記述）	1

「その他」回答内容

- ・ 不定期のボランティア活動している為、特にありません。

⑦（現地参加の方のみ）会議の場所（むさしのエコreゾート）は、参加しやすかった



- 「1、そう思わない」
- 「2、どちらかというと思わない」
- 「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください（複数選択可）。

項目	回答者数
交通の便が悪い	14
場所が分かりにくい	1
机などの設備が不十分	3
照明が暗い	2
音響が悪い	1
空調が悪い	1
その他（自由記述）	1

「その他」回答内容

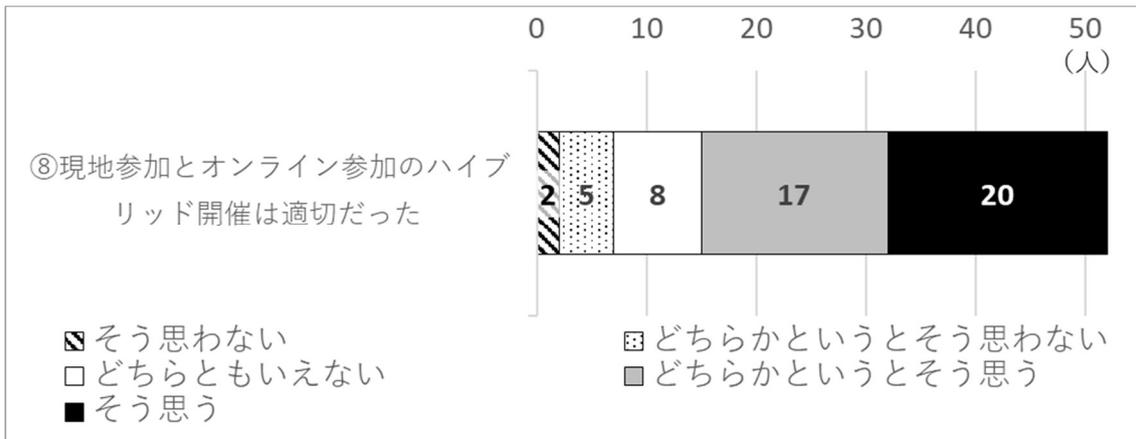
- ・ 空間が広すぎて、意見交換の雰囲気が感じられない。

- 「4、どちらかというと思う」
- 「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください（自由記述）。

- ・ 自転車で15分程度で行け、駐輪場が広いため。
- ・ 自転車でも歩いてでも参加できたので。とても便利かというということではない。
- ・ 自宅から徒歩圏内で、会場としても旧クリーセンターの再利用施設ということで良かったと思う。
- ・ 市役所近辺というのは公平な気がします。
- ・ 武蔵野市のSDGsに取り組む拠点としての意義がある。環境に対する取り組み姿勢の発信拠点であることをもっと自信と情熱を持ってやるべし。

- ・ 立地的な観点においても気候変動について考える会場としても適切であるため。
- ・ 自宅から近いため。
- ・ エコな会場で、エコな事を考えられるから。
- ・ 駅から距離があるため。環境問題を考える場としては、とてもよいと思います。
- ・ 自宅から近かったから。
- ・ 三鷹駅からのバス便も良く、会議のテーマにも合っている。
- ・ 家の近所であったから。
- ・ 市役所近くでみつけるのが容易だった。
- ・ 市役所の近くだからわかりやすかったし、行きやすかったから。
- ・ コロナ禍の中だったので、天井が高く広いのは安心感があった。
- ・ 家の近くだから。
- ・ バスの便が良く、必要なスペースも確保されている。武蔵野市の環境への取り組みを知ることのできる呼吸的な施設であることも適切と感じた。
- ・ 三鷹駅からバスがたくさん出ていて便利。
- ・ 家の近くだから。
- ・ 自転車利用のため。
- ・ 会場がよかったので。
- ・ リタイヤ組です、不定期のボランティア活動ですので予定がバッティングしない限り参加に支障はありません。

⑧現地参加とオンライン参加のハイブリッド開催は適切だった



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください
(複数選択可)。

項目	回答者数
意見交換がしづらい	9
一体感がない	10
互いの様子が見えづらい	8
その他 (自由記述)	0

「4、どちらかというと思う」

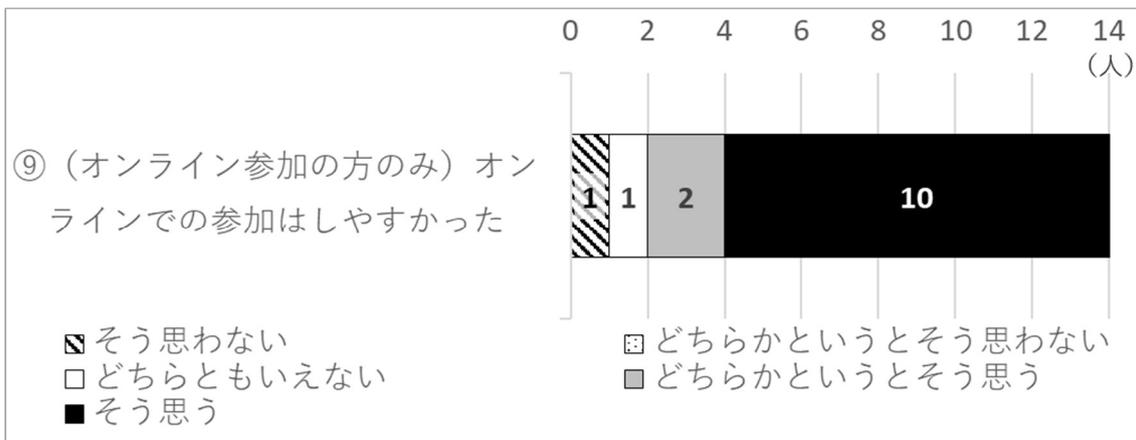
「5、思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください(自由記述)。

- ・ 大阪に出張等が入り、オンライン参加にしていることで全会出席が可能となった。コロナによって、悪いことばかりでなく、オンラインのノーマル化が進み、ますますハイブリッド開催が増えていくのではなかろうか。
- ・ 人によって参加しやすい方法を選べた方が良いから。
- ・ 時間的、地理的、身体的な制約により参加機会を排除しないから。
- ・ 最近の状況を考えれば、多くの方に出席頂く方法としてハイブリッドは今後開催方式としては当然だと思う。一方で公平な機会と成り得るかについてはまだ工夫は必要と考えます。
- ・ 時間的に会場へ行けない方たちの参加を助けたのではと思う。
- ・ 参加者が多いほど市民の思い、問題意識、取り組み熱意などを把握できる。
- ・ 現地参加できない方も参画できる機会となるので。
- ・ より多くの方が参加可能だから。
- ・ 諸事情あると思うので、参加形式が選べる方が良い。
- ・ オンラインで参加できるとのことだったので、時間的に参加が可能だった。オフラ

インのみの開催だったら、スケジュールが厳しくて参加できなかった。また、オンラインのチームを構成いただくことで、場所の物理的な制約がなく、参加人数を増やせたと思う。アンケートの回答もオンライン参加だととてもやりやすく感じた。

- ・今の時代は、どんな会合も、ハイブリッドが当たり前と思います。
- ・感染対策を取れるため、また仕事や家事のある方も参加しやすいため。回によって、オンライン参加に切り替えられるとより良いと思いました。
- ・平日に在宅勤務していれば、通常勤務後にオンラインで参加できるから。現地参加だと移動で時間がかかるし、手間がかかる。
- ・参加方法の選択肢が増えると、参加する人の層が広がると思います。
- ・色々な事情で会場に足を運べない人に対するハードルを低くした。
- ・参加者の人数は増すが、会場との人ほど効果的な議論がオンラインだと難しい。
- ・会場に参加できない人への選択肢としてオンラインはあった方がいいと思うから。
- ・参加者の都合にあわせられたと思う。
- ・現地参加がベストと思うが、それが困難な方がオンラインで参加できるようにすることは、参加者の多様性の確保にとって重要と考えます。
- ・オンラインなら参加できるという方もいるだろうから、幅広い意見を集めるためには必要だろうと思うので。
- ・全ての回を現地で参加したが、エコレポートまでは遠く何度かオンラインでの参加も検討しました。参加形式に選択肢があるのはよいと思います。
- ・参加者の間口が広がったため。
- ・回によってどちらも参加出来るなら期間が長い場合全回出席に繋がると思います
- ・高齢者以外も一定数参加が可能になったと考えるため。
- ・それぞれのやり方を尊重。
- ・自身は時間の都合上、移動の制約がなく参加できるオンライン参加のみが選択肢であったため、ハイブリッド開催として頂いた事で議論に参加できありがたかった。オンライン参加者として、ハイブリッド開催の大きなデメリットは感じなかった。一方、現地参加の議論結果や熱感はあるもので、オンラインのみでの開催よりも効果的であると感じた。
- ・コロナ時などで仕方がない。
- ・現地に来れない人もしっかり意見が言えてよかった。
- ・現地参加、オンライン参加、それぞれ良いところがあると思う、個人的には対面で交流を深める方が良いと思う。
- ・自宅参加できるのはありがたい。

⑨（オンライン参加の方のみ）オンラインでの参加はしやすかった



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください（複数選択可）。

項目	回答者数
通信環境が悪い	0
アクセスがしづらい	0
Zoom などアプリが使いにくい	0
セキュリティに不安がある	0
その他（自由記述）	1

「その他」回答内容

- ・ 私が参加したチームのファシリテーターはプレストの運営が不慣れで、ツールの使い方もぎこちなかった。最終回に別のチームに入ったが、こちらのファシリテーターは上手に会議を回していて、意見もたくさん出た。もしかしたら、回数を重ねてうまくなったのかもしれないので、単純に比較できないが、ファシリテーターは入れ替え制であってもよかったのではないかと思う。また、外部委託業者の方は武蔵野市のことをよくご存じなかった。事前に武蔵野市のことをよく学習して参加していただくとよかったと思う。また、オンラインチームは市のご担当との接点が薄かったと思う。可能なら、市のご担当にファシリテーションをしていただくとか、オンラインチームに飛び入り参加していただくとかがあれば、行政の方々と交流ができてなおよかったと思う。

「4、どちらかというと思う」

「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください（自由記述）。

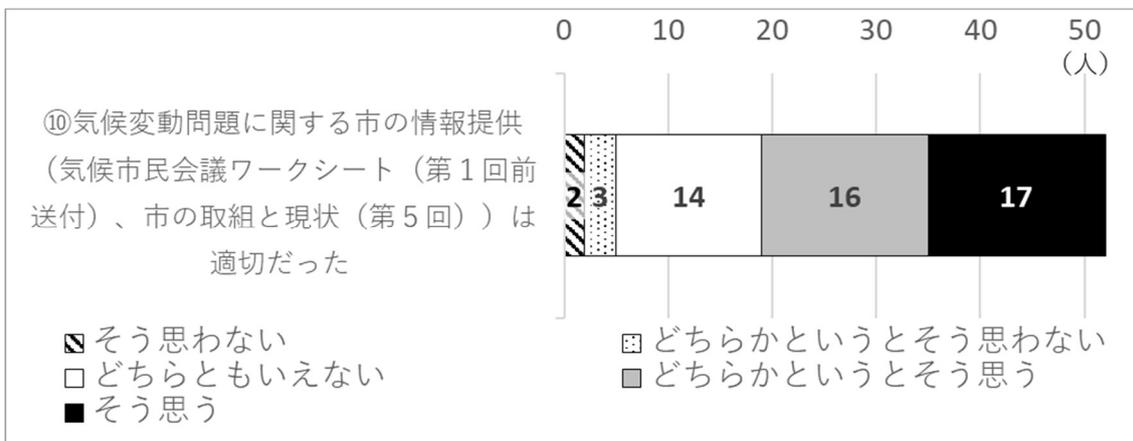
- ・ 意見を付箋に記入するためのマニュアル、事前にオンライン参加者からの意見収集方法については、周知していく方がより充実した意見収集ができるのではなからう

か。

- ・ 事前に URL や資料を送っていただきスムーズに参加できたから。
- ・ 開催時間ギリギリまで在宅勤務ができるから。
- ・ 平日は仕事をしているので、場所の移動がない分参加しやすかった。
- ・ 会場まで行かなくてもよかった。
- ・ 移動時間無く、仕事と両立しやすい。
- ・ 運営面含めスムーズにオンラインで進行・議論する事ができたと感じたため。

Q 2. 情報提供（ゲストティーチャーの講演・送付資料）について

⑩気候変動問題に関する市の情報提供（気候市民会議ワークシート（第1回前送付）、市の取組と現状（第5回））は適切だった



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください（複数選択可）。

項目	回答者数
もう少し多くの情報を得たかった	12
得たい情報ではなかった	4
提供のタイミングが適切でない	5
その他（自由記述）	6

「その他」回答内容

- ・ 印刷したが無駄になった紙やインク量が気になる。
- ・ 参加者の理解が深まる説明をすると良い
- ・ 会議の位置付けが今一つはっきりしなかった。
- ・ 「市の取組と現状（第5回）」はホームページにPDFでアップされておらず動画の中にもうもれている。参加者以外に隠す必要・理由が分からない。
- ・ 情報の正確さが欠けていた。

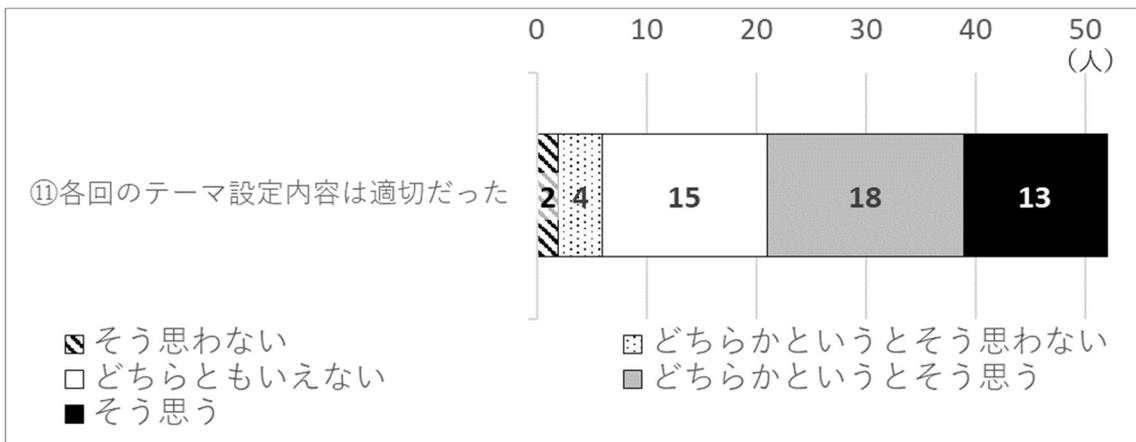
「4、どちらかというと思う」

「5、思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください（自由記述）。

- ・ 十分な資料を提供して頂いたゲストティーチャーもいましたが、そうでない方もいて予め事前勉強が出来ない場合もありました。その後の対応も不十分と思える方もいました。
- ・ 参加者やこの会議を知った方たちへ市の取り組みが伝わったのではと思う。

- ・ 事前学習に抛り、理解を深めて参加できる。
- ・ 新たな視点が得られたから。
- ・ 特に、違和感を感じなかった。
- ・ 基本情報をつかめることができ、参加者の基本となる知識レベルを合わせるができるため。
- ・ 考えをまとめるヒントになった。
- ・ わかりやすかったから。
- ・ 事前に資料を送っていただけたので、内容を把握しておけたから。
- ・ 大変有意義であった。
- ・ わかりやすかったかといえば必ずしもそうではないが、情報を提供していただけるのはありがたいので。
- ・ 温暖化対策実行計画で重要なポイントであるので、もっと強調して参加者に理解を促してもよかったですと思います。全5回の内容もこれに沿った内容で設定されたようにも思いますが、その筋道を分かりやすくすれば、議論の内容も効率的な課題解決に向かうのではと思いました。
- ・ 武蔵野市にフォーカスした情報は討議に必須でした。内容が易しすぎると感じた
- ・ 内容がほとんど資料にあったため。
- ・ 基本的に気候変動対策に準じた資料であったと思う。一方で国の対策に準じているため、グローバルレベルで考えるとかなり意識が低いと感じる。
- ・ 協議の際の前提となる大切な情報だと感じたため。
- ・ 事前に情報があることで会議の準備ができたから。
- ・ 武蔵野市の実態がわかってよかった。
- ・ 概要が良く分かった。

①各回のテーマ設定内容は適切だった



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください
(複数選択可)。

項目	回答者数
もう少し多くの情報を得たかった	7
得たい情報ではなかった	8
その他 (自由記述)	9

「その他」回答内容

- ・ 第3回の移動手段の脱炭素については、街づくりの視点で武蔵野市の計画をもっと討議できればよかったと思う。
- ・ 時々、求められる答えに向かって誘導されているような気持ちになることがあったから。
- ・ テーマ自身は適切と考えるが、これらのテーマがなぜ重要かという位置づけを第1回に示して欲しかった。第5回の市の取り組みとの関連が分からないままテーマについてのグループ討論やアンケートに答えるのは、参加者に「知的苦痛」を与えるものであったのではないか。「武蔵野市地球温暖化対策実行計画 2021(区域施策編)2022 改定版・武蔵野市気候変動適応計画 2021」のP19の「家庭における効率的なエネルギー活用」の全体像と①の気候市民会議に期待していること、②～⑥に取り組んでいることとの関係、市民会議の成果の出口、行動1-36のおおよそのカーボンフットプリントが第1回で示されていたら、第2回-第4回のテーマ設定がもっと「活かした」ように思われる。
- ・ 他の自治体の取り組みなど参考になる制度の紹介が多ければ討議に反映できたのでは。
- ・ 適切な会議内容とあまり貢献度の少ない会議があったと感じる。
- ・ テーマ設定が最終的なアウトプットにどう繋がるのか、気候変動対策につながるテ

一マなのかどうかははっきりわからなかった。

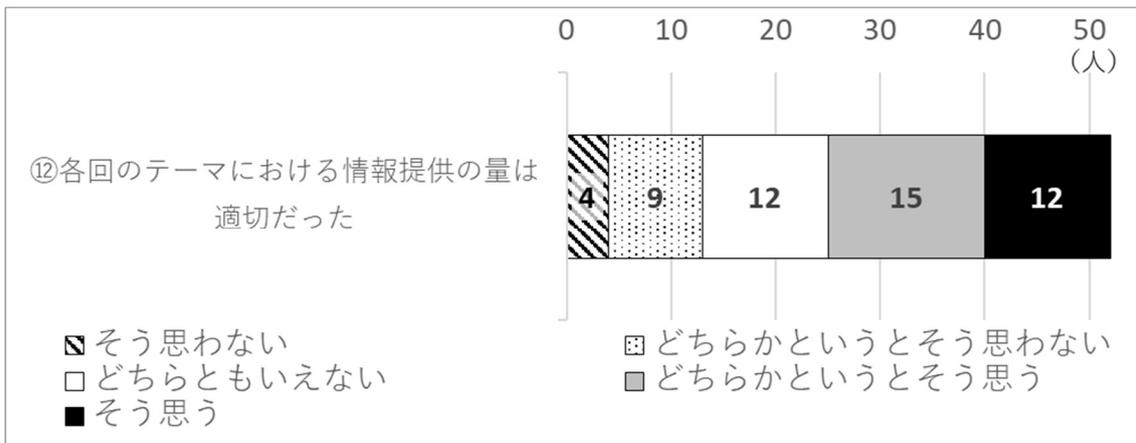
- ・ BEVに移行する事を断言しているゲストティーチャーがいたが、全く馬鹿げた話、「これからの技術開発に期待」などと言った事は1970年代から今までに、原発の件でさんざん聞いた話、ごく最近日産リーフが最上級仕様で100万円値上げの発表があった、テスラモーターも同様、原因はリチウムの高騰、重たい自動車を高価なレアメタルの塊で動かして何がSDGsとは笑わせる。
- ・ テーマ設定が一方的で、市民会議としては不適切ではないかと思われた。

「4、どちらかというと思う」

「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください(自由記述)。

- ・ 具体的な数値を示して下さったゲストティーチャーの方は大変参考になりました。やはり説得力のある事実認定は必要だと思います。
- ・ 気候温暖化は武蔵野市だけでなく、人々の緊急課題だから。
- ・ 生活の中で思い当たるテーマすべてが取り上げられていたように思うため。
- ・ ある程度限定した内容が設定されており、考えがまとめやすかった。
- ・ 一つのテーマだけでなく様々な観点で考えることができた。
- ・ 「食」について、地産地消により過ぎたと感じました。実際に研究を見れば、排出量の要因は輸送ではなく材料です(牛肉対大豆など)。これはあまり触れられませんでした。
- ・ 興味深かった。
- ・ これまで環境問題を自分の生活に関わる部分でばかり考えていたが、より幅広い視点を持つことができた。
- ・ 既知の情報、未知の情報ともにあり、専門家が、どのように考えているのかがわかったから。
- ・ テーマがあることによって話し合う内容が絞れた。
- ・ 生活全般をカバーしていた。
- ・ 話し合いしやすくなったから。
- ・ 自分にとってためになったと思うから。
- ・ 多岐に渡っていたので、様々な角度から検討することができたから。ただ、漠然としていて答えにくいところも少々あった。
- ・ 幅広い分野がカバーされていたため。
- ・ バランスの良いテーマ設定であったが、それを学んだどう活かす、と言う部分が不透明だったため、「そう思う」とならない理由。
- ・ 体系だったテーマ設定だと感じたため。
- ・ 毎回違う視点から考察していたのが良かった。
- ・ 知らない事ばかりだった。
- ・ 一通り体系的に学べたと思った。

⑫各回のテーマにおける情報提供の量は適切だった



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください（複数選択可）。

項目	回答者数
多い	3
少ない	16
その他（自由記述）	6

「その他」回答内容

- ・ 繰り返しになりますがゲストティーチャーの方によるということでしょうか。
- ・ 回によって異なる。
- ・ 量的に少ないだけでなく、必要な他の情報、特に武蔵野市の取り組みや武蔵野市で既に行われている NGO や民間の取り組みの情報がなかったことが残念。「余計な情報を与えず、白紙の頭で意見を出して欲しい」という意図があったのかも知れないが、十分な情報と熟議あるいは熟慮を経た後のアンケートや投票と比べて得られる成果という点で心配である。
- ・ 日本の一般的な情報でなく、武蔵野市の抱える問題に特化した情報、現状把握が必要だったと感じた。
- ・ 前に書いたBEVの回、あの先生、BEVの値上げ、なんて言ってるか。
- ・ テーマにふさわしい情報提供ではなかった。議論の前提としては、全く不足そのものである。

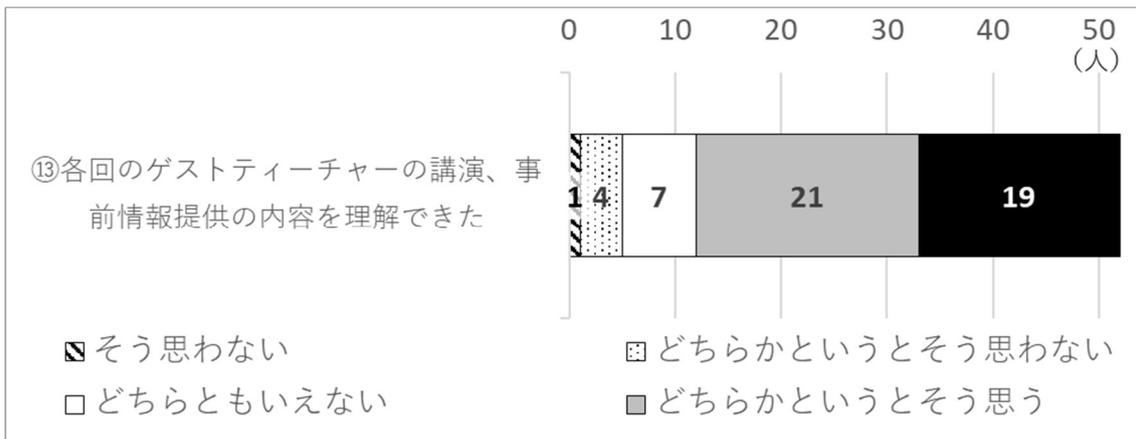
「4、どちらかというと思う」

「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください（自由記述）。

- ・ 会議の時間に見合う情報量だと思ったから。
- ・ 多過ぎなかったのです。

- ・ 特に、違和感はなかった。
- ・ 多すぎず少なすぎず。興味のある情報があったから。
- ・ 各回の意見交換の時間を考えると適量だと思う。
- ・ その場でも理解できる内容だったから。
- ・ 大きなテーマに対して、ゲストティーチャーの方が工夫して短くわかりやすくまとめて話してくださっていたから。
- ・ 事前送付のあり、当日プリントもあったから。
- ・ 年齢や性別など多くの人 coming いる会議では適切であったと思う。
- ・ 会議時間も何とか捻出している状況で、会議準備のための時間はなおさら捻出しにくかったから。

⑬各回のゲストティーチャーの講演、事前情報提供の内容を理解できた



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください（自由記述）。

- ・ 講演時間が短い為か、趣旨が十分に理解できなかった部分があった。
- ・ ゲストティーチャーによって事前資料の質、量が異なるから。
- ・ 事前情報もまとまった資料を展開してもらえると理解が深まる。
- ・ 資料をよく理解するために、個人的に情報収集が必要だった。難しいテーマだったので、学習を並行して進めたが、内容を理解できたかという点、どうだろう、と感じている。
- ・ ゲストティーチャーによって、話し（音声、音量等）が聴き辛かったり、量が多かった。
- ・ 少し専門的な話でむずかしかったから。
- ・ ゲストティーチャーにもよると感じた。特に、交通、暮らし、働き方の会議では偏った情報しかなく残念であった。交通の話しか市民が考えられないプレゼンテーションであったため。
- ・ もう少し丁寧に説明があっても良かったと思った。
- ・ 先の事はあまり確定的に言う学者は信用できない。どんな技術も良い面、悪い面がある、原発の話の思い出せばよい。目的は持続可能社会、BEVにしても太陽光発電にしても、一斉に動いている、大量にやればいずれ負の側面が出るのは歴史が証明している。
- ・ 時間が足りず、当たり障りのない内容で終わっているように感じた。
- ・ 内容が表面的で、問題点に論及されていない嫌いがあった。そもそも、テーマ設定に市民の意見が全く反映されておらず、手続き過程が間違っていると思う。

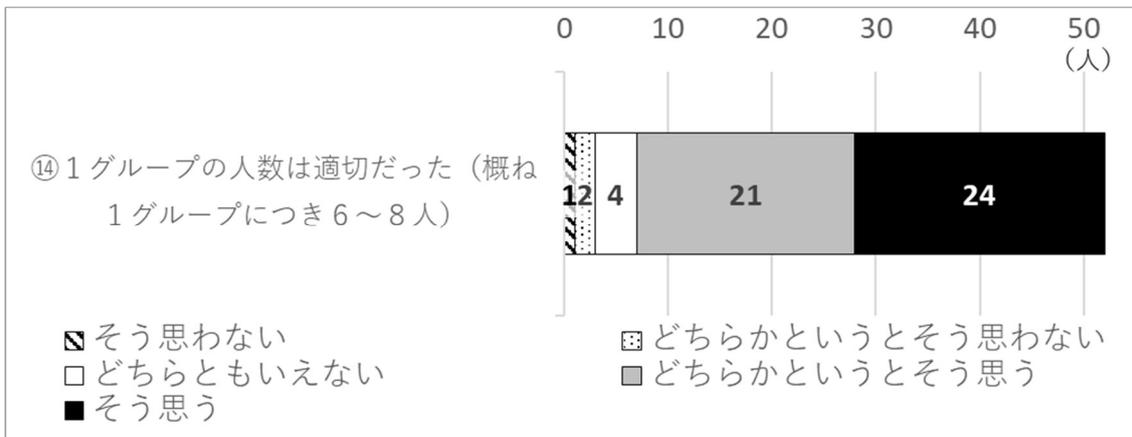
「4、どちらかというと思う」

「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください(自由記述)。

- ・ 毎回、簡にして明の講演だったから。
- ・ わかりやすく説明いただけただから。
- ・ 思い込みの強いゲストティーチャーの方はおいでになる気がしました。また選択的な情報で必ずしも公正と思えないものもありました。
- ・ 分かりやすい説明でとても参考になった。
- ・ 事前に頂いたゲストティーチャーの情報提供でほぼ先生方の考えなどがわかったからです。
- ・ ジャンル毎に経験豊かな先生方と推察しました。
- ・ 資料がわかりやすく、ゲストティーチャーの進め方もよかった。一方で、もう少し掘り下げた、詳しい内容も聞きたかった。
- ・ 比較的わかりやすい内容だったため。
- ・ 読めば、わかる内容だった。
- ・ 既知の情報を補完する感じのものが多かったため。
- ・ テーマ/内容によっては事前の予習が必要。
- ・ 限られた時間で話せるよう資料がよく工夫されていたと思うから。
- ・ おおよそ理解している内容に、いくらかの新しい情報が追加されたものだったから。
- ・ 事前提供の内容により次の会議の概要を予想できたから。
- ・ 理解はできましたが、この内容が本当に問題解決に有用かどうか疑問に残る部分もあります。
- ・ 平易なテーマ選定と、言葉で分かりやすかった。
- ・ 環境問題に興味のある方なら既に知っている内容が多かった。環境問題の勉強が目的ではないので自治体で何をどう取り組むと成果が上がり目標が達成できるかの話があると良かった。
- ・ やはり詳しいけどもっとはっきり言ってほしかった。
- ・ 身近なテーマであるという点で理解はしやすかった。
- ・ 知らない事ばかりで、勉強になりました。

Q 3. グループ討議について

⑭ 1 グループの人数は適切だった（概ね 1 グループにつき 6～8 人）



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください。

項目	回答者数
多い	6
少ない	1
その他（自由記述）	0

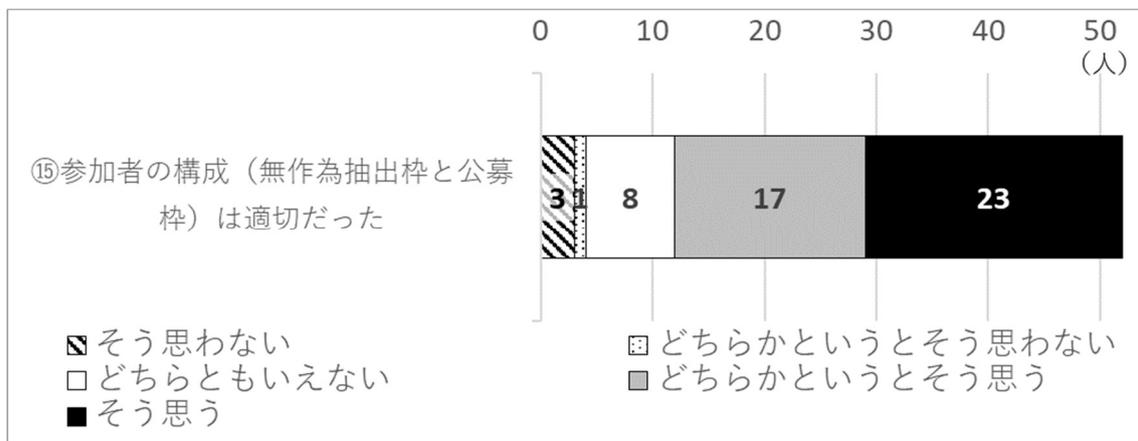
「4、どちらかというと思う」

「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください（自由記述）。

- ・ これ以上だと議事進行は難しいと思ったから。
- ・ 人数が多い印象でしたが、ファシリテーターもいらして話しやすかったです。
- ・ メンバーを全て憶えられる人数だった。
- ・ あまり多すぎてもまとまりにくいし、話しづらいと思うので適当な人数だったのではないかと感じました。
- ・ グループ内討議では多すぎると混乱する。
- ・ 短時間でコミュニティ形成ができる人数だと思う。
- ・ 全員が参画できる人数規模なので。
- ・ 話し合いしやすかったため。
- ・ 各人の意見が聞きやすい。
- ・ 年齢と性別のバランスがとても良くとれていた。
- ・ 6人が最大と思います。
- ・ 時間の関係で、6名以上ではなかなか発言機会が持てない参加者も出てくると思う。
- ・ 話し合いやすい人数だったから。

- ・ 時間内にみんなの意見が聞け、互いに討議できた。
- ・ お互いの顔が見え、皆が発言できた。
- ・ 意見交換実際にしやすかった。
- ・ 全員が発言できたから。
- ・ あれ以上多いと、他の人の意見が聞き取れない。
- ・ あまりにも限られた時間内に辛うじてコミュニケーションが可能な上限人数だったと感じる。
- ・ 人数が多すぎても少なすぎても発言しにくくなるから、ちょうどいい人数だった。
- ・ 全員が意見できる規模感でよかったと思います。
- ・ 話しやすい人数。
- ・ 設定時間を踏まえた際に、多様な視点を議論に取り入れるのに適切な人数であると感じたため。
- ・ 休みの人もいたので、良かったと思う。
- ・ 限られた時間で話し合うには適切な人数だったと思います。
- ・ 発言がしやすい。
- ・ 年代、性別などが討議にちょうど良いと感じた。
- ・ 意見交換を適切にすすめるためには、この程度の人に限界だと思う。

⑮参加者の構成（無作為抽出枠と公募枠）は適切だった



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください（複数選択可）。

項目	回答者数
知識や意識の違いを感じた	5
話したい話題が異なった	4
その他（自由記述）	7

「その他」回答内容

- ・ 混在の意識はなかった。
- ・ 特に何も感じなかった。
- ・ 「くじ引きで社会の縮図をつくり、直接民主主義の社会実験を行いつつ結果も得たい」というのであれば無作為抽出のみであるべきだが、時間と費用がかさむと思われる。公募枠の参加者の環境に関する関心や知識の活用によって討議の活性化を狙うことも否定されるべきではないが、「声の大きい参加者」の存在をどう考えるかについて、今後検討すべき課題だと思う。
- ・ 高齢者が多く、且つ高齢者の一部は自己主張が強かったり、質問回数等のルールを守らない方が見受けられた。
- ・ 誰が無作為で、誰が公募かわからない。
- ・ 参加枠によるモチベーションの高さの違いを感じるほどではなかったから。
- ・ 抽出枠・公募枠のいずれかは、知らされていないため、判断困難である。設問自体が問題外ではないか。

「4、どちらかというと思う」

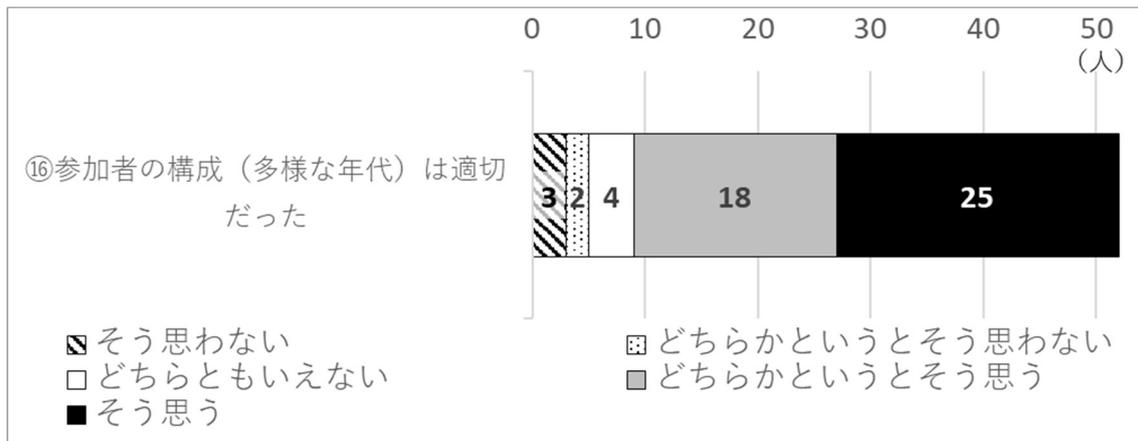
「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください（複数選択可）。

項目	回答者数
意識の違いに感化された	20
多様な情報を得ることができた	29
その他（自由記述）	3

「その他」回答内容

- ・ 必ずしも関心のある方ばかりではないのが実情ですから、会議をコントロールするのが難しくて当たり前かなと理解しました。
- ・ 公募のみだと意見に偏りが出る気がする。
- ・ 交流ができて良かった。

⑩参加者の構成（多様な年代）は適切だった



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください（複数選択可）。

項目	回答者数
知識や意識の違いを感じた	3
話したい話題が異なった	2
同じ世代、年代の方と話したかった	1
その他（自由記述）	5

「その他」回答内容

- ・ 女性、若い人(学生)の意見をもっと聞くべきと感じた。
- ・ もっと若い世代もいてほしかった。
- ・ 開催時間が平日 18 時からのもので、2050 年のことを議論しているのもかかわらず、高齢者が多かった。
- ・ 結局一部の人が話したいことを話して終わっていたので。
- ・ 年齢構成については、外見で判断することを前提とする設問であり、的確な判断は不可能である。設問に疑問を感じる。

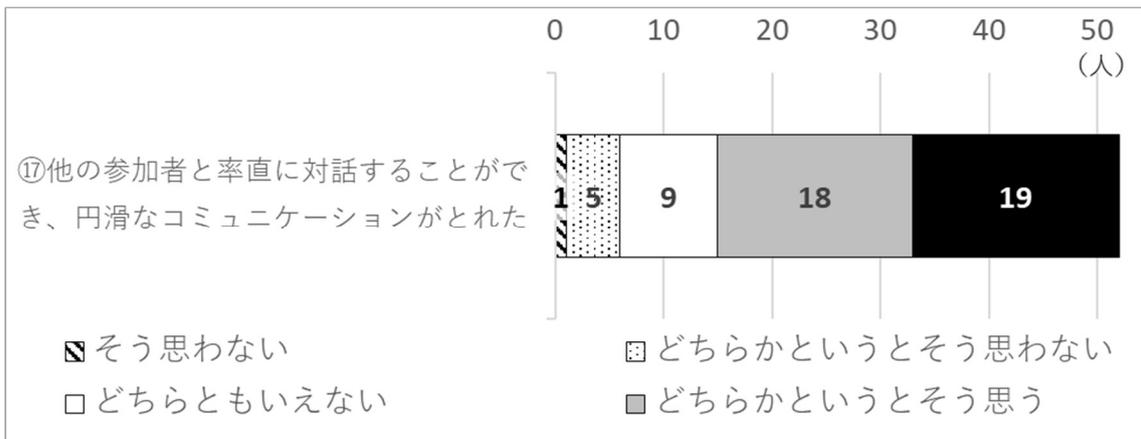
「4、どちらかというと思う」

「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください(自由記述)。

- ・ 世代ごとに思いもしない意見が出てきて、偏りのない意見収集ができたと思うから。
- ・ 年上の方から年下の方までいらして、多様な考え方に刺激を受けました。
- ・ 年代別で見事に振り分けられていましたし、考え方も必ずしも一方向でなくて興味深かったです。
- ・ 年代構成がばらばらで様々な意見を聴くことが出来た。
- ・ 年代や立場によって考え方が違い、気付かされることもあるから。

- ・ ジェネレーションギャップはあってもよい。討議が深まり結果オーライである。
- ・ 世代の違いにより、対応も違ってくる可能性もある。
- ・ 年配者の経験と、若年者の変化への意識が、のどちらも意見に反映することが出来るから。
- ・ 各年代の意見を聞くことができたため。
- ・ 多様性が確保されていたから。
- ・ 幅広く意見を交換することができた。
- ・ 若い方の問題意識を知ることができて楽しかった。
- ・ 高校生など多岐にわたる年齢層の方がいたから。
- ・ 昭和中盤、昭和後半、平成とで、武蔵野市での生活経験や市の発展等による様々な意見交換ができた。
- ・ 全体として武蔵野市民の年齢構成、性別に近いということだったので良いのではないかな。
- ・ 普段会話することのない世代や職業の方と出会えていろいろな意見がきけたが、まちのことをよく知っているであろう主婦が少ないようには感じた。
- ・ 様々な年代の方と同じテーマでディスカッションするのは新鮮でした。上の年代の方の気候変動に対する危機感を肌で感じることができ、とても有意義な時間を過ごせました。
- ・ 年代は様々でよいと思います。
- ・ 意見の多様性が生まれた。
- ・ 年代をあえて合わせて意見の世代差が出ても面白かった。後でグループを混ぜるなど。
- ・ 適切だと思う。
- ・ 同じグループに高校生もいて、日常あまり接する機会がないので良かった。
- ・ いろいろな方の意見を聞くことが出来たと思う。
- ・ 若い世代から主婦層まで自分の周り（30代ビジネスマン層）ではなかなか聞けない話が聞けて参考になった。

⑰他の参加者と率直に対話することができ、円滑なコミュニケーションがとれた



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください（複数選択可）。

項目	回答者数
自分の意見が言えなかった	2
ファシリテーターとの対話になった	1
他の人の意見を聞くことができなかった	1
その他（自由記述）	11

「その他」回答内容

- ・ 同じ人が話し続けていた。
- ・ 話が長くなる傾向の方もいたため。
- ・ 長く話す人がいる。
- ・ できた人もいればそうでない人もいたように感じた。
- ・ 1人の人がしゃべりすぎる。
- ・ 議論の時間が短く、コミュニケーションの段階まで至らなかった。
- ・ 自己主張の強い高齢者がいたため。
- ・ 私のグループのファシリテーターはとても素晴らしい人であったが、最終の回での移動先のファシリテーターは知識も少なく、ファシリテートがうまくいっていないため意見も吸い上げは少なかった。
- ・ 対話という形式ではなく、一方的な発言が奨励されたように感じられ、対話形式にはならなかった。意見交換により、考えを新たに形成することはできなかった。

「4、どちらかというと思う」

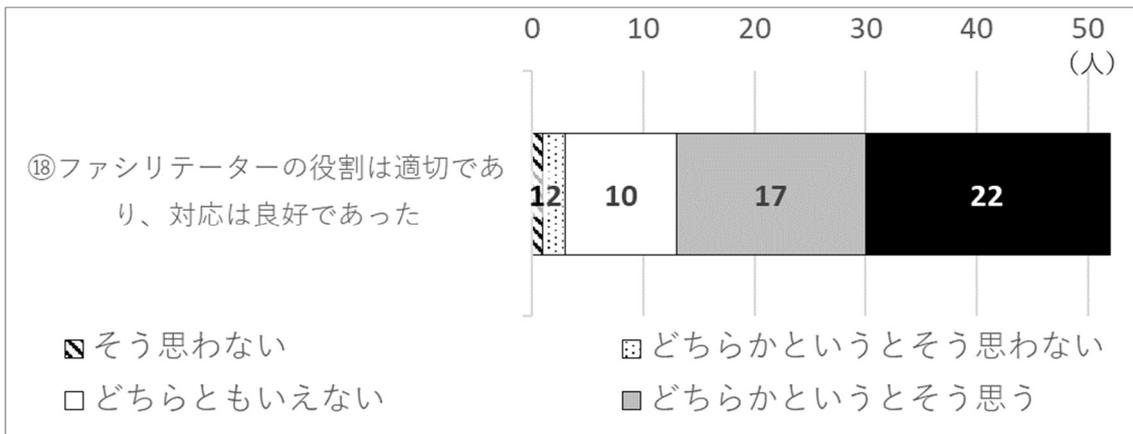
「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください（自由記述）。

- ・ それぞれが積極的に発言され、取りまとめ役の方も参加者すべてから毎回意見を拾

っていたから。

- ・ みなさん温かい方で、話しやすかったからです。
- ・ やっとそれぞれの参加者の考え方が分かってきたところでした。
- ・ 人数が適切だったため。
- ・ 皆さん気持ちよく話し合いができたと思うからです。
- ・ 小異を認めながらも大同目標に共感できるようになった。
- ・ 参加メンバーが、自由に意見交換が出来ていると感じた。
- ・ ファシリテーターの方が上手く、運営していただいたので。
- ・ 話す時間が短すぎると感じましたが率直に対話できました。
- ・ みなさん武蔵野市の会議に出ることを楽しんでいらっしやるように感じた。
- ・ みんなと話げできた。
- ・ 発言を否定する人がいなかったから。
- ・ お互いの意見を良く聴くことができた。
- ・ 司会の方がしきってくれていたのでやりやすかった。意見を言いやすかった。
- ・ 対面の会議だったこと、参加者はオープンマインドだったことによる。
- ・ 自分のチームだけかもしれないが、うまく会話をリードしてくれる方がいて、会話を受け入れる雰囲気があったので。
- ・ みなさんいい方でよかったです。
- ・ そうではないグループもあったようなので。
- ・ 皆、きさくな方でよかった。
- ・ 自由に議論すると言うよりはお互いの意見を聞くという感じだったが、円滑だったと思います。
- ・ 友好的なメンバーが多く、すぐにLINEグループをつくり、交流していた。

⑩ファシリテーターの役割は適切であり、対応は良好であった



「1、そう思わない」

「2、どちらかというと思わない」

「3、どちらともいえない」を選択した方は、そのように考えた理由をお選びください
(複数選択可)。

項目	回答者数
時間ばかり気にしていた	4
発言を遮られた	0
等しく発言させてもらえなかった	0
意見を引き出してくれなかった	4
その他 (自由記述)	8

「その他」回答内容

- ・ 意見が散乱するのをまとめきれなかった感がありますが、それはそれで仕方ないかなと思います。大変だったと理解しています。
- ・ やや掘り下げが足りない。
- ・ ファシリテーターのかたの口癖が「でも (否定的な響き)」だった。ブレストを活性化するには否定的な響きの言葉は禁物だと思う。
- ・ 市役所の都合を話されると意見が出しにくくなる。
- ・ 各回のまとめ方を見ると、グループによって異なった。ファシリテーターの個性が出ていて、それは結構だが、固定化していたのは残念。毎回ファシリテーターが変わっても良かったように思う。
- ・ グループによってだいぶ変わると感じた。私のグループのファシリテーターはとても能力のある方で信頼できる方でした。
- ・ 議題の進め方につき、参加者の意見をよく聞くことへの熱意が感じられなかった。

「4、どちらかというと思う」

「5、そう思う」を選択した方は、そのように考えた理由をご記入ください(自由記述)。

- ・ やや時間管理の配慮が足りず、時間切れになってしまった回があったから。
- ・ 意見を促したりまとめていただいたりしたので話しやすかったからです。
- ・ メンバーの取りまとめなどが良かった。
- ・ 一生懸命時間内にまとめて、明るく適切に動いて頂いていたと思います。
- ・ ファシリテーターは大同を見据えて頑張っていたと思う。
- ・ 参加メンバーが和める雰囲気づくりをされ、制約された時間内で取り纏めされていた。
- ・ 広く意見を収集するように、働きかけて頂いた。
- ・ ファシリテーターがスムーズな進行をリードしてくれていました。
- ・ 特に後半回は円滑になるようにファシリテートしてくれていた。
- ・ 感謝してます。
- ・ 参加者人員に意見を求め、それに対するコメントをして、意見を引き出していた。
- ・ メンバーの意見を引き出し、グループ内で自由に会話ができ、まとめることができた。
- ・ ファシリテーターがいることで話し合いしやすかったし、円滑に進んだと思う。
- ・ 話過ぎず、参加者みなが参加しやすくして下さった。
- ・ ファシリテーターにもよるが、概ね受容的で会話の流れを作ってくれたので。
- ・ まとめてくださりありがとうございました。
- ・ 全員に適切に意見を求め、しっかりとまとめて頂いた、素晴らしかった。
- ・ 親しみ易くて話がしやすくグループの雰囲気がとても良かった。話をまわす、多様な意見を引き出すといった面では技術的に不足がありファシリテートは外部から専門の人を呼ぶ方が良いと思う。
- ・ よく意見をひろってまとめて下さり、方向性を示していただけました。
- ・ 皆に気遣いしながら頑張っていた。

Q 4. 得られた成果（学んだことなど）について

次の項目について、あなた自身の感じ方に近いもの（5段階評価）を一つずつ選んでください。



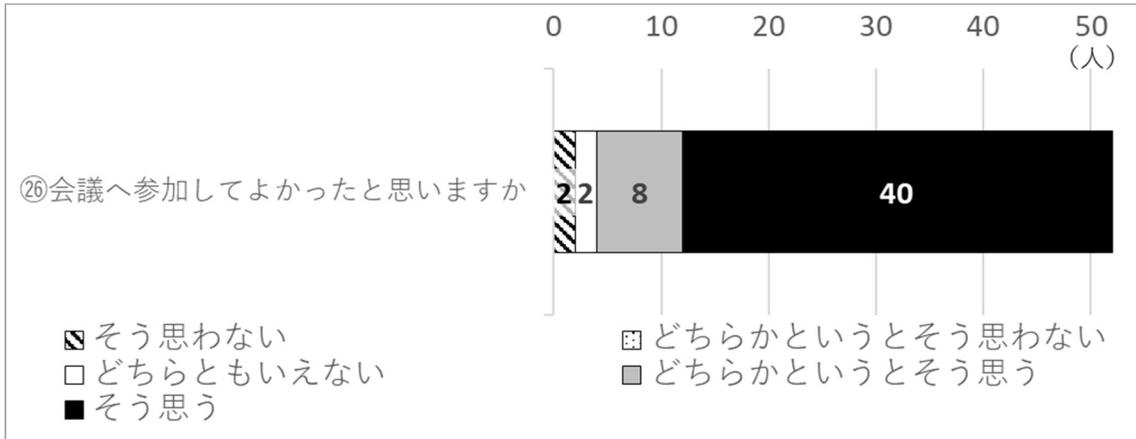
回答に補足（その評価にした理由など）があればご記入ください。

- ・ 日々の生活の中でいかに気候変動リスクを抑えることができる諸点があるか実感したから。
- ・ 行政にすべて任せるのではなく、市民も主体的に活動に参加し、意見を述べ、行政を動かすことも必要だと感じました。
- ・ 年齢と、気候危機への危機意識が反比例している印象が強い。そのことに危機感を感じた。
- ・ どうしたら関心のない方、反対意見をお持ちの方に関心を抱いて頂けるのか理解する場となりました。また若い方が真剣に考えているということに感動しました。それが広まって行けばよいのですが。
- ・ 気候温暖化に関する理解が深まり、更に関心深めることが出来た。
- ・ 参加者の意見を貼った模造紙を立て、改めて意見を抽出する事が出来ればより良い成果が得られたと考え方えました。
- ・ 気候変動に関するニュースなど積極的に見るようになった。この様な機会を全ての市民に与えれば個人の意識は格段に上がるはず。幼い子供のうちから意識させる取り組みをお願いしたい。
- ・ 意見を聴いただけでなく、具体的政策と施策の実行が図られるようになってもらいたい。市民は見ているぞ。
- ・ 家庭内でできること、身近にできることが具体的になった。
- ・ 気候変動対策について個人で出来ること、行政に期待すること、が整理され、後者については、今後の市の行政運営への反映を期待しています。
- ・ 元々気候変動に関心が高く自分のやれることも実践していたが、他にできることを考えるきっかけになった。
- ・ 参加した人だけでなく、市全体、日本全体に広めるために何が出来るかをもっと考えていきたいし、展開していきたい。
- ・ 成果はありましたが「市民一人ひとりの行動」にとどまってしまうことが多かったです。社会として動かなければ解決できない問題です。個人ではなく市でできることは沢山あり、直ちにやるべきです。
- ・ 市民の方々が脱炭素に関してどれくらいの知識を持っているのかがわかった。
- ・ 2030年に、先ず武蔵野市から一步でも変わらなければ、2050年は無い。
- ・ 市民の動機付けには、行政の役割が非常に重要であると思った。
- ・ 武蔵野市の環境への取り組みや意欲を知ることができた。「一市民として白紙で」会議に参加したいと思ったので、第5回会議が終わるまで気候市民会議に関する他の取り組みについて調べないようにしていたが、第5回終了後に札幌、川崎、所沢での取り組みを調べて、気候市民会議の重要な意義を再認識した。今後の大きな流れになると感じた。
- ・ 取組内容や課題が時代によって変わるので、常に情報をキャッチアップしていくことが重要と感じた。

- ・ 気候市民会議は武蔵野市民の行動変容を促すために何をすべきか市民が主体になり話し合う場だと考えている。市民の一人一人がゼロカーボン達成のために何をすべきか、講義を聞いて参加者が理解したとしても 68 人の発信力に期待をするのは間違っている。会議で各々が学んだことを会議の成果と位置づけていることも間違っている。市民を集めて教育する事が目的ならば、参加者を環境大使にして武蔵野市のキャンペーンに利用すれば良いと思う。適切に広報に力を入れて活用すれば会議で学んだことを市民に伝えて当事者として広めてくれるでしょう。
- ・ 気候変動問題に興味が少なく、自分の利益や損得で物事を考える人が多いことが学びであった。本当に気候危機を感じて行動に移したいと考えている市民の少なさが印象的で、行政は市民の思考転換にもう少し力を入れていく必要があると感じる。市長の気候危機打開宣言やフェアトレードシティ宣言など、武蔵野市としてどのようなディレクションを取るのかを明確にして欲しかった。市民の意見を聞きます、で終わらないで欲しい。
- ・ ゴミ削減
- ・ ⑱からすべて、どちらともいえない、にしました。ゲストティーチャーはそれぞれの良い知見をお持ちだが、BEVの先生に端的に表れているように、また別の知見もある、一人一人が自らも様々に学んでいくべき。
- ・ 気候変動問題の問題設定自体が、不十分であり、視点をさらに検討する必要があると痛感した。また、議論の前提となる事実認識が不正確で、まずもって、その点をも議論すべきであった。議論の前提条件の検討が不可欠であるが、この点の議論が全くなかった。まとまりのない議論に終始していた。議論の進め方についても、市民の意見を聞くことが全くなく、押しつけの会議内容であり、市民会議の名にふさわしくないとと思う。これでは、従前の審議会方式より悪い形のように思われた。審議会方式からの脱却を望んだが、それもなされなかった。これらの基本的な視座が不十分な議論には疑問を感じる。さらに、まとめができるような段階に至っていないにもかかわらず、報告されるのは、不適切であると思う。現段階では、アンケートによる結果報告に過ぎないのではないか。残念である。市民会議の名にふさわしくないとわざるを得ない。

Q 5. 武蔵野市気候市民会議の満足度について

⑳会議へ参加してよかったですか



武蔵野市気候市民会議において満足できなかった点をお答えください（複数選択可）。

項目	回答者数
市の情報提供	11
グループ討議	18
ゲストティーチャーの講演	12
会議の運営	15
その他（自由記述）	13

「その他」回答内容

- ・ この会議の結果を踏まえ、どういった施策をするのかまで考え、市民もその活動に携わることができたら良かったです。
- ・ 最後の回にグループをシャッフルしたが、あれはもっと早くから行い、多様な他者と異質な意見をぶつけたほうが良いとも思いました。
- ・ 市民の意見に対する行政からの意見も聞きたかった。
- ・ オンラインで参加しており、質問をするために手を上げたが、見落とされてその時は質問ができなかった。
- ・ 次の展開が今一つ明確でなかった。
- ・ とにかく時間が少なすぎた。また、武蔵野市がどのようなアウトプットを得たいか、それをどのように政策に生かそうとしているのかがはっきりしていなかったのが残念だった。第4回、5回あたりで漸く見えてきた感じだった。
- ・ 気候危機解決への貢献度を考えると満足できない部分があります。
- ・ 市民会議の目的設定、討議の内容。
- ・ 不満ではないが、もう少しじっくり講義を聴きたかった。
- ・ これから市政にどう反映されるか。

武蔵野市気候市民会議において満足だった点をお答えください（複数選択可）。

項目	回答者数
市の情報提供	21
グループ討議	29
ゲストティーチャーの講演	32
会議の運営	15
その他（自由記述）	6

「その他」回答内容

- ・ 様々な意見を聞き、討論できたこと。意識が高まったこと。
- ・ 会議自体の開催はとても素晴らしく満足のいくものであった。一方で、他の自治体で行われているものと変化はなく、武蔵野市らしい舵の取り方をして欲しいと感じた。武蔵野市として何をしていきたいのか、何を優先的に取り組むのかを知りたい。
- ・ まず、市民会議をやったという事でしょう。
- ・ 全く満足できるような内容ではなかった。

武蔵野市気候市民会議に継続して参加できた理由をお答えください（複数選択可）。

項目	回答者数
環境問題に関心があったから	42
人と話し合うこと自体に関心があったから	19
脱炭素社会に向けた取組に貢献できるから	23
気候市民会議という手法に関心があったから	28
武蔵野市の未来を考えていたから	24
議論がどのように反映されるか関心があったから	18
新たな知識や教養が得られたから	27
時間に余裕があったから	6
謝礼が出たから	6
その他（自由記述）	5

「その他」回答内容

- ・ 問題解決に貢献したいから。
- ・ 武蔵野市の取り組みをきっかけに脱炭素について市民が考えることが全国に広まると期待したから。
- ・ 新たな知識や教養が得られると思ったから。
- ・ 議論の進め方に改善が加えられることを期待したからである。途中から情報提供の方式が変更されたことには、失望した。

Q 6. 武蔵野市気候市民会議を通じて、わたしたちが脱炭素のまちを目指す上で積極的に進めるべき気候変動対策に対する考えの変化や、新たに考えたことまたは実際に取り組み始めたことについて

武蔵野市気候市民会議を通じて、わたしたちが脱炭素のまちを目指す上で積極的に進めるべき気候変動対策に対する考えの変化や、新たに考えたことまたは実際に取り組み始めたことなどがあればご記入ください。

- ・ 物価高も手伝って、余分なものはほとんど買わなくなった。
- ・ 環境問題に関心のない市民に意見を押し通すのではなく、そういった市民も楽しく参加できる仕組み作りを行い上手く巻き込むことが必要だと感じました。個人的には、この会議を通して、節電・ごみの分別に関して、今まで以上に意識するようになりました。この時期暖房を使っていましたが、厚着対策をして、今年はまだ一度も使っていません。プラスチックゴミも今まで以上に分別をしっかりと行い、燃えるゴミの量が20Lから10Lの袋で足りるようになりました。また、会社にもセミナーレポートを出し、少しではありますが、周りの方の環境への意識を高める活動をしました。
- ・ もともと行っていた自宅で作るバイオマスのコンポストの頻度を増やした。武蔵野市のコンポスト購入費助成制度を教えていただいたのが良かった。
- ・ 大学の講義で参考にさせていただきます。学生に広く関心を持ってもらえるよう誘導していきたいと思います。
- ・ 我が家の新築を計画していますが、周辺の集合住宅の新築工事が始まっており当方の工事時期に苦慮しています。
- ・ 会議に参加して気候変動のニュースを積極的に見るようになりました。このような機会を全ての市民に与えれば格段に意識が上がるはずです。幼い子供のうちから気候変動の問題を意識させる教育や取り組みが必要かと思います。言うだけは簡単ですが実際に行動するのは大変ですが少しずつでもはじめて頂けたらと思っております。私が知らないだけでもう始まっていたら失礼しました。
- ・ 「武蔵野方式」といわれる具体的取組施策の発信が市民参加の成果物として見えてほしい。特に「公共交通」での提案。
- ・ 受け身ではなく、日々の生活の中で、買い物の無駄を省き、節電など些細なことから実行しています。
- ・ 気候変動に対して個人で出来ることについて、多くの市民が取り組むための動機付けが、課題であることが認識できた。また、なんでも税金を投入すればいいわけではないので、炭素税等、負担についても検討すべきだと思います。
- ・ 討論できたことは良かったが、武蔵野市のより一歩進んだアクションに繋がる意見を提示できたかが心残りとなりました。身近にできることや無理なくできることを考えていたら進まないため、もっと踏み込んだことをしていかなければならないと痛感しました。

- ・ 断熱などの省エネ活動。
- ・ 現在住んでいる賃貸住宅の断熱リフォームをできるかと大家さんに聞いたら黙殺されました(補助金があると知らせて家賃を上げてもいいよといったのに)。こんなことについて、市が個人に委ねずに責任を取って義務化して下さらなければ何も変わりません。
- ・ 家電を省電力にすることや、グリーンエネルギーへの切り替えをすすめることの重要性を認識できた。順次切り替えたいと思う。
- ・ この取り組みを会社の気候変動のコミュニティと共有して、知識向上につなげている。
- ・ ごみの分別をより緻密に行うようになった。新しい物を購入する際、素材やつくられた過程を調べて選ぶようになった。自転車を積極的に利用するようになった。
- ・ 脱炭素の施策への積極的な対応。
- ・ 武蔵野市民であることを改めて感じ、自分自身の行動を見直すと共に、市民として何ができるか考える機会となりました。
- ・ ペットボトルを買わない。武蔵野市の水道水を飲む。車に乗らない。自転車、バス、電車利用。
- ・ 住の脱炭素化はインパクトが大きいと思い、太陽光導入の検討を始めた。
- ・ エアコンの温度を気にしながら生活できるようになった。また、移動手段を歩きや自転車に変えるといったことをしている。
- ・ 気候変動予測や影響・適応策、温室効果ガス排出量については理解していたが、市民レベルでの緩和策(エネルギー問題を含む)や気候市民会議という合意形成手法の重要性についての気付きがあった。
- ・ 脱炭素に向けては節約や我慢というネガティブイメージが強かったが、ポジティブシンキングで対応できる可能性が見えたことが一番大きな収穫だった。また、主婦(自分)は足元の政策を考えがちだったが、世代や性別が違うことで目の付け所が違ったので、気候市民会議は武蔵野市にとって有意義だったと思う。環境先進都市として有効かつ先駆的な政策を期待したい。
- ・ 今回様々な専門家やテーマを通じて、環境問題の枠組みに留まらず、様々な業種業態(住宅、交通、ファッション、食など)とコラボレーションすることで環境問題の解決が促進される可能性があると感じた。
- ・ 気候市民会議以前に武蔵野市の温暖化対策実行計画も読みましたが、建設物の造設以外は具体的な計画が見えてこなくて、この会議でソフト面の具体策が提示されたり話し合われるかと考えていました。まずは市民と企業に対する再エネ切り替えを積極的に行う必要があると強く感じました。
- ・ ゴミの削減、節電、公共交通機関の利用。
- ・ 武蔵野市としてカーボンエミッションの削減にどれくらい本気で取り組めるかが大きなポイントであると感じる。市民と企業、行政の全てで改善が必要であると感じる。着手可能な再生可能エネルギーの転換やゼロエミッションバスの導入などを早急に進めて欲しい。取り組むべき対策の価値が資本経済ではなく、気候変動にど

れだけ貢献できるかで価値を決めて実行してほしい。

- ・ 企業との腹を割った連携。
- ・ 武蔵野市の魅力を生かした取り組みを進めていく事が、結果として市民参加を促すポイントになると実感した。
- ・ 今後はお金を払っても気候変動対策をしていかなければならないと感じた。
- ・ ゴミ削減、市民活動への参加。
- ・ 会議を通じてすぐに何か変革したいということにはならなかったが、いろいろな意見がある中で、何が最適なプランか、それも基礎自治体というレベルで何をすべきかということがすごく難しいことだとわかった。大きな課題は国や世界レベルでやるべきことが多いと思うし、他方で、ボトムアップの取り組みを考えると、熱い思いをもった個人の集合体の方が強い気がする。ただし、その中でも、まちがいなく基礎自治体でやるべき何かがあるとは思ったが、それが具体的にこういうものだと言えるものは自分の中では見つからなかった。ただし、そのような課題が見つかったことが私にとっては大きな気づきだった。
- ・ 1972年に「国連人間環境会議」があった、その記録の本が私の手元にあります、この時の問題は主に「公害」でしたが先進国では改善が見られたものの、地球規模では必ずしも成功しなかった、むしろ失敗。理由はその後のオイルショック、人口増大、原発神話に見られる技術の過信、などなど。まだまだ考えるべきものは多い。
- ・ 「市民会議を通じて」とのことであるが、どのようなことを想定しているのか不明なので、意見表明に戸惑いを感じる。そもそも「市民会議」にふさわしくないと思う。

Q 7. 第 5 回武蔵野市気候市民会議への質問・追加意見

第 5 回会議における市からの情報提供へ質問があればご記入ください。

- ・ 自転車駐輪場の設置状況と適正配置について 現状を地域ごとのニーズと満足度においてどう認識し対応しているのか。
- ・ これまでも広報誌等で情報提供されていたのかもしれないが、改めて武蔵野市の取り組み状況を知ることが出来たことは、いい機会になった。
- ・ 長期計画への反映をどのように進めるかが知りたい。また、他の行政課題についても「市民会議」を今回と同じ仕立てで行うかどうかを知りたい。
- ・ 現状で市が認識している問題点/課題が知りたい。
- ・ 「一人当たりどれ位削減すればいいのか」と「具体的なアクションと CO₂ の関係」について、武蔵野市としてまとめたものがあれば教えて頂きたい。
- ・ 打開プランは、どのようなものになるか引き続き気になっています。
- ・ 武蔵野市が考えている気候変動対策の緊急度合いをあまり感じられない。市民に委ねられている形で、もう少し行政が気候変動対策に啓蒙をする必要を感じる。

第 5 回会議におけるグループ討議結果に対する追加の意見があればご記入ください。

- ・ 参加者との距離が有り、意見が聞きとりにくかった。
- ・ 再エネ電気購入に重点を置いた説明をしたが、その他の行動の積み上げも重要と考えている。行動 1－3 6 について「具体的なアクションと CO₂ の関係」の欄をアンケート取りまとめの「行動ごとの平均点」に追加して頂けると、報告書作成や懇談会の議論に生きると思われるのでご検討頂きたい。
- ・ ファシリテーターの能力によって市民の発言内容の濃淡が大きく変化していると感じた。ファシリテーターの格差をととも感じました。

第 5 回会議におけるグループ討議に対する感想(共感したこと、わからなかったこと、違うと思ったことなど)をご記入ください。

- ・ 脱炭素化行動として 1 次原因ばかりでなく 2 次・3 次原因まで掘り下げて対応策を考えたいが。
- ・ グループ討議に車の役割を絶対に減らさないでほしい声がありました。こんな人に、自家用車の利便性を下げること、渋滞が逆に緩和する証拠を挙げるのが大事だと感じました。海外では事例が多く、「induced demand」として専門家間の常識になっています。
- ・ いろんな世代の方がいて、はっとするような考えを発言され、気付かされることがあってよかった。
- ・ 他グループのメンバーと意見交換ができ良かった。
- ・ とにかく考える時間が足りなかったので、あらかじめ情報を提供し、何を話し合うのか伝えておいてほしかった。

- ・ 第四回目くらいで他のグループメンバーと話せる機会があるとよかったと思います。最終回なのにこれまで共に話し合ってきたメンバーとまとめができなかったのは心残りです。
- ・ 私は再エネをまず推進すべきと思う。市場の拡大にも市場の法整備にもつながる。たくさんアイデアは出たけれど、どうすればそれらを武蔵野市民が喜んで取り組むかという事にフォーカスした話し合いが必要。
- ・ 気候変動対策に効果的な意見は少なく、損得でなにができるかを話し合う時間で残念に感じた。

Q 8. 武蔵野市気候市民会議全体に関する意見や感想

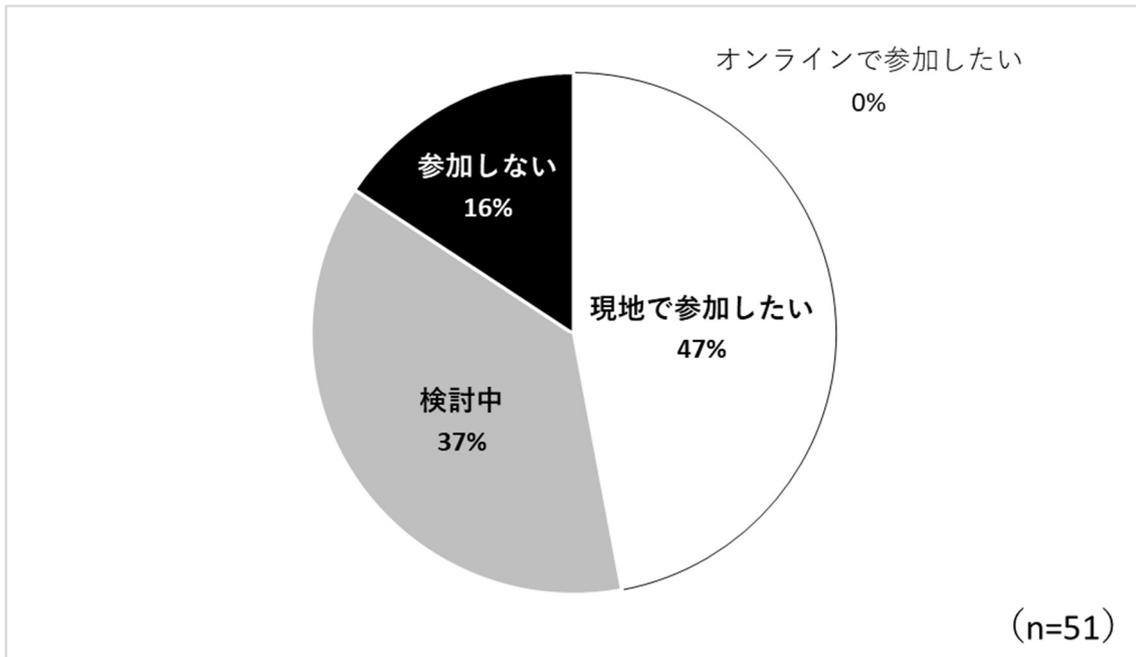
その他、武蔵野市気候市民会議全体に関する意見や感想があれば、自由にご記入ください。

- ・ 今後の活動にも関心があります。また、ずっと活動を一緒にしてきた同じグループの方と直接お会いしてお話できたら嬉しいです。
- ・ この会議の成果をぜひやりっぱなしでなく、1つでも2つでも具体的に政策に繋げて欲しいです。若い方がとても良いアイデアを出されていたので、実現に向けて真剣に対応頂きたいと思います。
- ・ エコ re プートの建物の説明があればお聞きしたかったです。会議中少し無駄な時間もあったような気がします。しかしながら市役所の方々ご苦勞様でした。とても熱心に親切に頂きました。ありがとうございました。
- ・ 討論回数や時間が短い。活動内容が決まったとしても中途半端で表面上のものになるように感じる。
- ・ 先に何回も申し上げたとおり、個人の行動ではなく市としてみんなで取り組むアイデアに集中すべきだったと思います。従って、会議員で条例案などを作ってインパクトと好意度を測ってほしかったです。
- ・ とても有意義な会議に参加させていただき、ありがとうございました。市の職員のみなさまのお骨折りに感謝いたします。
- ・ このようなイベント開催ありがとうございます。脱炭素のパイオニア自治体として推進して頂けると助かります。よろしくお願いします。
- ・ 市民会議というアプローチは他のテーマにおいても実施いただけると良いと思いました。
- ・ 武蔵野市が温暖化防止に動いているということが、市民に見えるのが大切だと思う。
- ・ 話し合う時間が少なかったが、短時間でもかなりの情報を得ることができた。また、意識改革もかなりできたと思う。
- ・ 「方針2 地域における効率的なエネルギー活用 主な取り組み 家庭における効率的なエネルギー活用」の「①気候市民会議の開催と気候危機打開武蔵野市民活動プラン(仮称)の作成」へのアウトプットのみを求めているのか、②～⑥を有効に活用するための意見を求めているのか、それとも2050年ゼロカーボン実現に対する意見全般を求めているのかがはっきりしないので第4回頃まで(あるいは第5回も)進んでしまった。方向づけをあまりしない生の意見による「たからの山」は残ったが、それを磨き上げる市の担当者の皆さんは大変だと感じる。報告書案作成や懇談会が大変重要になると感じている。
- ・ 私にとっては新しいことを知り、他の方の意見を聞けて、とにかく楽しい会議でした。懇談会で意見が出尽くすとは思わないので、定期的に経過とその結果を知っていきたいです。ありがとうございました。

- ・ 会議参加者の行動変容を促す、ではなく市民全体をどう行動変容を促し気候変動解決に導くかを考えるものとして期待していました。
- ・ 初めに考えていたような内容(フランス、川崎などの市民会議)とは違っていました。この会議を経て何か成果が出るのか疑問です。「手をよく洗おう！」的なスローガンだけにならないことを願っています。
- ・ 高齢者中心のメンバー構成やグループの固定を見直して頂きたい。
- ・ 企業の対策を含めた気候変動打開解決案を一刻も早く作成し、実行に移して欲しい。
- ・ ゴールを持って会話を継続したため。
- ・ 今回の取り組みをどう今後につなげていけるかが大事だと考えます。まずは具体的なアクションの策定や計画化と、実行に向けた仕組みづくりがポイントになると考えます。かたちに拘らず、今後も市民参加や議論の場を設けて頂ければと思います。
- ・ 取組そのものに新鮮さを感じて参加した一方で、市民レベルで行動変容を起こすためのアイデアを出すことの難しさも感じました。気候変動のために本当にインパクトある行動とは何なのかが最後まで分からなかった。引き続き勉強していきたいと思っています。
- ・ 最後の回でシャッフルはよくなかったかもなど少し思った。せっかく同じチームで仲良くなっていたので、最後はもともとのチームが良いかなと思いました。シャッフルするなら、途中の回が適切だったかなと思いました。

Q9. 懇談会（令和5年1月22日（日）開催予定）への参加意向について

懇談会への参加意向



懇談会において話し合いたい内容・テーマがあればご記入ください。

- ・ 空き家の有効利用と町の活性化 ・ 市民の不要家財等のリユース、シェア、交換等のインフラ整備。
- ・ 活力ある老人の有効な人材利用など。
- ・ 脱二酸化炭素ガスの方法論と、実現可能な切り口をテーマにして下さい。
- ・ 改めてのゴミの分別方法についての理解。
- ・ 温暖化対策としての植物の効果について。
- ・ 友好都市との交流で温暖化に向けて何ができるのか。
- ・ 武蔵野市民が日常生活で普段・不断にできる生活変容は何か。
- ・ 市民が日常生活の場で出来る「行動基準」の選定、及びその「行動基準シート」の作成。
- ・ 今後も気候市民会議の輪を継続していくための機会について。
- ・ これまでの議論内容が今後の市の活動内容として十分に議論され、参加者が納得したものになるのかどうか。
- ・ 不協和音と思われるだけで、取り上げられないことが必定な不寛容な事務局なので、参加を差し控えます。
- ・ 会議後に実際に取り組み始めたこと ・ 家族や知人の反応について。環境問題に関心を持たない人に、CO₂ 排出量を減らすメリットをどのように伝えたらいいのか。
- ・ 現地参加になるとオンラインのメンバーには会えないのでしょうか。場合によ

ては、オンラインでの参加をお願いします。

- ・ 気候市民会議の開催と「気候危機打開武蔵野市民活動プラン」によって削減しようとするCO₂の量、そのための行動（現在～2030年～2050年）、それを実現するための武蔵野市の政策（②～⑥との関連も）、東京都や国や事業者に働きかける武蔵野市のアクションと市民が行うことのできる支援、など。
- ・ 打開プランについて。
- ・ 行政、市民が具体的に取るべきアクションについて。
- ・ どうすれば武蔵野市民がすすんで気候変動対策に取り組むか。
- ・ 今回の議論を踏まえて、武蔵野市がどのようなことを考えているのかを聴きたい。
- ・ 市政に対し今後の展開。

武蔵野市気候市民会議 実施の記録

令和5年2月発行

発行 武蔵野市環境部環境政策課

電話 0422-60-1945 (直通)